

本讀部字



防長古圖



防長古図について

写真版は1600年(慶長5)ごろに書かれた山口県の地図。藤曲・中山・広瀬・祭波などが海岸になっており、竹の子島が海の中にあり、厚東川が広瀬(厚東村)でまがって海にはいつている。海の中に砂のおかができ沖の山(今の東区・西区の市街地)となっていることがわかる。この地図は、毛利輝元が兼重元統・蔵田元連の2人に命じ、周防長門2国の生産高を調べて、土地に石高を書きしるしており、合計して防長2国で298,481石2斗3合としている。この險地震のできた年に輝元は關が原の戦でやぶれ、領地を防長2国にへらされている。財政の苦しきから、瀬戸内海のお浅を利用して、海開作(干拓)をおこし、水田や塩田をつくったことが、今の山口県地図とくらべてみると、よくわかる。自然がどのようにうつりかわり、人間が自然をどのように利用したかを調べる大事な地図である。

(もとの宇部領主福原家にあつた地図を川上の紀藤開之介氏があずかっておられる。)

右上の地図は、1782年(天明2)ごろに書かれたものうち、宇部附近を写したものである。写真版の1600年ごろとくらべて、180年あまりの間に、土地がどのように変つてゐるか、また今とどのように変つてきてゐるかがわかる。沖の山は陸つづきとなつて松が植えられておる。藤曲が海からはなれ、犬の尾(今の吾能)や浜田ができてゐる。広瀬のところをまがって海にはいつていた厚東川の川すじはつくりかえられて、新開作(今の上開作)ができてゐる。上開作のできたのは1782年(天明2)であり、中野・妻崎は海べになつており、竹の子島ははるかに海上にある。その後、1782年(天明6)に中野開作ができ、1807年妻崎開作・1859年妻崎新開作ができて、はじめて竹の子島が陸つづきになつたのである。(紀藤開之介氏所蔵)

宇部市地図



- | | |
|---------|-------|
| 凡 | 例 |
| --- 境界線 | △ 炭 鉱 |
| --- 鉄道線 | ○ 神社 |
| --- 市役所 | ○ 寺 |
| ○ 市役所 | ○ 学校 |
| ○ 学校 | ○ 電線 |
| ○ 電線 | △ 三角点 |
| ○ 三角点 | △ 標高 |
| ○ 標高 | △ 標高 |
- 主計課の図幅は20cm
計測の精度は100分

縮尺 1/50000
(1cmは地上距離500m)

同防灘

市制三十周年

字部讀本

1951

はじめのことば

私たちの住む宇部市は、大正十年十一月一日、村からひととびに、市となって、今年でまる三十年になりました。この市制施行三十周年を記念して、各種の行事が催されたのですが、その一つとして、この「宇部読本」のことが考えられました。

私たちの郷土宇部市は、どのようにして発展してきたのでしょうか。私たちの生活している宇部市は、どのようになっているのでしょうか。私たちの愛する宇部市は、どのように進んでいくのでしょうか。こうしたことがらを、学んだり、調べたりするわかりやすい本をつくってみようということになりました。

そして、市内の学校の先生方が、力を合わせ、非常な苦心をされて「宇部読本」ができあがったことを大へん喜んでいます。この本を読むことによって、私たちの祖先や先ばいの方々の汗と努力をしのび、よい宇部市民として、またよい日本人として、世界に仲間いりのできる立派な人になっていただくよう、心からお祈り致します。

昭和二十六年十一月一日

宇部市長 三 隅 順 輔

「宇部読本」を読まれる方々へ

- (1) この本は、宇部市制三十周年を記念して、編さんしたものです。
- (2) この本を編さんした「ねらい」としては、次のようなことが、あげられます。
- (イ) 宇部市が、どんな自然のもとで、人と人がどのように結ばれて、つくられているかを考える。
- (ロ) 宇部市のことを調べることによって、山口県・日本・世界のいろいろなことを調べてみる。
- (ハ) 宇部市の本とうの姿を知って、よい宇部市民・よい日本人となる。
- (ニ) 図表や統計をもとにして、考えてみる態度をつくり、今後のことは、これをもとにして自分で調べてみる。
- (3) 市内の小・中学校の先生方が、自分の教育経験をもとにして、幾度となく集まり、市中をかけまわって、十分に調べたのですが、小学校から中学校までの生徒を対象にしたので、あらわし方に大へん苦心したのと、大体百ページくらいにおさめようとしたので、材料の十分の一くらいしかのせられなかったのは残念でしたが、先生方の指導と、読む人などの今後の研究で補ってください。
- (4) 宇部市を調べるために、古い本や資料または年をとられた人などのお話が、とても大切な有難いものでありました。
- 編さんに力をいただいた委員の先生方や、援助を与えていただいた方々に皆さんと共に、心からのお礼を申し上げます。

昭和二十六年十一月一日

宇部市教育課長 河 合 宣

も く じ

防 長 古 岡 はじめのことば…市長 三隅 順輔
「宇部読本」を読まれる方々へ……教育課長 河合 宣

1 宇部の人たちは自然を、 どのように利用してきたか …………… 1			
うつり変る自然… 1	陸をつくりだした人間のちから… 3		
水を生かす人間のちから… 9	山口県の気象統計 …… 18		
2 宇部の石炭は、 どのようにして掘り出されたか …………… 22			
地質的にみた宇部炭田… 22	開発の始め …………… 23		
なんばの発明 …………… 24	むしわくの発明 …………… 26		
蒸汽ポンプ・電力の時代 27	海底炭鉱を掘るすぐれた点 28		
ダブとツボヌケ …………… 29	災 害 …………… 30		
3 宇部の産業は、 どのようになっているか …………… 32			
宇部の人口と職業 …………… 32	工 業 …………… 34		
農 業 …………… 36	漁 業 …………… 42		
働く人たち …………… 43			
4 宇部の経済生活は、 どのようになっているか …………… 44			
企 業 …………… 44	商 業 …………… 48		
金 融 …………… 50	家 計 …………… 52		

5 宇部の政治は、
 どのように行われているか 54

政治のうつりかわり 54 市 議 会 60
 行 政 63 司 法 (組 織) 64

6 宇部の交通、通信は、
 どのように開けたか 66

道路と橋 66 陸の乗物 69
 宇部港 71 通 信 74

7 宇部の人たちは、
 どのようにして安全を保つたか 75

身体のみもり 75 災害とのたたかい 83
 安全な生活 88 犯罪よりのみもり 91
 生活のみもり 93

8 宇部の文化は、
 どのように発展してきたか 96

昔のあと 96 教 育 97
 宗 教 101 生 活 103
 伝 説 107

宇部の年表 109

私たちの住んでいるこの市に対して、
 どのように考えなければならぬか 118

宇部市地図

宇部近傍地質図

(表紙は工業地帯、裏表紙は古い炭鉱をあらわす) 佐野益男

宇部の人たちは自然をどのように利用してきたか



厚東川ダム

うつり変る自然

今の宇部の市街地・会社・工場・大部分の田などは、みんな海であった。1942年(昭和17)の風水害の時、海水におおわれた土地は、昔の瀬戸内海のありかたを見せてくれたと云えるだろう。宇部の人たちが物をつくり出している今の大事な土地が、どうして海から陸へなったのだろうか。また海であったということが、どんなことでわかるだろうかを考えてみよう。

海をあらわす地名

- 琴崎——永和年間(1377年ごろ)形が琴のようで、潮が三方にひびき、松風の音と和していた土地であったと西の宮(今の医大の附近)から八幡宮を移す時のようすを書いた古書がある。
- 梶返——901年(延喜元)菅原道真が九州の太宰府に流された時、風をよけるために船の梶のむきをかえたところだから、ここに天満宮をたてたと伝えられている。そのころはわり海になっていたので、船がこのあたりで方向をかえていたのだろう。
- 島・浜・鵜の島・浜田(塩田または海であった土地にできた田の意味らしい)——みな海に関係がある。
- 沖の且——沖に突きでた小高い所、あるいは沖にでた土地に警備隊のようなものがあったとも伝えられている。

○際波^{きわみき}一波うちぎわををあらわしたものでしょうか。(岩に波のあとがのこっているとも言われている)

音^{おん}であらわした地名が、後にあて字をしたり、音^{おん}が変わったりする場合もあるから、地名だけで、土地のものの姿は正確にはわからないだろうが、土地のうつり変りを探る一つの方法にはなる。

昔のはまべ

いまの低い土地(沖積層^{ちゅうせきそう})を掘ると貝などが出ることや、またそこが海であったころ、今の台地となっている海岸に人間が住んでいたらしく、北迫^{きたざこ}のかきづかや琴崎八幡宮前方の堀割から古代の石器や土器が出ていることでも昔のはまべが想像できる。

陸をつくる自然

老年期の山地だったものが、次第に沈降^{ちんこう}して海になる。海は深くなったり、浅くなったりしていたが、全体としては沈降してゆく。そこに湖やぬま地ができる。その湖沢^{たけ}地に今の石炭の層ができたのが第三紀時代で、石炭層ができた後に、土地が隆起^{りゅうき}し、また沈降し、さらに隆起して、今の台地になつている洪積層^{こうせきそう}ができた。そして低い土地は海となっていた。

その後、海の潮流や風の関係で、海の砂がもり上ってきて、西岐波^{しんうら}の新浦^{しんうら}ができ、草江から助田や居能にかけて沖の山ができた。海の中に砂の丘^{おか}ができたので沖の山と呼ばれたのだろう。東区・西区の低い方はじめじめとしていて、草などがおいしげり^{しばなか}、芝中^{のなか}・野原^{のばら}・笹山^{くさやま}・草江などの地名がつけられたものにちがいない。宇部のおもな市街地^{しがいち}が田のある方からみると小高くなっており、その市街地をちよつと掘ってもきれいな海岸の砂になっている。そして今もところどころに残っている松が防風林としてもとの沖の山の全体に植えてあって、緑が浜(幕末の領主、福原越後が名づけといわれる)で遊んだおとなの人の思い出ばなしを聞いた人もあるだろう

う。

このように土地は昔のままではない。自然のはたらき(法則)によって海や陸はうつりかわっていった。しかし、このままでは、人間の役にはたたない。宇部の人たちは、物をつくり出してよい生活をするために、海や陸を新しくつくりかえていったのである。

陸をつくりだした人間のちから

封建時代の開作

周防灘の干拓地の図を見ると、瀬戸内側の沿岸地方のおもな水田や塩田は、ほとんど徳川氏が政権をとっていた時代の開作として海を陸地につくりかえられたものである。まず遠浅^{とあさ}の海に石垣をつくる、そしてその両方からだんだん潮どめをする個所に進むのである。まん中に指揮者が旗を立て「エイ・ホー」とかけ声をかけて、ドーン、ドーンと太鼓をたたき、紅白に分かれた2組に、石垣づくりの工事の早さを競争さしていたとの老人の話もある。1942年の台風は潮どめされた堤防にむかってぶつかり、とうとうくずして、水田や塩田をつくり出した昔の人たちがどんなに苦勞の多い作業をしたかが想像できるだろう。

なぜ封建領主(土地や人民を自分のものにしていくる武士のかしら)たちは開作をすすめたのだろうか。

- (1) 関が原の合戦(1600年…慶長5)に徳川氏を敵として負けた毛利藩^{りはん}は、山陽山陰10数か国120万石余の所領^{しりょう}から、周防・長門2州の29万8千石の領主になつてしまったこと。
- (2) 参観交代^{さんかんこうたい}や幕府からの強制的な工事(江戸城修築、利根川堤防築造、日光街道改修などの、徳川氏が地方の領主たちをおさえる

政策のため)の費用を出すのに苦しんだこと。

(3) 新しい領地を、武力によって広げることができなくなったこと。

そこで周防灘の遠浅に目をつけたのである。山口県民の考えをあつめて工事をおこすというのではなくて①藩有田地の増加②新田払い下げ金をもうけること③家臣の生活をたすけることなどであった。つまり住民をこやし年貢などを高く納めさず土地政策を考えたのである。そのころの生活がどんなに苦しかったかは、元禄・天明・天保などとしだいに飢饉が増してゆき、武士の政策に反抗する百姓一揆(山口県農地改革誌によると県下で25件)もはげしくなってきたており、福原氏(旧宇部村の領主)の家臣も、勤務から帰つて、夜中まで田畑の仕事をしており、家族も内職をしていたことが伝えられているのでもわかるようである。

鶴の島開作

1693年(元禄6)領主福原氏の命をうけた椋梨権左衛門俊平が助田方面の潮の出入をとめ、蛇瀬池を築き70町歩を灌漑させて新田をつくつた。

床波開作

1701年(元禄14)同じく椋梨俊平が福原氏の収入を増すために床波45町歩の開作をした。

藤山区の開作

厚東川の下流の左岸にあって、右岸にある厚南区の田地と同じように海開作がおこなわれた。古書に上開作・小開作の名が残っており、その沖に



周防灘の干拓地(海開作)黒い部分が干拓地

秋里開作3町, 5町, 1町とあるけれど場所や年代ははっきりとはわからない。浜田開作12町歩は1699年(元禄12)ごろまでにできたらしく、江の内開作は1689年ごろ(元禄2,3)の埋立であり, 1751年ごろ(宝暦初年)に、さらにその沖に外開作20町歩5段歩を築きそえた。これらの開作は阿川毛利, 伊勢氏の開作工事である。

厚南区の開作

足利氏が政権をとっていたころは、西宇部駅の北側の台地(際波)は海岸であったらしい。厚東川右岸のたびたびの干拓によって、厚東川の流れる方向を人間の手で新しくつくり、厚南一帯の広い水田地ができあがったのである。1520年ごろ(戦国地代と呼ばれる大永年間)の際波沖の開作120町歩, 年代不明の中野古開作などは、だいぶ昔のことである。その沖に吉敷毛利氏の干拓した上開作と中野開作とがある。科学があまり発達しておらず、自然のちからをおそれていた昔の人たちは、自然の姿をかえる大きな工事をした時には神社を建てて守護神としたのであるが、上開作45町歩は1782年(天明2)にでき、綿澄神社をまつた。中野開作83町歩は1786年(天明6)に毛利藩の撫育局の土地になっておる(守護神壇安神社)。その後31年目の1817年(文化14)10月24日には同じように撫育局の手によって妻崎開作213町歩が干拓され(守護神妻崎神社),



□の中の数字は干満の差

さらにその沖に妻崎新開作がつけられたのである。この妻崎新開作は厚東川右岸の一ばん沖手の開作で、はるか沖にあった竹の小島も地続きになってしまったのである。

1859年(安政6)7月20日^{くわせ}鍬初め、12月25日に潮どめ工事をすまし、面積118町歩の水田ができたのである、工事には銀約1000貫を費やし、堤防(土手)に用いた砂や石はおもに高泊・西須恵・元山・遠波・秋穂・二島・厚東川の沿岸などから持出されたものであった。潮どめが冬の季節におこなわれているのは、地盤が春はゆるみ、冬はかたまって、工事の安全率が多いことを、長い間の経験で気づいたからであろう。

このようにして、現在のおもな水田地ができあがっていったのだが、それだけでは稲のみのもってゆく土地とはならない。十分な水がなければならぬ。そこで自然をつくりかえて、新しい水を海開作の土地に満たす^{かんがい}灌漑工事が必要となる。昔の人たちは海を陸地にし、どうして稲のみりの多い土地にしていっただろうか。水田をつくるための開作(干拓工事)は現在阿知須町・小野田市・厚狭町の海岸に、農林省によって進められているので見学するのもよい。

(山口県農地改革誌・厚狭郡誌・山口県地誌・防長米同業組合史・防長風土註進案・郷土宇部・杉谷敏一氏・小島成美氏談などによる)

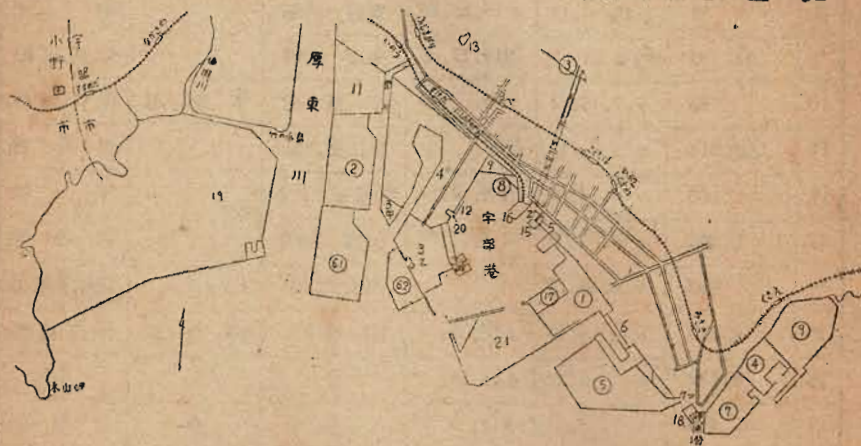
近代の埋立事業

宇部のおもな水田地は、封建領主の財政難をきりぬけるための土地政策でできたものであったが、今の会社工場の敷地は、近代工業をさかんにするための埋立事業として、陸地をつくりあげてきている。

宇部の沿岸が速浅であり、坑内から掘り上げられる土が多いのでそのまま海へもってゆけば、埋立地として、工場や社宅をつくることができる。(筑豊炭田の炭鉱のように、田地などの生活に必要な土地をつぶしてホタ出にしなくてもよい)。昔のようにモッコ

などでかついで運ぶことはなく、坑口からつづいてレールを敷き、エンドレスやトロッコで運ぶことができる。坑内の土で海は陸となり、そこに会社工場・社宅ができて、近代工業が発展していった。1912年(大正元)から後の宇部の新しい陸地を調べてみよう。

宇部市埋立位置一覽



番号	面積	指令期日	竣工期日	出願人	起業者	埋立目的
①	150,873坪	大11. 3.28	昭12. 3.31	渡辺 祐策	宇部市	鉱業用地
②	180,963	昭2. 6.28	工事中	藤井龜之助	全	耕作地
③	187	〃8. 8. 8	昭9. 6. 5	宇部市	全	雑種地
④	49,499	〃11. 6.30	〃26. 9.20	篠崎 嵩吉	全	鉱業用地
⑤	159,623	〃12. 8.26	〃28. 6.22	(東見初炭鉱) 宇部市	全	雑種地
⑥	293,006	〃16. 1.10	〃26. 8.27	(沖ノ山炭鉱) 宇部市	全	鉱業用地
⑦	72,184	〃19. 2.17	〃28. 3.31	(沖宇部炭鉱) 宇部市	全	公共施設用雑種地
⑧	2,032	〃25. 1.12	〃29. 1.12	(松浜炭鉱) 宇部市	全	雑種地
⑨	151,146	〃25. 3.15	〃30. 3.15	(沖宇部炭鉱) 宇部市	全	鉱業用地
1	16,080	大6.10. 9	〃14.12.10	藤本 開作	東見初炭鉱	雑種地道路敷
2	4,055	〃10. 9.22	〃3.11. 2	宇部漁業会	宇部漁業会	宅地
3	(甲.乙.丙) 130,546	昭8.12.17	竣工	渡辺 祐策	沖ノ山炭鉱	鉱業用地

番号	面積	指令期日	竣工期日	出願人	起業者	埋立目的
4	411,517	大 2.11.19	竣 工	渡辺 祐策	沖ノ山炭鉱	鉱業用地
5	16,256	〃 2.10.29	大14. 6.26	藤本 与七		雑種地
6	4,545	〃 2.11.14	〃15. 6.24	藤本 開作		全
7	2,482	〃10.10.19	〃15. 3.23	沖見初炭鉱		鉱業用地
8	18	〃15. 4.11	〃15.10.16	東谷 種徳		宅 地
9	15,020	昭15.11. 6	昭19.12. 6	渡辺 祐策		鉱業用地
10	62	〃 2. 5.14	〃 3. 2. 9	宇部市	宇部市	宅 地
11	208,312	〃 2.5. 13	竣 工	秋田寅之助		耕作地
12	160	〃 4. 4.12	昭 5. 4.14	宇部セメント		宅 地
13	5,296	〃 4. 5.23	〃 8.10.25	国吉 左門		耕作地
14	860	〃 5. 9.11		内山芳太郎		宅地養殖地
15	4,200	〃 8. 6.14	〃14. 2. 4	山口県	山口県	港灣施設
16	5,439	〃11. 2.27	〃13.11. 1	全	全	全
17	18,419		〃19. 6.20	全	全	上 屋 敷
18	3,433		〃14.12. 1	全	全	宅 地
19	1,221,753			宇部興産	宇部興産	鉱業用地
20	143			日本発送電	日本発送電	泊船渠築造
21	195,768	昭17. 9. 2		山口県	山口県	雑種地

一土木課港灣係作製一



1	五田瀬堰堤	6	馬背暗渠	凡 例
2	川俣樋門	7	堀堂大海津池	道路
3	山根樋門	8	堀堂幹線終点	河川
4	トンネル入口	9	広瀬支渠	用水幹線
5	上三ツ井入口	10	築山支渠	旧用水路

水を生かす人間の ちから

ごぶいくようすいる 御撫育用水路

徳川時代の天明期になると各地で飢饉きんがあり、百姓一揆ひやくしやういつきなどがさかんにおこってきた。毛利氏が厚南に中野開作をつくって新田をおこしたのが天明7年(1787)であったがいつもひやけ土地として、収穫をあげることはむずかしかった。溜池や地下水・天水(雨水)だけでは水がたりないのでそばを流れる厚東川の水をひくことを考えついた。

中野開作のできあがったあくる年の1788年(天明8)から92年(寛政4)までの6年間にかけて、厚東村・厚南村の600町歩の水田をうるおす"ごぶいく"と呼ばれる用水路をつくりあげた。

"ごぶいく"と呼ばれるわけは、毛利藩が財政たてなおしのために萩はぎに撫育局おいくきょくをつくり、金や穀物こくもつの貸しつけ・専売・開拓して耕地を

広めるなどの、今の通商産業省・農林省・銀行のような役目をする

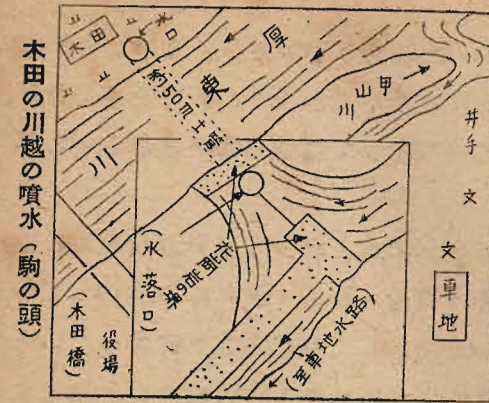
役所をつくっており、その仕事として水路がつくられたので、藩主の工事に時の人が敬語をつけて「御撫育」の名で呼んだのである。この水域図は150年もたって、堰の石だたみが破れ、水路が年とともにくずれて、水のもれる量が多くなり、下流の方は干害が多くなり、塩分があがってくるので1932年（昭和7）末から37年（昭和12）5月までかかって作りなおされてからの図である。水域図にそうて、コンクリートでかためられ、たっぷり水を流している水路をたずねてみよう。

厚東村棚井に厚東川の水をためる五田が瀬の堰（昔の石だたみを鉄筋コンクリートにつくりなおす）をつくり、その水が広瀬の方へ流れてゆく。ここで作りなおす前は点線の方をとり、広瀬部落の地下を掘って辰の口の線貫（トンネル）をつくっていた。今も昔のままのトンネルが残っている。関東地方の箱根用水路のような大工事のトンネルではないが、測量機械もたいしてなかった時代の人々が、どのような苦心で田へ水をひくため、両方から広瀬部落の地下を掘りぬいたかを考えさせる。作りなおす時に水路を短かくするため、新たに320メートルのトンネルを掘り、1183メートル短かくしている。したがって昔の水路のままが広瀬部落の辰の口の線貫のまわりに行くとはよくわかる。厚南の水田を生きかえらすために、1930年（昭和5）8月、水利組合の決議によって、県営事業として請願し、同時に耕地整理組合をつくり県営区域外を組合工事として作りなおされたのである。延長8kmの“ごぶいく”用水路に祖先の、そして現在の人たちの創造と苦心のあることをよくみてほしい。厚東川はこの灌漑用水ばかりでなく、今や飲料用水、工業用水として利用されつつあり、厚東川をぬきにして宇部の生活を考えることはできなくなった。

木田の川越の噴水（駒の頭）

厚東川の水を灌漑にどのようにふうして利用したかの例として、木田行のバスの終点、木田橋の近くに行くと見ることのできる、川越の噴水（駒の頭とも呼ばれる）を知らせよう。

昔から二俣瀬村木田地方は、川より土地が高く、せつかくそばを流れている厚東川が灌漑用水として利用できない荒れは



てた草原であった。1350年ごろ（正平年間）藤本五左衛門は何とかして木田地方を美しい田にしたいものと考えたあげく、図のような甲山川に井手をかけて、今の村役場より約100mくらいの厚東川左岸まで水をひき、これを木の管で厚東川底に落し、木田の地に引上げることを考えたため、木田地方もしいに水田ができるようになった。これが“駒の頭”とも“川越の噴水”とも言われてきたもので、昔からかけひの先につけて噴水式に物を冷やす道具のことを“駒の頭”といったのだが、これに目をつけて利用したものである。その後1903年（明治36）9月、木管を土管にとりかえているが、厚東川底をくぐって、ごうごうと木田の水田をうるおす水がふき出ている。

このように自然のうつり変りにまかしているのではなく、私たちの祖先は、人間に役立つように絶えず、新しいくふうをし、幸福生活をたてるために努力してくれた。私たちも改めて、この宇部にある人間のちからをみなおしたいものである。

（厚南耕地整理組合資料・厚狭郡誌・羅田信氏・湯田文祐氏談などによる）

常盤池

私たちの土地には、たくさんのおため池や沼がある。これは自然にできたものであろうか、誰かが作ったのであろうか。またどんな役目をしているのだろうか。その一つとして常盤の池をあげることができる。

海の隆起作用で沖積層の海の砂が吹き上がって長い砂丘の沖の山（緑が浜）ができ、草江・野中・野原・笹山・芝中の名が残っているように草のおいしげった低い土地として荒れるままになっていたことは前に言ったとおりである。その荒地を人間に役立つ土地にするために、昔の人は灌漑用水を導き入れて新しい田をつくりだしたのである。

1695年（元禄8）3月、領主福原氏の命によって棕梨権左衛門俊平（鶴の島・床波の開作をさしづした人）の監督で工事を起して2年後に土手を築きあげて常盤の池に水がたまるようにしたのである。厚東川ダムのように川の水をせきとめるわけにはいかなないので、宇部のことばでいう“えき”つまり小高い土地の間にある広い長い谷を見つけ、その一番低く海に近い50mばかりの本土手を築いたのである。まわりの台地から流れる水が自然にたまって池となったのであるが、本土手のつくり方、水の集め方、そして400町歩の水田をつくった水路をつくる技術は、どのようにして得たのだろうか。また石炭を掘り出した最初の地として、池の底になった土地に住んでいた人たちは、どのような目で、本土手の工事が進み、水がたまってゆくのを見ただろうか。（住民は草江・野中方面へうつり、床波の西光寺も現在の地へ移ったと伝えられる。）

現在は灌漑用水だけでなく、工業用水へも利用されておるが、常盤溜池水利組合で示された現在の利用度を調べてみよう。



○幹線水路

第1幹線は切貫とも野中樋とも呼ばれる樋門から高い田地の水路となつて野中・恩田・梶返方面を灌漑。第2幹線は本土手の樋門から則真・野中・草江・五十目山・岬・笹山・芝中・琴芝方面を灌漑。樋門に1尺角の木の栓がしめ

てあったが、工業用水を必要とされるから、本土手の側に取水塔ができて、ハンドルによって制水弁を上げ下げするだけで水の出しぐあいを調節できるようになっている。東見初鋳業所・ソーダ会社の工業用水となる水路は、地下にうずめてつくられている。

第3幹線は1913年（大正2）県道のところに土手をつくり水をためて補助溜池として、女夫岩樋によって則真・草江の低い地方を灌漑。

○水を集める計画

堀貫空洞（トンネル）までつくて、まわりの水が池にたまることをくふうしてあるが、地下を坑道がとおったりして、水のもれ

ることが多くなり、補助溜池をつくったり、1931年（昭和5）には梶返の源山に40馬力の送水ポンプ2台をすえつけたりしたが、早ばつの年には、ひあがってしまったりしたし、水不足の心配がつよい。また東部の会社に工業用水が必要となっても、このままでは灌漑用水を奪うことになるので、改良工事として、1937年（昭和12）10月から1944年3月にかけて、厚東川の水を池へ導き入れる計画がおこなわれた。180馬力のポンプ3台でくみ上げられた厚東村末信の厚東川の水は、貯水槽に入れられ、送水管によって山あいや山の下のトンネルを通り、八幡宮の裏をまわって常盤池にそそがれる。こうして1697年の元禄の世につくられた常盤池が8kmの山道を通ってきた厚東川の水と結びついたのである。（送水線の県営工事114万円）そして、雨の少ない年も、池のひあがって農家や工場の苦しむことが二度とないようになったわけである。

・平均満水面積約100町歩（82.7ha） ・満水標21.44m ・水深最大10.43m

・平均灌漑有効深4.88m ・平均有効貯水量2640,000m³

・農業用水7個 ・工業用水13個（1個とは1秒間に1立方尺の水の量）

（常盤湖畔碑・草江水神社碑・常盤溜池水利組合資料・郷土宇部・宇部五十年誌

・宇部村誌・真宅正一氏・杉谷敏一氏談などによる。）

厚東川ダム

○位置

厚狭郡二俣瀬村・小野村

○この土地を選んだ理由

- 1、集水面積と流れ入る水量が大きいこと。
- 2、ダム地点は地質がよくて、川の兩岸にむかいあっている山の距離が厚東川の中で最もせまいこと。
- 3、工費が他の地点にくらべて少なく、反対に貯水量が大きいこ

と。

○ダムを作る目的

宇部市・小野田市方面の水道用水・工業用水・その他の原水の供給を主な目的として、あわせて灌漑用水の少ない場合のおぎない・水力発電・洪水がでないように水をうまく調節するなど。

○工事費

1億960万円（県営）

○堰堤

型式 コンクリート重力式可動扉付

最大高 30m（内可動扉60m）

天端長 162m

基本岩盤 硬質砂岩

可動扉（テンターゲート）

高さ 60m 巾 8m 門数 8門

○門扉操作

電動力、自家発電手動による

○集水面積

2,486,840m²（約250.8町歩）

○貯水池

水深 最大30m 有効20m

全貯水容量 23,788,129m³

有効貯水量 22,541,133m³



○利用水量

常時285個（1個とは1秒間1立方尺の水量）

水道用水 宇部市 17個 小野田市 9個

工業用水 宇部チツソ工場 20個 山陽化学 8.5個

県保有量 5.5個

水力発電用水 225個（現在宇部チツソ工場自家発電）

常時合計 285個

なお下流責任放流量（下流にぜひ流さなければならない水の量）として灌漑期に1023個、非灌漑期に39.7個。（ダムができたため、今まで水田に流していた用水を減らすことがあつてはいけなため）

ダムによって断水も少なく豊富な水にめぐまれた宇部市は近代の工業地として発展してゆく道が開けたわけであるが、工事がおこされた1940年（昭和15）2月4日から、できあがった50年（昭和25）3月20日までの10年間、貯水池の底に沈んだ小野村の恩をわすれてはならない。

ダムによる買収土地、うつされた物、全面積250.8町歩（約2.5km²）

買いあげられた総面積 160.73町歩

宅地 5.93町歩 田 105.91町歩 畑 12.7町歩

山林 37.59町歩 溜池 9.1町歩 原野 6.1町歩

雑種地 0.08町歩

移転した物件

住宅 143戸 役場 1 学校 1 墓地 1106 寺 2 市場 1 神社 3

組合 1 乾燥場その他 104

つけかえた道路その他

渡船場 1所 橋 2所 県道 8km 町村道 13km

これだけのものが、近代産業をもつために貯水池の中に沈んでしまったり、うつされてしまったのである。ダムの工事の経過をみると1939年（昭和14）はじめから県当局でダムをつくる調査があり現在の位置を定められた。40年（昭和15）11月、県会は総工費900万円、3年計画でつくることを議決した。ダムのつくられることをせ

んぜん知らされなかった小野村はおどろいて23条にわたり、村の苦痛を県へうったえた。それとともに厚東川利水事業対策委員会をつくり、損害をうける村として研究し対策をおこなうことにし、たびたび県と交渉した。

その県の対策がはっきりしないため、村民のおちつきがなくなった。44年3月になって県知事から「83万円を村に出すから承知せよ」との通知があり（町村道路改造費70万円・役場庁新築費7万円 村財政補てん費5万円・その他補償費^{財しょうひ}1万円）、村民は「県でやれないものが村でやれるか。村をつぶすものだ」と反対意見があったが、厚狭地方事務所・警察が間にはいって「勝つためだから」との戦争中のきまり文句でおしつけられてしまった。ついに小野村会は涙をのんで県の条件を承知した。

戦いははげしくなって鉄材・セメントも手にいれることがむづかしくなり、終戦の混乱のため44、45年（終戦）、46、47年とほとんど工事はやらないで、80%で中止していた。

終戦後物価が高くなり、村からたびたび陳情してようやく予算が改められて48年5月からふたたび工事がおこされた。

50年3月20日竣工式^{しゆんこうしき}がおこなわれるまでの10年間の小野村の動きと村のたてなおしは、水をもっと利用していかなばならぬ日本にとっての大きな問題として考えてみなければならぬ。

灌漑・飲料・工業・電力のためにダムをつくり、日本をたてなおす産業をおこすことは、ぜひ必要なことである。日本のいろいろな土地に水資源を生かすダムの計画がすすめられている。都市や農村、いろいろな職業の人たちを、ほんとうに幸福にするためのダムづくりがどのように進められるかは、新しい日本の課題となってきた。

（厚東川利水環境管理事務所・小野村役場・厚狭郡誌・宇部チツソ工場資料などによる）

累 年 月 別 平 均 氣 温

観測所名	全年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	統計年数	備考
瀬戸内海側 下 宇 防 小 岩	16.3	5.7	5.7	9.0	14.3	18.2	22.0	26.2	28.1	24.5	19.4	14.0	8.4	63	明19~昭22
	16.7	5.2	5.2	8.7	13.3	17.5	22.5	26.8	28.1	24.9	20.0	14.6	8.4	11	昭10~昭22
	16.9	5.7	6.1	9.6	15.5	19.9	23.2	27.0	29.3	25.0	19.8	14.1	8.2	53	明27~昭22
	16.6	6.6	6.5	9.1	14.1	18.6	21.8	26.0	27.7	24.5	19.5	14.4	9.3	40	明36~昭22
内 陸 部 西 大 玖 徳	17.1	5.5	6.0	9.8	15.4	20.3	24.2	27.9	29.5	25.4	19.6	13.6	8.2	48	明27~昭22
	16.2	3.7	4.8	9.2	15.2	19.6	23.2	27.0	28.3	24.4	19.1	14.0	6.4	13	昭10~昭22
	16.2	4.4	5.0	9.0	15.1	19.6	23.0	26.8	28.4	24.3	18.8	13.1	7.1	52	明27~昭22
	16.5	4.4	5.3	9.1	14.9	20.2	23.5	27.3	28.6	25.0	19.2	12.8	7.0	42	明38~昭22
日本海側 仙 須 見	14.7	2.4	3.1	7.4	14.1	19.7	22.1	25.9	27.0	22.8	16.9	10.9	5.2	44	明36~昭22
	17.0	5.7	6.2	9.4	15.4	20.0	23.5	27.9	29.6	24.6	19.3	13.8	8.7	27	明33~昭22
	16.9	5.9	6.2	10.0	15.6	20.0	23.3	27.2	28.9	24.5	19.3	13.9	8.5	51	明27~昭22
	17.1	6.3	6.6	10.1	15.5	19.7	23.1	27.4	28.8	24.7	19.5	14.3	9.0	48	明34~昭22
見	19.2	6.9	7.2	10.2	15.1	19.1	22.5	26.4	28.6	25.0	20.3	15.2	9.6	55	明27~昭22

(註) 平均気温は10時1日1回観測資料による。

累 年 月 別 平 均 降 水 量

観測所名	全年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	統計年数	備考
瀬戸内海側 下 宇 防 小 岩	1623.3	65.3	78.4	109.9	144.6	141.2	284.2	235.5	118.7	191.6	105.9	72.7	75.3	63	明19~昭22
	1520.1	52.6	62.2	81.4	116.1	105.2	323.8	171.8	146.5	215.3	97.1	55.3	51.8	11	昭10~昭22
	1557.6	53.7	63.3	114.0	170.6	153.6	286.9	214.7	112.3	175.5	98.7	64.0	51.7	53	明27~昭22
	1629.0	62.0	73.8	128.6	167.4	166.2	286.4	210.4	102.4	198.1	112.0	70.0	62.5	38	明36~昭22
内 陸 部 西 大 玖 徳	1660.0	53.4	74.8	122.0	177.3	178.5	309.7	215.6	112.3	208.4	114.0	74.8	89.3	44	明27~昭19
	1866.3	73.5	89.1	115.3	158.6	155.2	320.8	208.1	169.6	288.3	99.6	83.1	82.3	12	昭10~昭22
	1833.9	81.2	100.3	128.9	168.3	147.7	282.3	252.2	151.0	214.8	119.7	80.3	82.0	51	明27~昭22
	1780.4	94.5	83.3	139.8	187.2	198.2	315.4	224.5	121.7	234.5	122.3	74.2	63.0	44	明27~昭22
日本海側 仙 須 見	1896.2	109.4	117.1	138.8	145.1	128.0	260.6	237.0	172.1	240.5	137.0	92.4	111.8	46	明36~昭22
	1703.8	79.4	98.1	110.8	128.3	111.2	258.3	203.4	136.9	275.6	127.9	57.2	97.3	26	明32~昭22
	1596.0	87.3	99.8	110.0	130.5	107.6	231.0	194.9	134.9	206.0	118.2	86.2	95.7	51	明27~昭22
	1859.9	103.2	110.3	132.5	144.0	122.3	249.3	207.8	130.5	268.4	160.3	109.5	122.0	48	明34~昭22
見	1555.6	76.7	83.7	100.9	126.8	115.6	226.6	195.4	134.4	221.8	109.7	78.4	86.1	59	明27~昭22

本表は10時1日1回の観測による。

累年初霜と終霜の季節

観測所名	初霜平均月日	最早年月日	終霜平均月日	最終年月日	中間日数	統計年数
瀬戸内海側	下関	12 2	明39,11, 4	3 30	118	63
	宇部	11 18	昭17,10,25	4 6	141	11
	防府	11 13	昭2,10,15	3 24	131	67
	小浜	11 29	昭17,10,15	4 5	127	39
	岩国	11 19	昭2,10,15	3 25	126	54
内陸部	西大	11 7	昭11,10,23	4 19	165	12
	大田	11 2	明32,12,12	4 20	169	58
	玖珂	11 4	昭2,10,14	4 15	162	42
	徳佐	10 26	明42,10, 9	4 29	183	44
	仙崎	12 5	大6,10,16	3 27	112	22
日本海側	須見	11 24	昭2,10,13	3 29	127	55
		11 19	大14,10,24	4 14	146	45
		12 12	大7,10,14	3 3	181	30

(註) 中間日数とは平均初日と平均終日との中間日数である。

累年月別平均暴風日数

観測所名	全年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	統計年数	
瀬戸内海側	下関	99.8	11.9	9.5	10.8	9.8	9.0	7.6	5.6	7.4	4.6	4.4	7.3	11.1	24
	宇部	23.0	2.2	1.9	2.0	3.3	2.1	1.8	2.3	2.7	1.6	0.8	0.8	1.0	9
	防府	24.0	2.6	3.0	3.4	2.0	2.4	1.6	1.5	2.1	1.7	1.2	1.2	1.3	10
	小浜	13.2	3.2	1.2	1.7	1.5	0.3	0.4	0.7	0.7	1.4	0.8	0.6	1.2	10
	岩国	9.1	1.4	1.2	0.6	1.2	0.4	0.1	0.1	0.3	1.2	1.0	0.5	1.1	10
内陸部	西大	13.0	2.3	1.5	1.1	2.0	0.6	1.1	0.7	1.5	1.1	0.7	0.4	1.0	10
	大田	16.5	1.1	1.4	1.4	1.5	1.9	1.1	1.0	2.6	2.1	1.0	0.4	0.7	10
	玖珂	12.9	1.7	0.9	1.7	1.6	1.2	0.5	0.4	1.8	0.9	0.8	0.9	0.5	10
	徳佐	6.0	0.3	0.6	1.0	1.4	0.4	0	0	0.5	0.4	0.7	0.4	0.3	—
	仙崎	34.4	5.1	3.9	4.7	3.1	3.4	0.9	1.1	1.8	1.9	1.9	2.3	4.3	10
日本海側	須見	11.0	1.4	0.5	2.0	1.2	1.3	0.5	0.4	1.1	0.8	0.7	0.3	0.8	10
		13.8	1.3	1.2	2.7	1.8	1.0	0.7	0.7	0.4	1.1	0.5	0.7	1.7	10
		16.2	2.2	1.9	2.6	1.9	1.3	0.4	0.3	0.3	1.5	0.9	1.9	1.9	10

(註) 暴風とは風速毎秒10m以上



1921年（市制施行ころ）の採炭現場（きりば）

字部の石炭は
ごのようにし
て掘り出され
たか

地質的にみた宇部炭田

宇部炭田は、厚狭川と有帆川とにまたがる中生層と、有帆川から丸尾までの古生層や花崗岩・蛇紋岩などで北側をかざられ、南方周防灘に向って3°~5°のゆるやかなかたむきをもっている。

その面積は約413km²で、石炭のある部分の面積は約324km²の有煙炭田である。

その埋蔵量は64,600万トンといわれ、宇部地区はその約80%である。さらにこれを海と陸の二つの地域に分けると、海底が約92%、陸上が約8%という割合になる。

鉱区総面積及調査集計対象面積明細表 (昭25)

炭田名	地区名	採掘鉱区面積 (KM ²)		試掘鉱区面積 (KM ²)		合計 (KM ²)				鉱区間隔地 (KM ²)				総計 (KM ²)			
		採掘面積	未採掘面積	試掘面積	未試掘面積	採掘面積	未採掘面積	試掘面積	未試掘面積	採掘面積	未採掘面積	試掘面積	未試掘面積	採掘面積	未採掘面積	試掘面積	未試掘面積
宇部	宇部	110,811	11,000	2,198	2,198	112,999	11,000	2,198	2,198	115,197	11,000	2,198	2,198	117,395	11,000	2,198	2,198

(全国埋蔵炭量集計報告書—広島産炭局)

この炭田をつくる地層は宇部夾炭層といわれ、古第三紀のもので、古い厚東川から流れ出た土砂が川口でつもりかたまつた地層で

ある。下部と上部に分けられ、地質は、始新世のものである。北九州の筑豊炭田の主な夾炭層と同じであり、これとひとつづきのものと考えられる。

炭質は亜瀝青炭で発熱量（カロリー）はだいたい次の図のとおりである。

註 古生層とは古生代（三葉虫時代）の地層をいい、中生層とは中生代（爬虫類時代）を古第三紀・始新世とは新生代の始めころ（下等哺乳類時代）を古第三紀と始新世は同じころの時代である。夾炭層とは石炭をもっている地層をいう。

炭層別カロリー一覽表

(昭25)

炭層	炭鉱	発熱量 (カロリー)	純炭発熱量 (カロリー)	灰分	水分
一重石	東見初	5,830	7,444	11.49	9.39
二重石	沖田	5,830	7,555	15.24	6.65
大派	沖の山	4,480~5,040	7,285~7,472	22.27~29.91	6.76~8.72
五段	沖の山	5,670~5,750	7,306~7,450	12.33~22.27	8.55~8.72
七甲	長伸	3,970~4,520	7,331~7,567	26.19~38.50	6.34~6.58
二段	東見初	5,830	7,335	11.08	8.66
二腰	沖の山	5,450	7,497	18.60	7.40
三尺	沖宇部	5,070	7,391	20.76	8.96
三徳	第二新沖	5,320	7,495	20.69	6.87

(全国埋蔵炭量集計表より)

開発の始め 宇部の人たちが、石炭という大切な地下資源を掘り始めたのは、いつごろかはっきりわからないが、常盤の池の底に掘っていたあとが残っていることから考えると、この池のできた1697年（元禄10）より前に掘っていたことがわかる。

全国主要炭田発見年次一覽表

炭田名	発見年次	発見について
三池炭田	1470年頃 (天明年間)	農夫のたき火から、たきぎの代用として使用。
宇部炭田	1675年頃 (延宝年間)	船木で土民がたきぎの代用として使用。 (五平太が発見したともいわれる)
筑豊炭田	1609年頃 (元禄以前)	塩田の火扇石として発見使用。

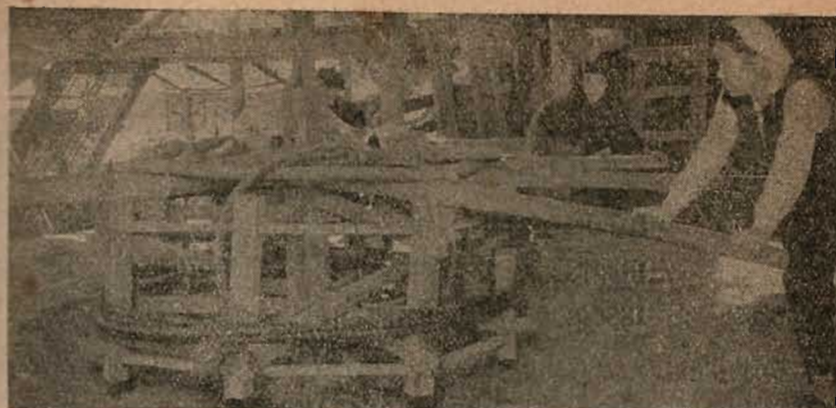
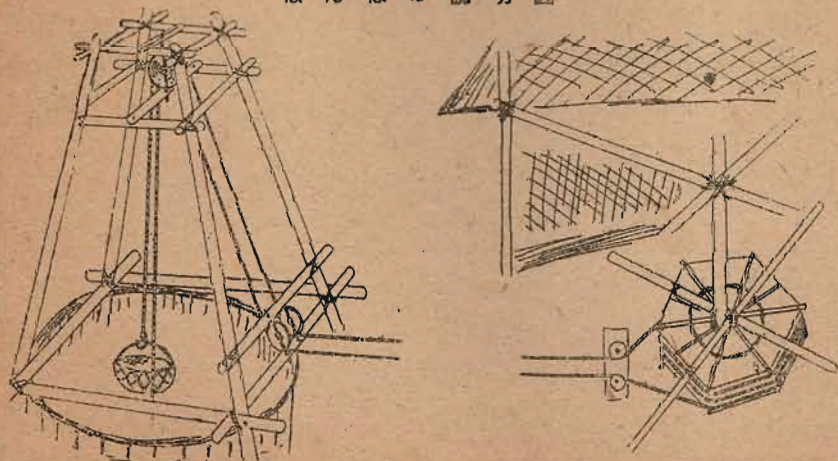
唐津炭田	1725年頃 (享保年間)	五平太(人の名)が発見して、塩田に使用したとつたえる。
天草炭田	1840年頃 (天保年間)	塩田用の火扇石として使用。
石狩炭田	1856年 (安政 3)	加賀の漁夫忠蔵が一部を発見。
常磐炭田	1857年 (安政 4)	片寄平蔵が一部を発見。
大嶺炭田	1881年 (明治10)	

初めは農家がたきぎの代用として、常盤池附近の露頭(石炭が地上に出ていること)を掘りだしたのだが、後には塩田の燃料として使用されるようになった。

なんば(南蛮車)の発明

そのころの採炭方法は10m程度までのごく浅い堅坑^{たてこう}から、井戸車^{ひかえだ}やねつるべでつりあげていたのを、1840年(天保11)亀浦の向田七右衛門・九重郎兄弟が、糸をつむぐしのひきぐるまから考えついで、なんばという木製の機械を発明したためにそれから30~40mの深さまで掘れるようになり、坑内の土砂や水や石炭をまきあげるのに非常に便利になった。筑豊などの炭田は山にむかってのた

なんばの説明図



今も小さい炭鉱で使われているなんば

ぬきぼり(横穴式)で排水のむつかしさはほとんどなかったので、この機械は宇部地方独特のものであった。

註 九州の人たちは長州なんばとよんでいた。

しかもなんばは今もなお小さな炭鉱で使用されているのであり、まったく簡単な機械ではあるが、宇部炭田の開発には大いに役だったのである。

こうして地上およそ50~60mの距離をへだてては堅坑^{たてこう}を10も20もつくり、一つの堅坑^{たてこう}に一台のなんばをすえ、附近の農民たちが、冬から春さきまでの農業のひまな時を利用して掘っていた。

なんばおす人あ(は)仏のくらし、こめのめし食うて、せんこう(線香)たく。

(そのころの炭坑は米飯をたべ、一般農民は麦めしであった。せんこうは時間をはかるために使う。)

なんばおせおせ ハナトリ(たくりあげる人)りゃ(は)たぐれ
ハナは、ハタバ(坑口)の模様じゃ(では)ない。

こんな歌をうたっては朝から晩まで仕事をつづけ、農繁期には廃坑にしたので一散掘^{いつさんぼり}といていた。今も常盤の池附近の山の中にタブ^{たぶ}といて残っているのはそのあとである。

明治の初めごろ、こうして掘っていた宇部炭田も、1873年（明治6）に日本坑法という法律ができてから、知らないあいだに、他の地方のものにそのほとんどの鉱業権を先にとられてしまったので、宇部の人たちにしては大変こまった問題にぶつかった。

このころ外国から帰って来た宇部の旧領主福原芳山が、当時の兵庫県令であった伊藤博文などの力ぞえによって、1876年（明治9）鉱区を買とり、1886年（明治19）宇部共同義会が作られたので、これにゆずり渡した。共同義会は、これらの鉱区を手にしていったので、いつとはなく宇部の石炭は宇部の人の手によって開発するといふ、きまりをつくってしまった。

そのころの炭坑は、宇部式匿名組合でやっていて、中心人物である頭取に、事業上の一切の権利をまかせ、組合員といっしょに事務を分担し、朝夕は事務所から食事を出し、全員が家族的なしくみのうちに、仕事を進めていた。

（41ページをみよ）

こうして炭鉱業も次第に発展し、採炭夫も県外からたくさん集められ、多くは年間を通じて、掘るようになったので、一散掘に対して継年掘とよばれ、企業としての炭鉱がかたちづくられた。

蒸枰の発明

もともと炭坑は沖積層を掘ってゆくのであるから、水がわいてきたり土がまわりからおしてきてくずれたりするのを防ぐことが大事である。宇部の堅坑は籠や桶枰を坑道のまわりにはめこんでいたが、1886年（明治19）居能の船大工和田喜之介が蒸枰という宇部独特の防水開坑法（水を防いで坑道をつくる方法）を発明したといわれ、さらに斜坑にまで利用され、水圧を防ぐりっぱな坑道ができて炭鉱業がめざましく発展していった。1923年（大正12）に宇部鉱業組合は「蒸枰記念碑」を宇部の石炭掘りの最初の地といわれる常盤池のそ

ばにたてて、和田喜之介のてがらをたたえている。その碑の台石は蒸枰を形どって作ってある。



今のことぶき橋通りとさかえ町の十字路附近から旧海軍こうしゅう（旧紡績）附近をうつしたもの。

蒸気ポンプの時代

1887年（明治20）になると、西方の大山炭坑が始めて蒸気ポンプをすえてからは、各炭坑はあらずって大煙突をたて、ポンプを運転し始めた。1891年（明治24）にはさらに斜坑に西洋式の捲揚機をとつけて、海底炭を雀田の沖に築島炭坑を開いて、掘り始めた。これが宇部炭の海底炭鉱を開いた第一歩といわれる。

註 宇部の人には小野田・厚南方面をにしがた（西方）といい、岐波方面をひがしめ（東目）という。

電力の時代

1911年（大正元）から、沖の山炭鉱が、電力を使用するようになって、採炭法はまた一段の進歩をとげ、1921年（大正10）東見初炭鉱では、セメント噴射機によって、圧搾空気（あつまく）の力で、坑壁にセメントをふきつけ、坑道を作ることに成功した。翌1922年（大正11）沖の山炭鉱では、鉄筋コンクリートで円筒形の井筒（いづつ）を作って、これを海底にすえつけ、潮のひいたのをまってその井筒内の土砂を取りの

けて、次第に深く沈め、井筒を重ね重ねして、堅坑を海中につくることができた。

昭和になると、ますます坑道を広げ、さらに海底にのぼし、沖の山炭鉱では、1927年（昭和2）石炭の完全ガス化を試み化学工業への進出をみせ、1930年（昭和5）には陸上運輸も便利がよくなり、ますます発展していった。東見初炭鉱では1940年（昭和15）に、海底電車坑道をつくる工事をはじめ、1951年（昭和26）じゅうには、その第一期工事3500mが完成される予定である。

一方沖の山炭鉱でも1948年（昭和23）すでに運転を開始していたが、同年9月浸水事故のため、土でうまったので、1951年（昭和26）じゅうには、全長4400kmが復旧開通をみる予定である。

採炭方法も進歩して、1951年2月から、コーンブレーナー（石炭カンスまたは石炭ずき）を用いて、炭層の浅く仕事のむつかしい一重石などを掘りはじめている。

なお1950年（昭和25）ころから坑木のかわりに鉄材をつかって能率をあげるカッペ採炭法が東見初その他で行われはじめた。

海底炭鉱を掘るにすぐれた点

このように他の地方にくらべて、わりあいに早くから、大じかけに海底から掘りだすようになったのは、

- ① 石炭ができてから後、地層に、たいした変動がなかったと。

宇部炭田の地層

名稱	層状	厚サ	累計
砂		5.0	5.0
土粘固		9.0	14.0
土粘又砂		22.0	36.0
土粘		12.0	48.0
土粘		18.0	66.0
利砂		4.0	70.0
岩砂		85.0	155.0
石重一		1.8	156.8
岩砂		18.0	174.8
石重二		3.0	177.8
岩頁		2.0	179.8
岩砂		43.0	222.8
炭源大		5.5	228.3
岩頁		4.0	232.3
岩砂		43.0	275.3
炭丁サ		0.4	275.7
岩頁		15.0	290.7
炭		1.8	292.5
岩頁		2.0	294.5
炭段五		4.2	298.7
岩頁		8.0	306.7
スラカ		0.3	307.0
岩砂		21.0	328.0
防寸一		0.4	328.4
岩砂		30.0	358.4
炭段二		2.0	360.4
岩砂		20.0	380.4
炭尺三		2.7	383.1
砂生古父			

と。

- ② 第三紀層はわれ目が少なく、よく密着している上に、細かな粒の頁岩がやわらかく、しかもねばり強くできているので、海水が坑内にはいるのをよく防いでいること。
- ③ 断層は方々にあるが、第三紀層が他の時代の層までずれていないこと。
- ④ 細粒砂岩（ヤケという）が、水といっしょにわれ目にはいつて、水のはいり口をふさぎ、自然に防水ができていること。（そこでじつとセメントの別名がある）
- ⑤ 川じり（厚東川）にできているため、炭層全面を同じような粘土層がかぶさっていること。
- ⑥ 断層の向きが、同じようでないため、かえって採炭にはつごうのよい結果となっていること。

現在は出炭量も月118,700トン（1951年6月）に達し、家庭用・工業用・塩田用に用いられ、市内はもとより、遠く京浜地方にも送られている。

しかしながらこうした発展のかけには、多くの鉱害や幾多の変災があったことを忘れてはならない。

ダブとツボヌケ

鉱害には、土地の沈下と陥落の二つがある。沈下は岩石や土の性質などによって、地下の作業を始めてから3か月～18か月で、その影響があらわれてくる。方々にあるダブ（沼・池・沢などのよびな）のできた原因をしらべてみるのもおもしろいことであろう。

つぎに起りやすい鉱害は、ふつうツボヌケといわれるもので、これは、おもに古い時代の炭坑の影響で、現在掘っている炭鉱の影響でおこることはあまりない。その原因は、秋吉台などのような石灰岩地方におこるツバスという落ち穴と同じ方式で、地下にあるほら

あな（旧坑のあとなど）が、何かのきっかけで落ちこむのである。

このような地盤の沈下や陥落の外に、井戸水がなくなったり、田畑の水がほしがったりするようないろいろの鉱害があるが、これらはすべて政府や炭鉱が弁償することになっている。政府のする弁償を特別鉱害補償金といひ、約2億9千万円をみつもり、一ばん炭鉱のする弁償を一般鉱害補償金といひ、約6億円のみつもりで1950年（昭和25）から5ヶ年計画で鉱害がなおされつつある。

ところがここにおもしろいことには、鉱害にならない海底の沈下がある。周防灘沿岸地方が隆起しつつあるのに、宇部地方の海底だけ一ばんに沈降していくことである。

災 害

宇部炭田の災害は、ほとんど全部が、海水の浸入によっている。下の表は、そのおもなものを時代順にならべたものである。（90ページを見よ）

宇部海底炭田変災一覽表 (昭和24現在)

年月日	場 所	変災層	原因	死者	状 況	処 置
明治 25, 10, 5	筑島炭鉱	七甲	浅いため	4	天盤が落ちる。	廢 坑
明治 33, 12, 30	三炭組炭鉱	大派	同	25	急な浸水で処置のひまがない。	復 旧
明治 43, 3, 3	三炭組瀧炭鉱	同	同	75	同	放 棄
大正 2, 2, 22	西沖ノ山炭鉱	同	断層	0	海底が落ちこむ。	復 旧
大正 4, 4, 12	東見初炭鉱	同	同	235	1月, 2月, 3月より泥水が入る。	同
大正 7, 8, 10	西沖ノ山炭鉱	五段	旧坑に近づきすぎ	0	天盤が落ちる。	復 旧 (現場は放棄)
大正 9, 2, 16	本山炭鉱	七甲	浅いため	0	煉瓦工事が間に合わぬ。	廢 坑
大正 10, 12, 30	新浦炭鉱	五段	同	34	急な浸水で処置のひまがない。	復 旧
昭和 13, 12, 3	本山炭鉱	七甲	断層	0	淡水浸入500 cf/mm	現場は放棄
昭和 17, 2, 6	長生炭鉱	五段	浅いため	183	不明(戦時中)	不 明 (戦時中)
昭和 23, 9, 12	沖ノ山炭鉱	同	断層	1	8~9月より泥水あり炭酸ガスとともに出水	復 旧 中

(宇部海底炭田変災一覽表による) 興産本社

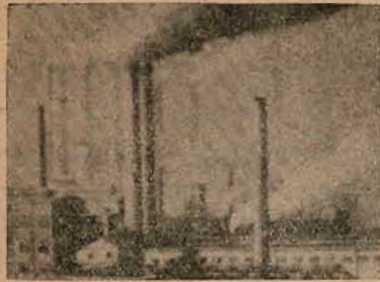
このようにして宇部の地下や海底にある石炭を、先人の尊い努力と研究によって掘り出され、いろいろな他の工業を発展させるももになった。

(全国埋蔵炭量炭質集計報告書・日本鉱業史・宇部鉱業史・向田兄弟の碑・蒸杵記念碑・郷土宇部・宇部炭田における海底炭層の開発と保安について・宇部海底炭田変災一覽表・宇部海底炭田変災誌・小島成美氏・炭鉱災害対策委員会・山田亀之介氏・常盤附近古老の談などによる。)

沖の山から緑が浜へ

大正3年2月に新川小学校の郷土誌編集委員会でつくられた「宇部村誌」(宇部図書館蔵)によると、次のように書いてある。

宇部の沖に沖の山ができたのは、本村(宇部村)を発展させるのに、大へん関係の深いものである。福原氏が宇部村の領主となった初めごろ、一夜暴風が起り、にわかには砂山の沖の山ができたので、時の人が領主福原氏がよい政治をするので、天がそれをほめたたえて、沖の山の地をあたえてくださったのだ、といったそうである。しかし、これは厚東川の土砂・潮流・海陸風のために、次第に陸地にそって砂山をつくっており、それが暴風のために波があれ、水の上に積みかさなつたのであろう。沖の山は岬の方から次第に西の方に向つてできていったらしい。寛文年間(1660年代)ころは、岬から新川まで一面の州であつて、この州は砂地で一本の草もはえていなかった。そこで福原氏が命令して、松を植えさせ、しきりにこやしをいれさせて、ようやく松林をつくることのできた。ところが村民は、たきぎなどにするため、松をきって枯らすものがあるので、おきてをつくつて、松をきつたものは見つかり次第に捕えられ、村じゅうをひきまわして、3日間寺の前のさらし場にさらして、見せしめにし、ようやく許すというようになっていた。



工業地帯

宇部の産業は どのような になっているか

宇部の人口と職業

1889年（明治22）にはわずか6,560人にすぎなかった宇部村の人口が、33年の後に約7倍となり、さらに30年たった後には約20倍に増しているのはなぜだろうか。藤山村・厚南村・西岐波村を次々に宇部にいれたが、そのためにふえたものだろうか。

1889年のころは、海底炭を掘り出す準備時代だった。それから一炭鉱が開かれ、一工場がたてられるたびに、宇部に人が集まったのである。第二次世界大戦が起って2年後の1943年（昭和18）には、15万ちかくなった。戦争の終りごろの空襲と疎開^{たか}によってへった人口は、復興と共に次第にまし、50年（昭和25）には13万に近づいた。

最も密集した沖の山・東見初の炭鉱地は、1km²につき16,000人をこえ、工場・商店街・小炭鉱に關係の深い東部・中部・西部・原・上宇部の区も1,000名をこえ、山口県で一ばん大きい

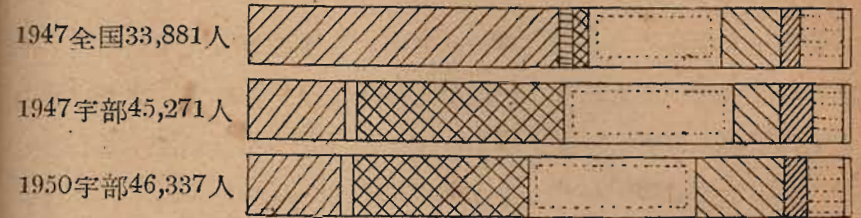


密度である。

市民の42%は仕事をもち、下の図はその割合を表わしている。

職業別人口の割合

左から農林・水産・鉱・工・商（金融を含む）運輸通信・公務自由・その他



鉱業人口・工業人口は合わせて6割以上を占め、全国のと比較すると、16.5倍、1.3倍で、農業人口は1/5である。ここに鉱山都市としての、特殊な性格が生れてくる。1947年と50年を比べると、鉱業人口は少しへり、工業人口はいぜんとして多い。商業人口がめだって増したのは、統制経済が自由経済に移ったためである。

人口の変化（市勢要覧より）

年次	人口	おもなできごと
1889	6,560	宇部村となる
1908	11,526	沖ノ山(1897)東見初炭鉱開坑
1916	23,572	鉄工所ができていた(1914)
1921	40,770	紡績会社がたち(1918)市となる
1927	53,233	セメント工場ができていた(1923)
1931	67,716	藤山村を編入
1935	86,009	窒素工場ができていた(1933)
1940	120,112	ソーダ工場ができていた(1936)
1942	133,069	厚南村を編入
1943	146,236	西岐波村を編入
1944	124,107	
1945	82,762	戦災終戦
1946	90,756	
1947	108,728	
1948	124,175	
1949	129,302	
1950	129,979	

県下10市の人口（昭和25）

市名	人口	密度
下関市	193,572	1,256
宇部市	129,979	1,703
山口市	77,759	399
防府市	71,065	979
徳山市	62,903	367
岩国市	61,532	1,034
小野田市	52,877	1,322
萩市	41,613	624
下松市	39,923	635
光市	35,090	724

（県統計課資料より）

（註）宇部市の人口密度は県の資料では1,703人、市の資料では1,298人と、くいちがっているのは、面積99.08km²と75.5km²のちがいがから生れている。

工業

「石炭の掘りつくされる時がくるかも知れない」「石炭によって積まれた富を資本とし、石炭業以外の永久的な産業をおこさなければいけない」これは、渡辺祐策を中心とする宇部の人たちの努力のめあてであった。

海底炭を掘る人たちは大正のはじめ、大きな断層にであった。出水の災害は何べんも起り、炭鉱の将来は気づかわれた。また、そのころの女の人の働き口は少なく、宇部の人たちの生活はくるしかった。このために1918年（大正7）宇部紡織所^{ほうしよくじよ}がおこされた。これより前、1909年に電気会社が、1914年に鉄工所がおこされているが、それぞれ、炭鉱に必要な電力・機械をつくり、鉱業をたすけるためのもので、宇部工業のおこりは、紡績に始まるといってよい。

（註）そのころは、第一次世界大戦の終るころで、日本の紡績業が、世界に進出し、綿相場は1915年、98円65匁から、19年には686円30匁にはね上り、全国に多くの紡績工場がたてられた時である。しかし終戦と同時に、綿糸相場は急に下り、20年には345円70匁におちて、各工場はたって行かなくなった。

紡績事業が振わなくなり、これに代る他の事業をおこさねばならなくなった。こうして1923年（大正12）セメント工業がおこされ、33年（昭和8）にチッソ工業、36年（昭和11）ソーダ工業と、近代工業が次々におこされ、第二次世界大戦によって一だんと盛んになった。戦争の終りごろ戦災をうけたが、宇部工業全体からみた被害は少なく、終戦後、全国にさきがけて復興し、瀬戸内海工業地帯の中心として、とくに化学工業は全国でも指おりの重要な地位を占めている。生産額は鉱業生産を、はるかにおいこしている。

このように工業がめざましい発展をした原因を考えると、

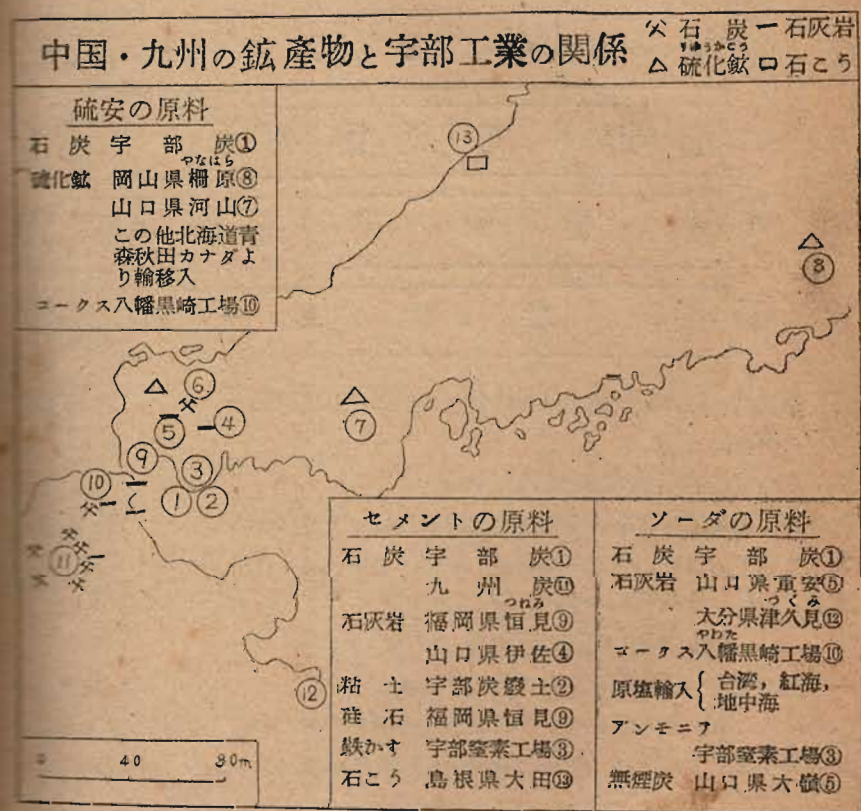
1、地元の豊富な石炭をつかうことができる。

宇部大派炭^{おろし}の微粉燃焼^{びぶんねんしょう}により、やすい電力がえられる。チッソ、セメント、

ソーダの各工場は、それぞれ自家用の火力発電所をもち、チッソ工場は厚東川に水力発電所ももっている。

炭粉燃焼^{たんこなんしょう}の機械は、鉄工所で作られ、全国的に発電所用として使われている。宇部五段炭の完全ガス化に成功し、硫安、ソーダなどの化学工業の原料とすることができた。化学工業は、工業の中でも、最も多くの石炭を必要とするものであるが、この石炭が全部地元でまかなわれるのである。

2、原料の産地が近い。



ほとんどの原料は、中国九州にある原塩を全量、硫化鉄を一部、輸移入しなければならぬが、宇部港が貿易港であるから、つごうがよい。

3, 炭鉱^{ばいど}の廢土の埋立による工業用地が得られる。

200万坪の埋立地は、工場敷地としてやすい。各工場は続いて建てられ、同一の工場のように便利である。

4, 輸送に便利である。

セメント・チッソ・ソーダ・宇部化学・鉄工所・日産産業・チタンの各工場は、それぞれ船をつけることのできる岸壁^{がんぺい}をもち、陸上には臨港線^{りんこうせん}が入りこんでいて、原料はすぐに工場に荷上げされ製品はストックせず積み出される。

5, アジア市場を目標とするよい場所を占めてゐる。

りゅう硫	あん安	輸	出	中	国	九	州	近	畿	中	部	東	部	四	国		
セ	メ	ン	ト	輸	出	中	国	近	畿	関	東	中	部	九	州	四	国
か	苛	性	ソ	ー	ダ	中	国	四	国	近	畿	中	部	九	州	東	部
ソ	ー	ダ	灰	近	畿	関	東	九	州	中	部	四	国	東	北	道	

中華民國・朝鮮・南洋方面との貿易の足場として、^つ将来ますます発展することがきる。

6, 工業用水に恵まれている。

沖の山工業地へは厚東川の市上水道取水場の下流700mの所から、藤曲配水池に水をひき、これから送っている。東部工業地へは、厚東川ダムから常盤池^{とぎわ}に送り、これからひいている。

7, 素質のよい労働力を集めやすい。

宇部の周囲の農村から、働く人を集めることができ、その人々の住宅を建てるにも、広い土地がある。(働く人々の部を参照)技術の向上をはかることは1914年鉄工所に附屬した徒弟学校^{とでい}から始められた。新しい技術者を養うことには、力がいれられていた。

8, 気候がよい。

こうしたあらゆる立地条件にめぐまれた工業地であるといえる。生産高は年々ましてゆき、戦争前に追いつこうとしている。工場は150以上あるが、おもなものをあげてみよう。

化学工業

宇部興産チッソ工場 (硫酸・硫酸・アンモニア)

宇部ソーダ工業会社 (苛性ソーダ・ソーダ灰)

宇部化学工業会社 (マグネシウム・クリンカ)

日産産業会社 (石油製品・石けん)

チタン工業会社 (酸化チタン・りゅう酸鉄)

宇部造機酸素工業所 (酸素)

徳山酸素宇部工場 (酸素)

明和化成会社 (合成じゅうし)

宇部化成工業所 (石けん)

窯業

宇部興産セメント工場 (セメント)

鉄工業

宇部興産鉄工所 (鉦山化学用の機械)

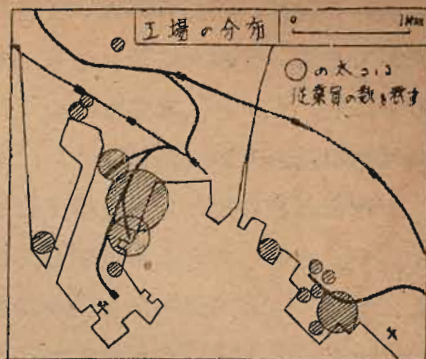
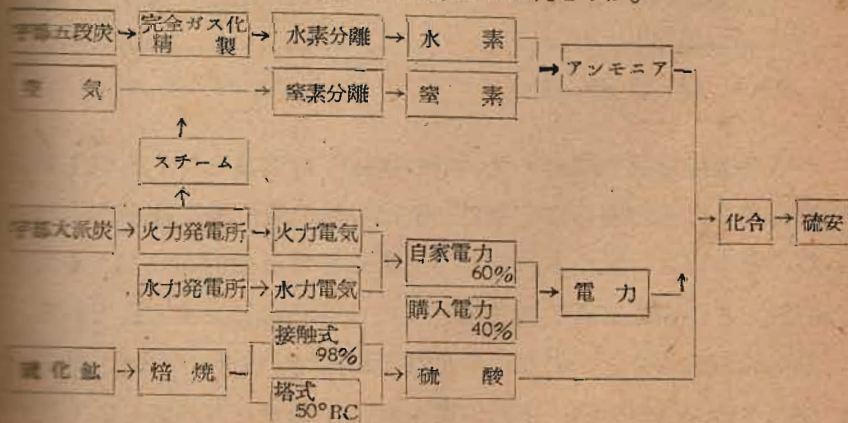
宇部重工業会社 (鉦山化学用の機械)

造船・製材

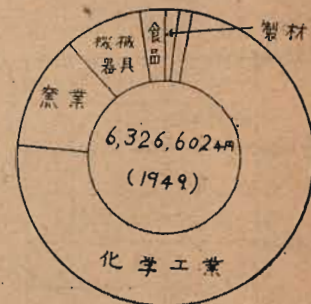
宇部船渠会社 (造船・製材)

城南造船鉄工所 (造船・製材)

宇部硫酸は、どのようにして、つくられているのだろうか。



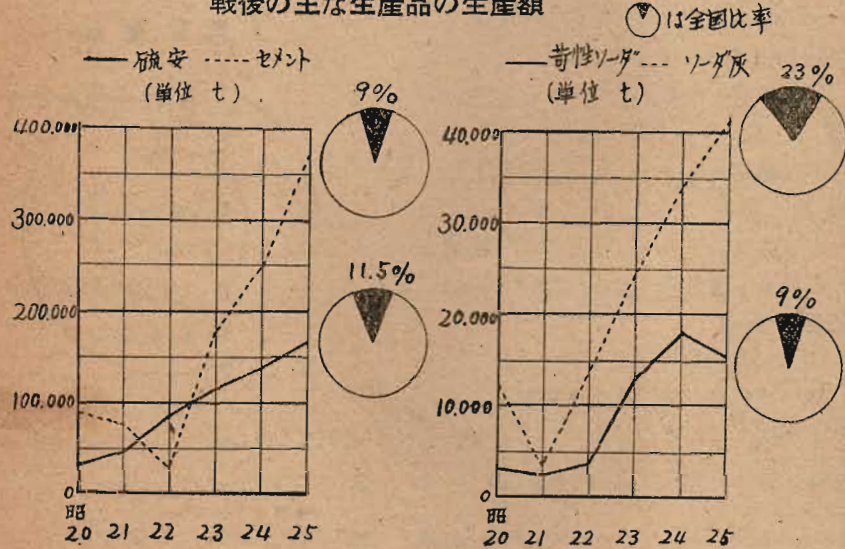
工業生産高



黒い石炭と、私たちが吸っている空気を原料としてまっしろい硫安ができる。昔の人に話したら、夢だと言うだろう。宇部の人たちの中にも、チッソ工業をはじめておこすころには、雲をつかむような気持の人が多かっただろう。

作物をふとらせ、食糧を増す硫安。建物や橋・トンネルなどをつくるセメント。あらゆる化学工業のもとになるソーダ。品質が悪いとされている宇部炭から生みだされたこれ等の工業製品が、日本の復興に大きな役目をもっていることを考えてみたい。

戦後の主な生産品の生産額



小さな工場では、鉾山・化学用の機械や、農具をつくる鉄工所が一ばん多く、その製品によって、宇部の鉾工業や農業は動かされている。その次は、私たちの日常の生活に必要な食料品をつくる工場である。これ等の工場は町工場として、市街地にいらこんでいる。

県全体からみると、宇部の生産額は22%で、下関をぬいて第一位になっている(1949年)。小野田市とは、工業のなりたちもよくにて

関係が深く、一つの続いた工業地として考えられている。

農 業

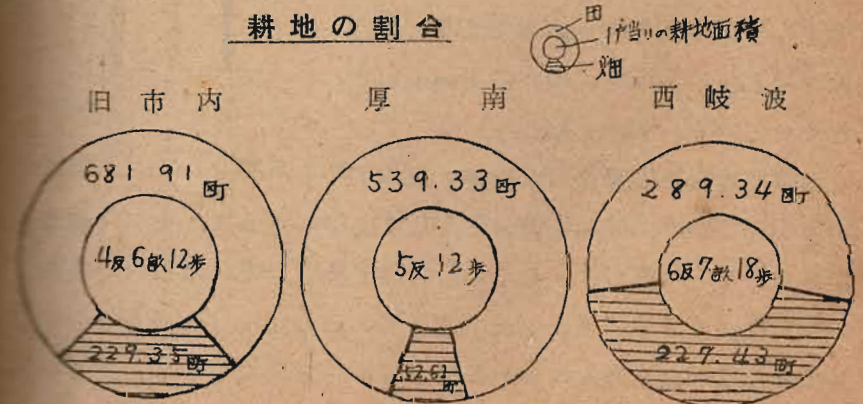
石炭がまだあまり掘られなかった時代の宇部の人たちは、開作によって耕地をひろげ、水田に水をひくことなどに苦心しながら、農業によって生活をたてていた。その後、鉾業が盛んに

	1921 (市になった年)	1950
田の面積 (町)	859.4	1,510.58
畑の面積 (町)	433.8	509.4
農家の数 (戸)	1,149	3,922
1戸当り耕地面積	1町1反2畝	5反18歩

なり、工業がおこるにつれて、田畑は次第に市街地と変り、炭鉾・会社の用地や住宅に吸いとられて、年々へっていった。地下で石炭を掘ったために土地が沈み、耕作ができなくなった田畑も多く(鉾害)1949年(昭和24)の調査によると、被害を受けた広さは234町となり、その中の190町は厚南区である。

戦後の農地改革によって土地の分けかえが行われ、小作は次第に自作に移って、1950年には、全耕地の7%を残すほかは全部自作になった。この改革と、農業をやめていた人が戦時中にもとに戻って農業をやりはじめたこと(帰農)などによって、農家一戸当りの耕

耕地の割合



地はますますせまくなり、5反18歩となった。

5反18歩の田畑を、宇部の農家全部が持っているのではない。1/2の農家は3反よりせまい土地を、1/4は3反から5反までの耕地をたがやかしているのである。このように1軒の農家の持つ耕地が少ないと、農業だけで生活をたててゆくことが、むつかしくなってくる。

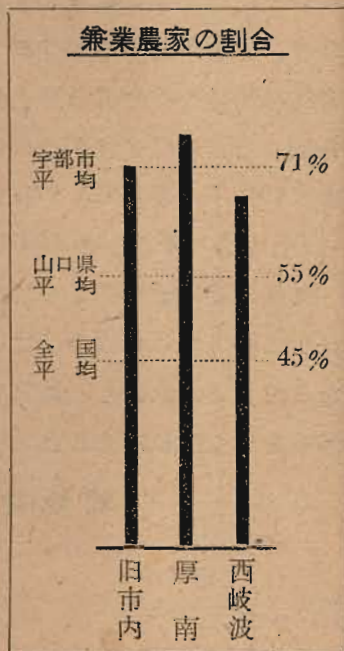
鉱業・工業の盛んになるにつれて、農業だけに努力するよりも、炭鉱・会社に勤めて働く方が、楽に生活できるようになり、農業のほかにこのような職業をもつ兼業農家が多くなってきた。

(註) 兼業には、農業を主とする第一種兼業と、他の職業を主とする第二種兼業の別がある。宇部は特に第二種兼業が多く、農家の約1/2はこれで、若い働きさかりの人は大部分、会社工場につとめ、田畑の仕事は老人や女の人がおもになってする家が多い。
 中国、四国地方は一戸当りの耕地がせまく、全国でも一ばん兼業農家の多い地方で、広島県が最高である。
 宇部の鉱業・工業の発達は、宇部市内だけでなく、まわりの農村の兼業農家をますますようになった。

厚南地区の広い平野は、昔の人の力でつくりひろげられた開作であり、御撫育用水路によって、稲作による水田となっている。(自然の部をみよ)

西岐波地区は山間部が水田で、床波から小郡にかけて続いた海岸の台地には畑が開かれ、大根・煙草を作るのによく、寒づけ・たくあんの加工も盛んで、ほし台(りんとう)を高くきずいて、大根をほしているのは、よく見られる光景である。このたくあんは各地に売出され、山口たくあんと言って名

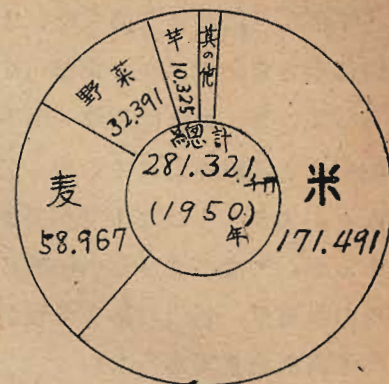
兼業農家の割合



高い。

このような特産品もあるが、農家全体から見ると、作物の80%以上を自分の家で消費する自給農家が多い。作物の種類別の収入は米・麦・野菜の順になっている。野菜のうち、1/2以上が大根による収入である。市街地へ売る野菜もよい収益をあげ、現金収入の多い畑づくりのために水田を利用しているのを見かけることがあるだろう。

農産物の収入 (単位1,000円)



農家で飼っている家畜の数は少なく、したがって田を耕すのに役だつ馬の数でも、全国平均は1戸当り0.6頭であるのに、宇部は0.2頭にもたりないくらいである。

機械の使用はどんなになっているか全国とくらべてみよう。

農器具1台を農家何軒で使うか。(1949年)

	石油発動機	電動機	動力脱穀機	動力収摺機	揚水機
全国(戸)	18	18	9	24	72
宇部(戸)	8.6	36	4.4	28	198

石油発動機は多いが、これがかえって、現在、電動機の普及をおくらせているような形となっている。機械化に全体的におくれている。1950年の調査によると、畜力も動力機械も使わず、昔のままの農具によって、人間の力だけで農業している農家が、225戸の数になっている。

漁業

宇部が村になって間もないころのことを書いた宇部村誌に「新川口に小さなかやぶきの家がふ、6軒あって、ほそぼそと魚をとってくらしていた。たまにしけ（海上のあれること）があると、他の村の船がここに風をよけて、持っているえ物をやすく売るので、土地の人々が集り、小さな市場ができ、えびやしゃ（乾えびを作る所）もあるが、やはりさびしい松原にすぎない」と書いてあるが、そのころの漁業や、新川のありさまが想像される。他の村というのは居能や床波あたりであろう。

現在、岬・床波を中心として、沿岸漁業が行われ、ひき網が約半数である。しかけは小さく、個人でする世帯経営が94%である。

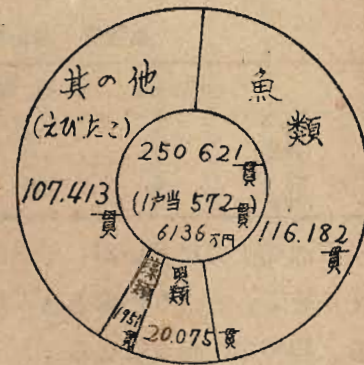
えび・たこ・貝柱・かき・のり・さわらなどがおもな漁獲物である。この中にはえびのように県下で一ばん多くとれる種類のものもあるが、工場から海へ流れる廃液などのために、市民の食べる量にははるかに及ばず、下関・仙崎方面からたくさんの魚を送り受けている。

えびは大正の初めごろ、非常に多くとられて、他の魚の数倍もの収益をあげていた。

車えびは陸に上げた後も、長く生きていたので、生きたまま、京浜・阪神地方に送られる。

海岸の砂地を利用して日光にほしていた乾えびは、明治年間につくり始められ、中華料理用としても盛んに輸出されたこともある。のりは厚東川の川じりで作られている。

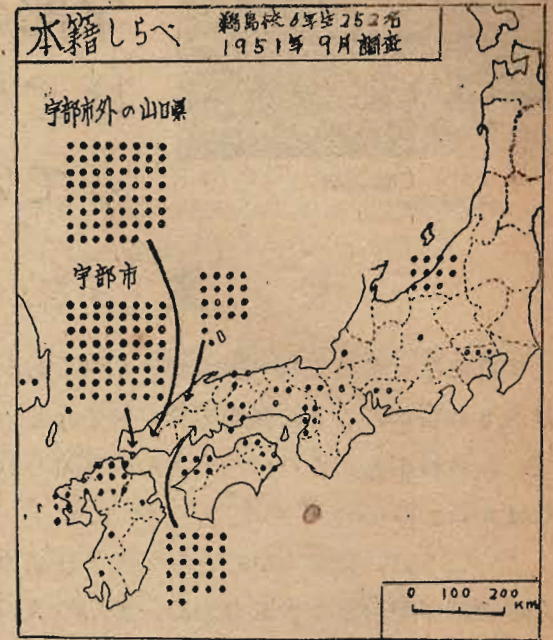
漁獲高 (1950年)



働く人たち

この図は、沖の山炭を通過区にもつ鶴島小学校6年生の本籍しらべである。

炭鉱業が盛んになるにつれ、方々から働く人が宇部に集まって来た。これ等の人たちの中には農村から農業のひまな時を利用して、季節的に来ていた人も多かったが、次第に宇部に住みついて、2代、3代と定住し、本籍も

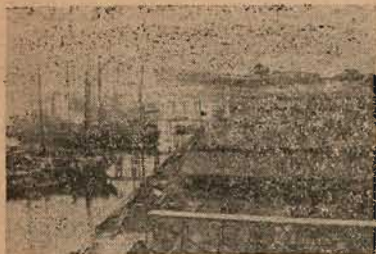


移して、宇部を故郷とし、その発展につくしたのである。宇部のちかくの町村からも、多くの人たちが会社・工場に集まって来る。(交通の部をみよ)

働く人たちは、それぞれ労働組合・協同組合を組織して、生活をまもり、働きやすい職場をつくり、生産能率を高めようとしている。

宇部の産業は、これ等の人たちの力の上に、きずかれています。

(市役所統計課資料・県統計課資料・各会社統計資料及び事業案内・石炭局統計資料・宇部商工名鑑・郷土宇部・宇部五十年誌・渡辺祐策翁伝・躍進の宇部・高野義祐氏談話・時事年鑑・世界地理大系日本篇・日本紡績史・中国地質誌・日本の天然資源・私たちの郷土山口県による。)



1921年（市制施行）ごろの
石炭積出し

宇部の経済生活 はどのようにな っているか

企 業（きぎょう）

宇部には大きな工場や炭鉱がいくつもある。これらの工場や炭鉱は大きな資本のもとに経営され、何千人という多くの労働者によって、大機械が動かされ、たくさんの集められた原料で、大がかりな生産が行われている。

このように、資本を中心として大きな動力を動かしたり、たくさんの原料を集めたりするために、多くの人々が一つの目的のために、働いているようなしくみを企業とよんでいる。

昔は小さな企業で、わずか数人でやっていたのであるが、生産が発達するにつれて、大きな資本によって多くの人を働かせる大企業ができたのである。

では宇部の企業は、どのように発展してきたのであろうか。

宇部式匿名組合

宇部の石炭が、始め農家のたきぎのかわりとして掘り出されていた時代は、個人で経営される程度のきわめて小規模なものであったが、やがて、瀬戸内海の塩田に用いられるようになると、一人で経営することがむづかしくなって、共同で経営されるようになった。これがこの地方に発達した独得のものであって、宇部式匿名組合といわれるものである。炭鉱を経営しようとする同志たちが集って、

それぞれ応分の資金を出しあい、採炭販売の諸経費にあてたのである。これら出資者の代表者を頭取とうとといて、事業についてのすべての権限けんげんをまかされたのである。しかし、時代の進むとともにその内容がさらに大きくなると、組合員（出資者）の手だけによって、すべての仕事をやるのがむづかしくなり、新しく組合員以外の人をやらといれるようになった。また、資金を出した者の中にも、労働や事務に適さないものなどがあって、炭鉱の仕事はせずにただ資本を出すだけの人もできて、宇部式匿名組合の内容に、大きな変化をみたのである。

そこで、組合は規約をつくって、事業の経営のしかたや、投資関係をはっきりするために、組合投資株券を出すようになり、組合総会も開かれてきた。ちょうど株式会社にも規約があり、株券があり、株主総会があるのと同じようなことが行われてきたのである。だから株式会社のしくみとたいした変りがなく、沖の山、東見初の二大炭鉱も、最近まで昔のままの組合のしくみを受けついできたのである。

現在宇部地方に63鉱あるが、大部分が匿名組合でわずか14鉱が株式会社組織である。

企業の発展

現在の炭鉱の投資は約3億円、年産出炭量は約254万トン余りで、これだけの数字をみても宇部が石炭企業地であることがわかるのである。これがみな宇部の人々の資本と労力によって行われたので、宇部に次々と事業が起るもとになったのである。

明治の末ごろから大正の初年にかけて、鉱業の発展をはかるために必要な企業があらわれ、さらに、その事業のみとおしがついてひととおりできあがると、厚生的企業が起り、1921年（大正10）市政がしかれてから、昭和5、6年にかけて産業界は大きな飛躍をみ、そ

の後、第一次世界大戦の好景気によって、一だんと発展をしたのである。

いま、この発展の有様を実際の歴史の上にあててみると、石炭鉱業の進むにつれて、どうして採炭能率を高めるかという問題がおり、幼稚な採炭方法から、蒸気機関を動力として用いることが1898年（明治31）ごろから行われている。その後、海底採炭を進めるために坑内の電化がもくろまれ、運搬・採炭・照明・通風・換気などのあらゆる方面に電気を用いるために電気事業が計画され1909年（明治42）に宇部電気会社をおこした。一方、宇部の鉱業開発に重要な関係のある交通も、1911年（明治44）宇部軽便鉄道会社を設け、西新川北町より西宇部駅間の工事を終り、電車を通したのである。さらに商工業都市にするために1921年（大正10）宇部軽便鉄道を宇部鉄道とあらため、小郡まで延長した。

日清日露の戦いの後、経済界の好況につれて急に発展し、石炭鉱業も非常な発展をしたので、どうしても金融機関が必要となった。いままでのように個人同志の貸し借り、あるいは頼母子講などでは間にあわなくなり、1901年（明治34）に福川銀行支店が、さらに1912年（大正元）宇部銀行が設けられたのである。また、炭鉱が機械化されるようになったので、機械製作工場が必要となり、1914年（大正3）宇部新川鉄工所ができた。これは後に株式組織となり、名も宇部鉄工所と改められた。また、宇部紡績所が設けられたのもそのころである。

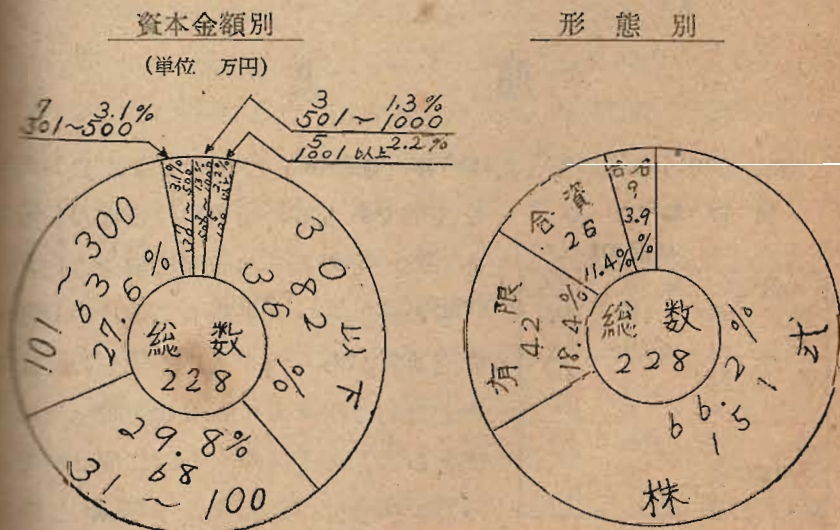
このように大正初年までに、宇部は産業都市としてのりんかくができあがったのである。宇部の事業は1921年（大正10）市制がしかれてから昭和5、6年の間ににわかになび、その後、第一次世界大戦の軍需景気と、戦後のインフレーションをうけて、非常な発展を上げた。1923年（大正12）セメント工場、1933年（昭和8）宇部炭の

工業化による宇部チッソ工場、1936年（昭和11）にソーダ工場などの化学工業がおこった。こうした工場がたてられたために機械の利用が高まるとともに、一方機械油をつかうことも増したため、製油事業はかなり有望となったので1928年（昭和3）日本発動機油会社が設けられた。

宇部は工業をおこすに都合のよい条件、とくに各炭鉱から掘り出されたボタで埋立てられた安い工場用地のあることや、事業の将来に大きな希望もてるなどが次第にほかの地方の人々にまでも認められるようになり、どしどし適当な企業もくろまれるようになった。しかしこうなると限りのある宇部の資本だけでは企業を十分におこすことにことかく場合も出て来た。

そこで宇部以外の資本による企業が計画され、これに宇部の資本もいっしょになって事業を進めるといふ傾向の時代へ進んだのである。この傾向は何事も宇部の産業は宇部の人によってという古いし

会社調 昭和25年度市商工年鑑による



註 (総数228は会社数を示す)

きたり（宇部モンローといわれている）に対して非常な変り方であった。また、働く人々がほかの地方からどんどんやってくる、宇部を第二の故郷として土着し人口も急に増すようになったからでもある。

ここに宇部以外の資本との協同の事業の2,3をあげると、チタン工場・理研金属会社などがある。それとともに、宇部の資本による企業が朝鮮その他の土地に進んでいったのである。やがて日華事変・太平洋戦争がおこり多くの企業は政府に統制され、国家管理のもとにおかれた。そして戦争が烈しくなるにつれて学徒はペンをおいて工場・鉱山その他各方面に動員されたのであった。この戦争中に総合企業体としての宇部興産株式会社が1942年（昭和17）に生まれたのである。

以上の多くの企業は経済界の変動にともなうて多少の変りはあったがおおよそ堅実な発展をとげ次々に資本を増加し、工業都宇部は広く国内に認められるようになった。

商 業

宇部に新川の村ができた1897年（明治30）ごろまでは、農業が主物のねだん

品物の名	数量	ねだん
硬 球	1個	18匁
牛 肉	100匁	15匁
黒 砂 糖	1斤	4匁
エンピツ	1本	1匁
絵 具	12色	6匁
全科参考書	1冊	8匁
雑誌少年世界	1冊	7匁

で、通い先は特別に大切にしていた。夜間営業をするまでになっ

な産業であって、商業ははなはだ幼稚であった。そのころの商店は教念寺門前の「寺の前」と「大小路」に数戸の日用品を売る店があった。「寺の前」の村は売店と行商の半々で、店では一錢以上は掛売とし盆と節季（年末）の二度払いであった。現金はつかわず、大福帳と通帳

ていなかった。しかし居能・藤曲は早くから小さな町になっており、宇部村の人々やとなり村の人なども買物にいられた。また、床波あたりからも鮮魚や必需品の行商がきていた。その他の品物は必要な時に船木や下関（馬関）にいられて買求めてきた。しかし、毎年四月五日（旧暦）の新川の「市」には、農具・笠・みの・桶などの農具が売買され、年末には寺の前市（12月19日）大小路市（12月17日）があつて、筆・かんざし・煙草入れ・串柿・数の子・たらなどの正月用品が売られ、地方から商人がたくさんはいらこみ、見せ物などもあつて相当ににぎわつた。そして秋には野中に「新宮市」（秋の彼岸）がたち、鎌・すき・くわなどの収穫用農具を売つた。

このような市は農民が出やすい農閑期に開かれ、次の季の仕事に必要な農器具類を買求め、大いに利用したのである。

ところが炭鉱業の発達につれて、他地方の人々が宇部にどんどん移住してきて緑が浜（沖の山）一帯の地は、人家が多くなり、町がつくられ1897年（明治30）自然に商業も活気づいてきた。商業人の多くはこのように他から入りこんだ人々で、無資本でやってきたものが多かつた。資本は10数人の頼母子講によって得たのである。当時大へん頼母子講が多く、また栄えた。そして頼母子が金融面において重要な役割をせめていたのである。それらの人々の中には頼母子金をかけることができなくなって「ケツワリ」（夜逃げ）をした人も少くはなかつた。また保証人はこれらの人々の掛金を負担する責任があつたので保証人もともに破産することもあつた。商業人の多くは無信用無資本のはだか一貫で出発したので苦勞も多かつた。「信用は努力によって」「資本は頼母子によって」経営したのである。そのころの売りこみ先は、炭鉱の仕入れ（交付所）や社宅であつた。こうした点は宇部の商業が他の都市の商業と大いにちがう点である。また、もう一つの特徴は宇部の景気を動かすのは石炭

で、炭鉱が不況であれば宇部は不景気であるという点である。だから宇部の商業は鉱工業の発達にともなって栄え、鉱工業の盛衰はそのまま商業の盛衰になるのである。だから町も長鉱がおもになってつくられ、雑然としていたようである。

このようにして宇部の商業はきずかれてきたのであるが、1945年(昭和20)戦災によって、その中心街を焼いてしまったのであるが、今や近代的都市復興計画により全く一新されようとしている。

さて、本市の鉱工業の生産的施設は非常に発達しているのに、商業がわりあいおけているといわれるが、これは中小企業への条件が余りよくないということ、事業を計画する場合に、生産第一を目ざし全市をあげてこれに全力を注いだので、この間、他をかえりみずるとまがなく、自然に商業は第二位に取扱われたことから、商業で得た利潤もそのままを商業経営費にあてずに鉱工業方面に投資して、商業の一本道への精進が欠けたことなどが原因らしい。しかし宇部の消費力は県下で最も高いというめざましい強みであり、近代的都市は建設され、交通機関も整備され、商業の基礎はできてきたので、商業の本格的な発展は今後のこととなる。戦後、商圏は拡大され近郷より買物にくる客もめだだ増えて多くなっている。 (宇部市商工会議所資料・宇部市制十周年誌・末広重夫氏談、などによる。)

金融 (きんゆう)

明治のはじめの石炭の採掘は、親友知人などが頼りて資金を出しあい、また、商業資本は頼母子講によっていた。ところが日清・日露戦争後の経済界は急に活気を示してきたので、それまでのような個人の借り貸しや、頼母子ではとうてい資本をととのえるということがむつかしくなった。そこで1901(明治34)福井銀行宇部支店

が設けられた。これが宇部で最初の独立金融機関である。1912年(大正元)宇部銀行が資本金30万円で設けられ、その後、資本を増して、地方金融の重要な地位をしめるにいたった。その後鉱工業の発展につれて各種の金融機関がつくられたが、金融は経済の動きをよくあらわすもので、その実情を知るうえに、あるいは経済再建の問題を知るうえに重要な資料となるのである。

金融機関の種類 (昭和26)

金融機関名	数	金融機関名	数
銀行	10	無尽会社	3
信用組合	1	生命保険	
農業協同組合	13	火災保険	
漁業協同組合	2	証券会社	

現在の金融機関は次の表の通りである。

その他、古くから質屋・無尽・頼母子講・高利貸があるが、貸しつける金額も少なく、利子も高い。

金融機関別予(貯)金貸出 昭和25年度 (単位千円)

種別	予金高	予金払戻高	予金残高	貸付高	貸付残高
銀行	38,222,304	37,518,564	2,062,696	9,298,407	2,062,696
信用組合	545,266	516,996	100,365	—	100,305
農業協同組合	213,604	201,415	80,137	—	80,137
漁業協同組合	11,657	12,247	2,612	—	2,612
郵便局	363,441	327,308	—	—	—

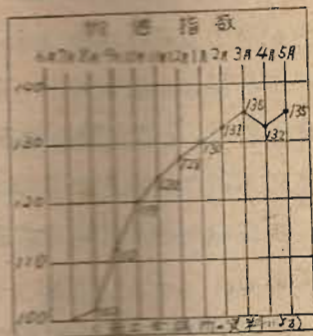
貯蓄組合の現況

種別	総計		地域組合		福地組合		業地組合		その他	
	昭24	25	24	25	24	25	24	25	24	25
組合数	154	187	120	132	16	36	4	5	14	14
組合員数	22,162	32,157	4,728	4,967	2,978	7,533	1,140	1,180	18,316	18,477
貯蓄額	135,749	167,098	7,297	4,337	—	6,662	2,500	111	125,952	155,988

(宇部市勢要覧による)

家 計

(1) **物価** 私たちはいろいろの買物をしてみて、物価が上ったとか、下ったとかいう。この物価の動きを表すものとして、物価指数がつくられている。これは通貨のねうちの変化を表すものであり、私たちの生活が楽になったか、苦しくなったかをみるのに利用される。



昭和25年5月現在に動乱がおこってからの昭和25年5月までの1年間の物価指数をあらわす

関物価指数 (昭和22年3~4月における物価を100とする)

	23年10月	11月	24年1月	3月	4月	5月	6月
穀類	214.0	245.4	309.5	292.6	325.2	329.2	329.3
蔬菜類	405.0	452.3	191.0	215.5	406.8	386.3	255.7
調味料	438.1	317.6	245.4	284.8	271.1	274.7	329.5
衣料品	384.5	250.8	470.5	291.8	303.0	303.2	298.4
建築資材	437.3	493.2	182.3	174.1	174.1	174.1	179.4
家具類	240.3	243.5	256.2	219.8	237.1	234.2	237.1

(宇部統計時報による)

エンゲル指数による市別生活階級

市別	生計費	食料費	食料費+生活程度順位
宇部	14,456円	7,207円	49.9% 8
下関	13,255	6,802	51.3 9
小野田	15,380	7,235	47.0 5
山口	16,780	7,083	42.2 2
防府	13,180	6,134	46.5 4
徳山	15,670	6,931	44.2 3
下松	14,084	5,924	42.1 1
光	12,912	7,178	55.6 10
岩国	13,815	6,803	49.3 7
萩	12,697	6,251	49.2 6

(昭和25年5月の内閣統計局の調査による、総理府統計局の発表)

(2) **家計** 私たちの家の中には、家計簿をつけている家があるだろう。これを見ると私たちの家の家計がよくわかる。

家計とは家のお金の出し入れのことである。家計も家により、所により、さまざまであるが、一般にいて支出の中で衣食住がほぼ30%ずつをしめ、あとの10%が貯蓄されるのが標準とされている。宇部市は生活必需品その他の物価は、山口縣にある他の都市の中で高いといわれる。だから

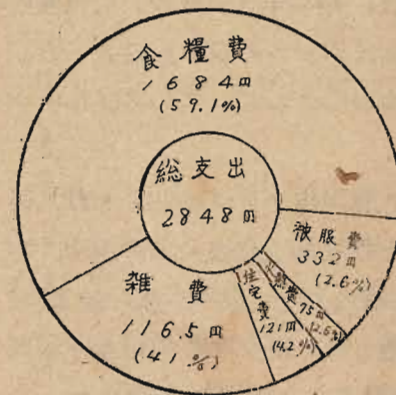
生活費も多くかかるとみられている。

一世帯当り一か月の費目別平均支出金額 (単位円)

市別	食料費		諸費				負担金及貯蓄金	現物収入消費見積	平均支出金額
	主食	非主食	被服	光熱	住居	雑費			
宇部	7,207	3,211	1,423	322	519	2,720	1,512	753	12,191
下関	6,802	2,929	1,527	364	443	2,504	893	722	11,640
小野田	7,235	3,065	1,627	287	586	3,003	1,834	808	12,733
山口	7,083	3,213	1,899	481	792	3,725	1,614	1,183	13,980
防府	6,134	2,787	1,320	405	549	2,705	862	1,205	11,113
徳山	6,931	3,323	1,768	563	858	2,848	1,694	1,008	12,968
下松	5,924	2,920	1,388	402	626	2,852	1,903	989	11,192
光	7,178	3,338	1,354	590	405	2,187	473	725	11,714
岩国	6,808	3,143	1,097	370	422	2,680	1,530	908	11,377
萩	6,251	3,227	1,069	405	504	2,502	999	967	11,377

総理府統計局の発表 (昭和25年5月実施の特別消費者価格調査による)

一人当り生活費 (1か月) (昭和25年5月中) 宇部市統計資料による



(3) **家計の改善** 私たちの生活は、各種の統計が示すように最低生活程度で標準よりはるかに下にある。家計を改善するためには、まず収入によって支出を考え、家計にも予算をたて、家計簿をつけてむだをなくし、節約につとめることだ。また上手な品物の買い方をすることも大切である。さらに、安い物を買うために、消費者が集まって消費組合や協同組合をつくるという方法もある。

宇部の政治は どのように行 われているか



市広報課主催の「市民の集い」

政治のうつりかわり

むかしの宇部

今から772年前ごろ、厚東氏が霜降山に城をつくって、約150年の間、この地方をおさめた。1358年(正平13)には厚東氏を滅ぼした大内氏がかわって199年間おさめたのであるが、大内氏は貿易に重点をおき、居城だった山口は非常にさかえたが、宇部地方は住む人の少ないさびしい所であった。その後、1533年(天文12)大内義隆は陶晴賢のために殺され、次ぎに毛利氏がおさめることになった。1625年(寛政2)福原元俊が毛利の命令によって、このさびしい宇部に領主として移って来た。

福原氏は川上・小串・琴芝・梶返・恩田山・葦江・中村・丹太郎・中尾・大小路の10区に分けて政治を行った。そのころの家数982軒、人は4462名、職業は農家936軒、職人24軒、酒屋2軒、通船持5軒、盲僧6軒、雑6軒のさびしい所であった。福原氏は椋梨権左衛門俊平などの家臣をつかって、収入を増すために開作事業を行った。石炭の採掘に努力したりした。その半面に追込・閉戸・入牢・死罪などの重罰も用いた。当時の技術としては石炭の採掘もわずかであり、沖の山(緑ヶ浜)はただの砂原であって、特別な収入もな

く、相当苦しい生活を送っていたと思われる。

次の表は福原氏時代の政治組織、この時の産物と税金をあらわしたものである。村民の生活状態を考える一つともなる。

福原氏政治機構

階級	家老・中老・中臣道・中御手廻組 平士・業士・6種と足軽中間の 階級に分れる	この時代の産物 (風土注進案より)	租 税
職務	宇部田地~(611町9反4畝18歩)	米	2986石3斗9合1勺
御 当 職	すべての政務をとる	畑地	333町6反3畝26歩
組 率 行	文武の仕事をかんとくする	馬	631頭
御 目 付	悪いことをしなにかしらべる (3人~4人)	牛	18頭
御 代 官	足軽などをおさめる	米	8342石6斗5升4合
御 奉 者	お客の接待などをする	麦	3149ヶ2ヶ6ヶ8ヶ
御 所 帯 方	会計の仕事	大豆	540ヶ5ヶ8ヶ0ヶ
御 手 元 役	秘書官	アワ	34ヶ2ヶ0ヶ0ヶ
御 普 請 方	管轄の仕事	小豆	142ヶ9ヶ4ヶ0ヶ
御 山 方	山林の仕事	大根	13000荷
御 式 台 詰	受付の仕事	カボチ	244ヶ
横 目	御目付の仕山の手伝い	ウリ	90ヶ
御 当 職 手 子	悪い人のとりしまり	ナス	200ヶ
手 子	警察のような仕事	タバコ	431斤
庄 屋	税金のとりたてや村長の仕事	ナシカキ	127匁5分
畦 頭	税金をあつめる仕事	マキ	660荷
			米 14貫924匁3分4厘
			島銀 123匁2分6厘
			浮役銀 1貫821匁0分6厘
			門役銀 513匁3分3厘
			鉄砲役銀 1貫821匁6厘
			蹄役銀 72匁
			皮役銀 6匁
			イモ糎 7把
			雁 2羽
			水役銀 108匁
			大工などの職人は 労力を提供する。 しない時は水役銀 を出す。

明治時代

1871年(明治4)これまでの武士が政治をとる藩政がとりやめとなり、新しい県の制度が行われたが、そのころこの地方は川上・宇部・小串の三か村に分かれ、1872年(明治5)には藤曲・沖の旦の両村を合わせ、1874年(明治7)には川上・上宇部・沖宇部を一つにして役場を寺の前に置き、中宇部・小串・沖の旦を一つにして藤曲に役場を置いた。その後1879年(明治12)地方自治制の法律がでたので、川上・小串・上宇部・中宇部・沖宇部の5か村を一つの行政区としたが、不便が多いので、1889年(明治22)5月に5か村を合わ

せて、宇部村という名実共に一つの村ができた。最初の村長は山崎峻蔵という人である。

宇部村ができる前、1886年（明治19）宇部共同義会、1888年（明治21）宇部達聰会^{たつそうかい}の二つができて、一つは公共事業団体として、他は政治団体として、大きな影響をあたえているので、その由来・目的について調べてみよう。

毛利藩の家老職であった福原越後が京都の戦に負けて（禁門の戦）その責任をとって切腹するために徳山へ行かれることを聞いた住民は、毛利殿様の命令で戦うことが国家（当時の人は毛利藩と考えた）のためになると信じていたのに、殿様（毛利藩主）の責任でなく領主（福原越後）が罪を負うことになったので、不満でもあった。領主が宇部を出発する時、「宇部の人^{たつそうかい}は自分の力で生活を守ることだ。他の力を借りて生活を守ることはいけな

い」と言いのこしたということである（紀藤開之介氏談）。住民はこの言葉を肝に銘じ、自分たちの力で自分たちの生活を守るために、産業・教育を興す気力をふるいおこし、有終会・防長南部懇親会・一致会などを結び、政治・経済各方面の研究がすすめられた。

ちょうどこのころ、県から宇部各家に生活の補助金が配布されたので、この金をあつめて、法律にふれない範囲で公共事業を行おうではないかと相談し、人々の賛成を得たので、宇部共同義会が生れたと言われている。この会の目的は「本会は山口県厚狭郡宇部村に於ける勸業・教育・土木・衛生・兵事・慈善その他公共事業を助成し、村治の開発ならびに民風の作興を期するを以て目的とする」とある。この会ができたころ、宇部産業のもとである石炭鉱区の権利を小野田方面の人がとったので、福原芳山が伊藤博文の仲たちによってその鉱区を買取り、共同義会に寄附したので財産もでき、図書館・学校・下水工事・兵事の各方面が活動するようになった。

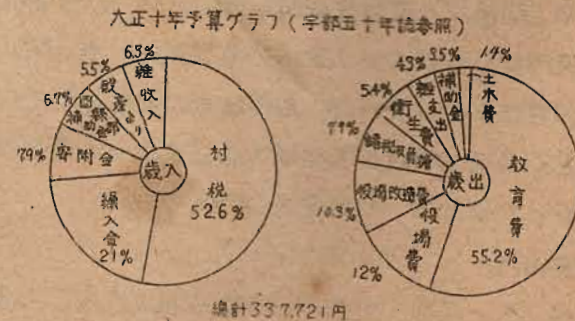
た。

一方達聰会は宇部産業の発達によって、人口も多くなり、なかなか意見がまとまらず、村の政治がうまく行われな

いというので、「宇部の公共に関する項につき、衆智をあつめて公平無私の意識を以って、利害得失を討議・論究し、その決議を一致させ、世論として公衆の向う所を定め、共同一致の事項を挙ぐるを以て目的とする」会がつくられた。いろいろな選挙があっても、達聰会は打合せを行い、候補者を決定し、世論の統一をはかっていた。このころ中央議会では政友会・憲政会の二大政党が対立していた時で、渡辺祐策・林仙輔など政友会に参加していたので達聰会も政友会と同じような動きをしたと言われている。

大正時代

その後、ますます産業がさかんになり、人口も増加したので、達聰会などが中心となって、市制をしく運動が始まった。この運動の裏には農民と石炭人との間に、感情のもつれ、利益の対立などの争いもあったが、時の村長国吉亮之輔はよく努力したので、日本中にその類を見ないほど急激に発展した土地として1921年（大正10）11月1日から市制がしかれた。また同時に市民の守るべき道として市憲をつくり、市政第一歩を踏み出した。この時の財政が次の表である。



市 憲

- 1, 皇恩の渥きを奉戴し益々義勇奉公の誠を致すべし
- 2, 固有の美風を發揮し協同一致の精神を貫くべし
- 3, 公德を守り推譲を重んじ共存同栄の実を挙げべし
- 4, 勤儉力行以って文化生活を進め大いに社会奉仕に努むべし
- 5, 世界の進運に鑑み鋭意内容の充実を期し本市の使命を完うすべし

新しい動き

市制が行われてから、達聰会によって世論の統一をはかっていた時代の流れは、宇部にも労働運動がおこり、明八王子の植木鉦氏などや1929年(昭和4)日本大衆党・宇部合同労働組合などをつくり、また1933年(昭和8)市民同盟などの革新的なものの団結が行われてきた。

むかしの西岐波

西岐波は記録によると、賀保庄白松郷岐波村とよばれていた。岐波村は海の際を岐波と書いたらしい。最初厚東氏がおさめていたが、大内氏が代り次の毛利氏の時、床波大沢附近を福原氏、諸川附近を萩の毛利氏、片倉附近を内藤氏、上原附近を細知氏、白土吉田附近は毛利氏直轄の土地としておさめられた。

常盤池・蛇瀬池がつくられたころ、現在の床波駅附近が開作されだんだん開けてきた。そのうち家数1,480軒、人口6,333人に発展したので1879年(明治12)に岐波浦が東西に分れた。宇部達聰会をまねて錦波協会がつくられたが、政治に直接関係しないで、村の予算外の支出などを取り扱っていた。この地方の特色として、漁業のさかんなこと、台地を利用して生産される名物たくあんづけの売れゆきがよくなったことで、村が発展した。

むかしの藤山村

藩政時代は上条・藤曲・居能の一部は毛利氏直轄、上条・上中山・居能の一部は豊浦郡阿川毛利氏、中山下組は山口の益田氏、浜

田・松崎は毛利氏の家臣二宮氏、平原は鷲津氏の領地としておさめられていた。その後、少しのかわりがあったが、1893年(明治26)役場を藤曲上条におき、最初の村長は中村正輔であった。この村は安政年間ごろから、海運業・漁業の中心となり、居能は小市街地になっていた。藤山村の人の航海術は非常にすぐれ、長崎・琉球・朝鮮方面までも船を出していた。宇部で掘り出した石炭も、居能へ運び、その海運業者が瀬戸内海の塩田地方などへ売りだしていたのである。

むかしの厚南村

厚東氏のころより多くの船が出入し、海岸附近は人が多く、その後、塩田業がよく発達し、文化年間には30町歩以上の塩田があった。毛利氏の時さかんに開作が行われ、石炭採掘とともに農業もよく発達した。藩政時代は船木宰判の命を受け、際波村・中野開作・妻崎開作の三ヶ村を一つの行政区域とし、1889年(明治22)には厚南村となり、最初の村長は小野直一であった。明治の終りごろから、宇部・小野田の鉦工商業の発展につれて、厚南の農業・清酒醸造も次第にさかんになっていった。

このように宇部・西岐波・藤山・厚南はそれぞれ発展してきたが近代産業の発達によって、1931年(昭和6)8月1日藤山村、さらに1941年(昭和16)10月20日厚南村、また1943年(昭和18)11月1日西岐波を合併して、現在の宇部市ができあがったのである。

その間、日華事変・太平洋戦争の進むにつれて、経済・思想・言論の統一が行われるとともに革新論がおとろえ、大政翼賛会などが活潑となった。しかし終戦によって、民主主義の大道であるところの、人民の、人民による、人民のための政治が行われることによって、宇部市政は大きな変化をするようになった。

市 議 会

選 挙

市民が「学校をたてたい、道路を広くしたい、上水下水をつくりたい」などの希望をもっても、一人ではとてもできない。また宇部市のやり方を定めるために市民の全部が集まって会議をすることもできそうにはない。そこで市民の代表者をきめて、その人が市民にかわって、市民のためになるように、話しあいや仕事をしてもらうことにした（代表制民主主義）。市民で代表をきめる資格は、男子も女子も20才以上の宇部市民にはあり、67,044人（昭和26年4月23日現在）の人がもっている。この人たちが自分の考えに最も近い人を代表者として選挙するのであるが、右の投票率を見ると、選挙しない人が案外に多いのにはおどろく。なぜこのように棄権する人がいるのか考えなければならぬ。

昭和22年4月知事	69%
〃 〃 市議会議員	59%
〃 〃 市議会議員	77%
〃 〃 市議会議員	77%
〃 24年1月市議会議員	65%
〃 23〃11〃教育委員	44%
〃 25〃6〃市議会議員	68%
〃 26〃4〃市議会議員	75%

(1950市勢要覧)

市内には自由党・社会党などの政党支部があって、宇部市・山口県・日本の政治についていろいろな方面からの考え（政策）を市民に呼びかけているが、市民はどのような考え方でそれを投票にあらわしているか、次の表で考えてみよう。みんなの学校で選挙をする時、投票

党 派 別 得 票 数

	民自党	社会党	国民民主党	共産党	無所属	その他	
参議院(全国区)	10,918	12,292	1,728	3,568	6,653	4,259	昭和25年6月
衆議院	22,987	7,752	0	6,984	4,141	1,330	24年1月

(選挙管理委員会調)

用紙に落書したり、白紙のまま投票したりする人はないだろうか。

無効投票についての調べ

(昭和26年4月市長、市会選挙)

	市長の場合	市議の場合
正しい用紙を用いないもの	7	25
候補者でない名を書いたもの	1,531	715
2人以上の名をかいたもの	0	3
名前以外に他のことをかいたもの	23	11
誰れをかいたか不明のもの	34	290
白紙投票	753	58
雑事をかいたもの	400	48
記号符号をかいたもの	484	52
自分でかかないもの	1	2
計	3233	1204

(選挙管理委員会調)

左の統計を見ると、正しい投票をしない人が多いことがわかる。

私たちは選挙する時、どんな注意が必要であり、どんな人を選挙したらよいかを、いつも考えるのは与えられた一票をねうちのあるように使おうとする

ことであって、大事なことである。

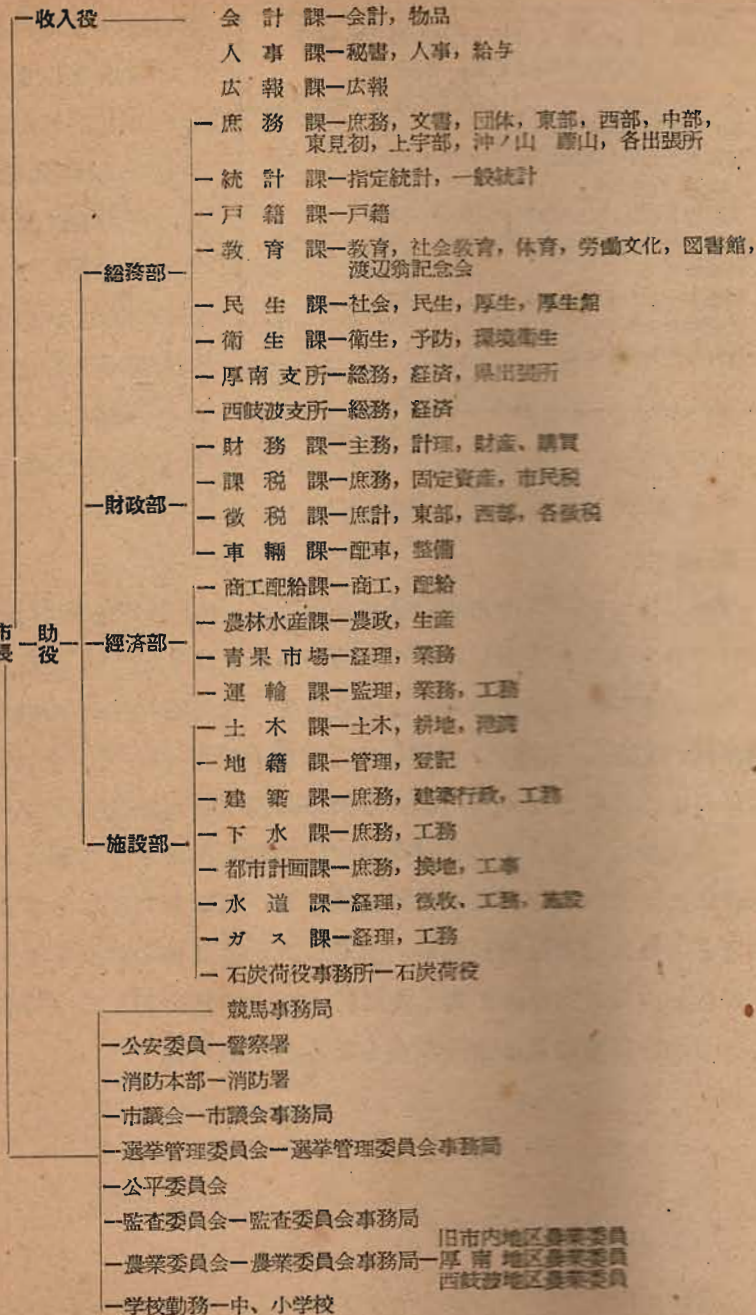
市 議 会

選挙によって36名の市議会議員が選ばれ、年6回以上あつまって、市の予算・決算を審議し、またいろいろなきまりをつくったり、市民からの請願を審議する大きな役目をもっている。この市議会には総務部・経済部・財政部・施設部などの委員会があって、市議会議員はどれかの委員となって、ひごろから調査・研究をつづけている。

一度選挙しても、その市議会が市民の考えとあまりちがうという場合には、有権者の3/4以上の賛成による、選挙をやりなおすことのできるような国の法律がある。選挙しただけで市の政治をまかせきりにしないで、市役所の議事堂に行つて、市議会がどのように動いているかを実際に見る市民が多くなる必要がある。

宇部市役所機構図

(昭和二六・七・二五)



行政

市役所の組織

市議会できまった予算やきまり(条例)を, 責任をもって実行するのは, 市民が投票によって選んだ市長によって行われている。市長は任期の4年間, 市民の幸福のために, 事務員・技術者・消防署員をやとって仕事をしているが, 次の役目の人は市議会の同意を得て, 任命している。

- (イ) 助 役 任期4年 市長をたすけ, 市長のいない時は代理をつとめるとともに事務員を指導する。
- (ロ) 収入役 任期4年 市の会計の仕事をする。
- (ハ) 選挙管理委員会委員 (4名) 任期3年 選挙に必要な事務が正しく行われ, 市民が棄権しないよう運動する。
- (ニ) 監査委員会委員 (市議会議員より2名, 学識の高い人2名を選ぶ) 任期2年 市の仕事が正しく行われているか, どうかを総べての方面より調べる仕事をしている。
- (ホ) 公安委員会委員 (3名) 任期3年 法律によって警察を管理する仕事をしている。

だいたい以上の人々が重な役目についているが, その実際上の組織は, 市役所機構図のとおりである。

財政

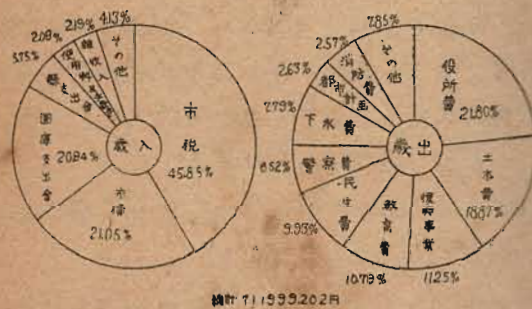
市で学校をたてたり, 道路を広くしたりする費用は, 税金によって, ほとんど行われている。学校のガラス・机・下駄箱などもその一部である。このために昭和26年度の市民税は1人平均755円, 市財政全部の市民1人負担は平均2,695円という高にのぼっている。

もし、学校の生徒がたびたびガラスを破り、机などを粗末にすれば、市民の出した大事なお金をむだにしたことになるだろう。この税金のおさまっている割合を市民税についてみると、昭和23年度90%、昭和24年度82%、昭和25年度87%という状態である。納税は住む土地をくらしよくするためであるし、市民としての大事なつとめであるが、どうして100%納らないのだろうかと考えてみなければならぬ。

市の台所はどうなっているだろうか。どの方面に金がかかわっているだろうか。つぎの円グラフをよく見ると、宇部市の財政としてはいつてくる金（歳入）つかう金（歳出）の割合がわかるだろう。昭和26年度の予算では総計711,999,202円という高になっている。

昭和二十六年年度予算

広報シリーズ「予算のはなし」参照



参考

歳入と歳外収入の占める割合は49.54%で市民1人当たり2,485円の負担となる

内訳(歳入)

- (イ)市民税 123,694,200円
- (ロ)固定資産税 129,609,451
- (ハ)雑税率 20,000,000
- (ニ)電気元金 45,000,000
- (ホ)自転車税 2,743,400
- (ヘ)契券税 1,078,200
- (ト)広告税 200,000
- (チ)本利引戻税 5,000
- (リ)娯楽入税 240,000

(広報シリーズNo.5予算のはなし)

司法(組織)

私たちの生命財産をまもるために市では、どんなことをしているだろうか。私たちが静かに眠っている間でも一生懸命に市民のまも

りをつづけているのは自治警察である。自治警察は公安委員会によって任命され、いろいろの仕事をしている。昔の警察は上から命令された人が、私たちをにらみつけるような役目をしていたが、今は

警察組織

市長—公安委員会—警察長一次席—

- 警務課—警務、教養、会計
- 警備交通課—警備、交通
- 捜査課—司法、鑑識、刑事
- 防犯課—防犯、保安
- 経済警察課—経済警察
- 警邏隊—本部警邏隊一分遣警邏隊

私たちの代表者がきめているから、大へん変わった感じがする。

事件がおこると警察はよくしらべ、証拠を集めて、神原公園にある簡易裁判所から逮捕状をもらって犯人を逮捕し、検察庁

に送り裁判にかけて、刑がきめられている。宇部簡易裁判所は軽い罰金刑・窃盗罪のみ裁判して、他の事件は船木裁判所できめられている。簡易裁判所はこのほかに土地や家のゴタゴタについても中に入れて裁判し、短時日の間に解決している。

(防長風土註進案・宇部村誌・宇部50年誌・宇部10周年誌・昭和25年度市勢要覧・警察年報・広報シリーズ・厚狹郡誌・宇部時報「西岐波物語」・選挙管理委員会「選挙の跡」・紀藤開之介氏・山田亀之介氏・真宅正一氏・市課税課長・広報課長談などによる。)

宇部市の位置

本州の西のはし(山口県の南西部)にあって、東経131度、北緯23度56分にあたり、東は吉敷郡東岐波村に、北東は吉敷郡阿知須町に、北は厚狹郡二俣瀬村に、西は小野田市に接しており、南は周防灘をへだてて、はるかに九州の山々をのぞむ位置にある。

東京からは鉄道で1,800kmあって、おおかた、1昼夜ほど汽車に乗っておらなくてはならぬ。

字部の交通・ 通信はどのよ うに開けたか



50m道路と市営バス

道路と橋

まっすぐにつけられた50mのはば広い道、立ち並ぶ街路樹、絶え間なくいききする自動車。この光景をかりに百年前の人に見せたら、りっぱさにおどろくより、この広さをなぜ田畑にしないのかと苦情をいうにちがいない。

昔の人にとっては、作物をつくる土地が、何よりも大切だった。明治維新ごろの字部の道は、ほとんど田に行くためにつけられたもので、家のかげなどの作物のできない所を、まがりくねってつけられたものが多かった。人と馬がやっと通れるほどのせまい道だったが、人々はこれをあまり不便とは感じなかった。馬車や荷車を使うことは少なかったし、道はばを広くするよりも、田畑を多くとりたかったからである。

明治20年ごろ（19世紀の終り）になって、床波から浜に通う東西線と、寺の前から岬にむかう南北線の、二つの幹線の道幅が2mくらいにひろげられ、そのころの人はその広いのにおどろいたといわれている。当時、寺の前・大小路・藤曲・居能に小さな町が開け、店屋もあったが、品物の数が少ないので、船木や、遠く下関まで、厚東川を渡って買物に行かなければならなかった。

厚東川には橋がなく、沖の旦（岩鼻）の渡し・中渡し（岩鼻）・居能渡し

（小野田線鉄橋の少し上流）の渡し船が、向う岸との間をいききしていた。そのうちに3厘の渡し賃が次第に高くなり、橋をかけた方が便利だというので、琴川橋がかけられ、東から西の岸へ始めて歩いて通ったのは、1908年（明治41）だった。木造のこの橋をかけるのに、まる1年もかかったのである。



註 船木は山陽道にそった宿場で、そのころのあたりで最も発達した町で

あり、商業の中心地であった。山陽道は、明治の初めまでの、日本の大切な交通幹線の一つで、参観交代や、上方と九州をいききする人でにぎわった。今も松並木が昔の名残りをとどめているが、このあたりでただ一つの大きな道だったのである。

鉄道が開通し、山陽本線が南へまわってしかれてから、船木は次第にさびれて行った。船木の人の中には、宿場がすたれるといて、鉄道をしくことに反対した人が、多かったそうである。

真締川の上流の樋口には、ふるくから橋がかけられていたが、下流の方は緑が浜（最初は沖の山と言っていた）というさびしい松原で、人通りも少なく、潮のひいたところをとび石づたいに渡っていた。

この長い松原に道が開け、家がたち並んで町らしくなったのは、沖の山炭鉱が開かれた1897年（明治30）ごろで、今の錦橋のあたりを渡し船がいききし始めた。その後1900年（明治33）に始めて木造の新川橋がかけられ、8年後には鉄造りにかえられた。

そのころ一ばん人通りの多かったのは、東区の松が枝町と、西区の三炭町のすじだった。今、官庁街である常盤通りは、戦災前までは商店の軒を並べた繁華街だった。この通りが開かれたのは、大正

になってから(1912以後)で、^{みどりばし にしきばし こきよばし}緑橋・錦橋・寿橋が次々にかげられ、新川兩岸の商店街は、日ましににぎやかになっていった。

産業の発展するにつれて、道路はますます大切なものになり、宇部と他の土地を結ぶ幹線が作りなおされて、1935年(昭和10)には厚東川大橋もできあがり、生産品はどしどし運び出されるようになった。現在、宇部で運ばれる貨物の4/5以上は、トラックやその他の車で動いている。絶え間なく通る車や人に、事故をおこさせないような道や橋にしなければならない。戦災後、この方面に力がそそがれ、宇部市をますます発展させるような道路が計画され、さかんに工事が行われている。



- 1 産業道路
- 2 寿橋通
- 3 緑橋通
- 4 常盤通
- 5 新錦橋通
- 6 錦橋通
- 7 東海岸通
- 8 松山通
- 9 岬通
- 10 中通
- 11 明治町
- 12 松島町
- 13 上町
- 14 北町
- 15 本町
- 16 西海岸通
- 17 三炭町
- 18 中通
- 19 助田通

イ 岬駅通 ロ 芝中通 ハ 東駅通 ニ 神原町 ホ 参宮通
 ヘ 琴芝駅通 ト 栄町 チ 小串通 リ 島通 ス 港町
 ル 小松原通 ヲ 浜通

陸の乗物

「汽車が通ると煙の火のこで火事を起すから、敷設には反対だ」「馬がおそれるからいけない。」こんな話が、鉄道を敷く前に、まじめに論議されていた。1900年(明治33)に山陽本線が厚狭までのび、あくる年に下関まで全通して、実さいにその便利さがわかるようになっても、宇部の人たちがこれを利用することは、むつかしかった。突き出た半島にある小さな村だったので、宇部の近くに駅をつくることができなかつたからである。汽車にのる人は、今の本由良・厚東・または小野田の駅まで歩かなければならなかつた。

どうかして近くに駅をつくりたいという人たちの熱心な努力によって、1910年(明治43)、今の西宇部駅が設けられ、そのころ一ばんにぎやかな町であった東新川まで、客馬車が通いだした。

(註そのころの駅名は、西宇部を宇部、本由良を阿知須・厚東を船木と呼んでいた。)

これより前、明治10年ごろから人力車が、30年ごろから自転車を利用してはいたが、旅行するにはまだ不便だった。また、石炭を汽車で積み出す必要もましてきていた。そこで西宇部駅ができたあくる年、宇部の人たちの力で、本線から西新川までの鉄道を敷く計画がたてられた。しかし考えのおくれた人たちの反対のため、敷地を買うことに苦心があり、6.5mの私設鉄道がやっと開通したのは、1914年(大正3)であった。(この当時の駅は、現在の駅の東南約500mの所にあつた。)

その後、1923年(大正12)から3年計画で、小郡まで線路をのばし、1929年(昭和4)には乗客を電車で運ぶようになり、小野田線も通じて、宇部の人たちののぞみもようやくとげることができた。



毎日市外から約9,000人、郊外の厚南・西岐波から約8,000人の定期旅客が、市の中心部に集まる。一般の旅客もあわせると3万に近い人が電車にのるので、通勤時のこんごつは地方としては有名である。全体の約1/4の人が宇部駅で乗り降りし、西沖の山・琴芝の両駅には約1/6の人が乗り降りしている。

鉄道による物貨輸送 (1950)

小野田線は宇部線にくらべて乗客は少ないが、工場・炭鉱地帯を通るので、貨物を運ぶ量は多い。

宇部岬駅と宇部港との間に、海岸貨物線をしくことが計画されているが、このほかにも、本線通過や複線化など、考えなければならぬ問題もある。



宇部・西宇部駅の間を路線として、宇部の町をバスが通りだしたのは、市になった年のことである。

戦災後は残されたわずか3台のバスで仕事を始めたが、6年後の今では10倍以上の車数になっている。通路も次第にのびて、汽車の通わない山間部の人が宇部に出るのにつごうがよくなった。

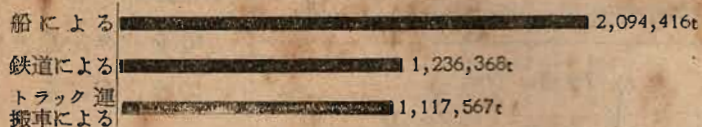
また、鉄道の乗りかえの不便がないために、これを利用する人も

も多く、1日に約9,000人が、バスによって動いている。このために電車に乗る人数は、3年前にくらべて75%にへっている。トラックの数は1950年の調査では約700台で貨物を運ぶ力は大きい。自転車は平均して市民10人について1台の割りあいになる。

宇部港

宇部のたくさんの生産物を、またそれを生み出す多くの原料を、どのようにして動かすかは、宇部にとって大切な問題である。その一ばん大きな役目をもっている宇部港について、考えてみよう。

貨物輸送量の比較 (1950)



瀬戸内海は古くから交通上の重要な航路で、宇部の海岸にも船がつくことがあった。そのころの海岸線はずっといりこんでいた。(p. 1~2を見よ)海がだんだんうずまって、新しく緑が浜や犬の尾(居能)の砂丘ができてからは、厚東川の川口の藤曲と岬が船着場だった。

18世紀の終りごろ(寛政10)真締川^{まじめ}の下流を掘って新川としてから、その川口が良港となって、しけの時には、多くの船が集まった。これが新川港のおこりである。

石炭が船で送り出されるようになったのは、19世紀になってからである。掘り出した石炭を馬のせにのせ、人夫がかついで、海岸に積み上げておく。これを船主が買うけて、秋徳・三田尻^{あきとく みたじり}方面の塩田に売っていた。遠く讃岐(香川県)・赤穂^{あこう ひろこ}(姫路の西)あたりの塩田へ送ったこともある。

註 そのころの船は、帆船だったので、遠渡の海でも、満潮の時に船をつけることができた。汽船が出入りしたのは1866年(明治19)で、岬と下流の間を、1894年には新川港、岬港と小郡、徳山方面との間に小さな定期船を運ばせ、人や貨物を運んだがながつづきしなかった。

1899年(明治32)新川じりの兩岸の海を埋立てて防波堤とし、船入場を造ってからは、大阪方面の汽船も出入りするようになり、藤山・岐波・阿知須あたりの船主が、石炭を帆船にのせ、盛んに大阪へ積み出すようになった。こうして新川港のもつ役目は年年重くなっていった。

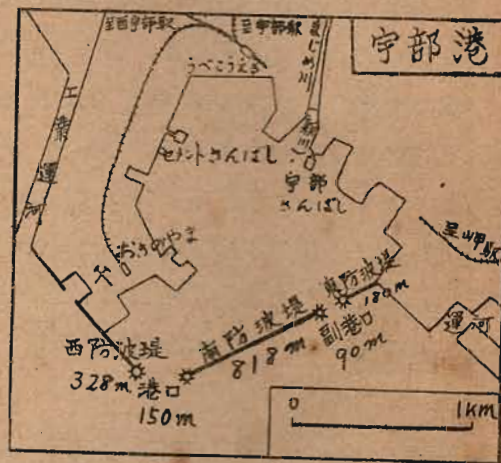
宇部の産業を進めるには、もっとりっぱな港を造らなければなら

ない。しかしこれには、非常に多くの金と人の力が必要である。ちょうど沖の山炭鉱は、廃土のすて場を新しくつくらなければ、これ以上坑道をのばしていくことが、むつかしくなっていた。新しい埋立てによって港を造っていかこうとする計画が、宇部市と沖の山炭鉱によってたてられ、1927年(昭和2)から33年にかけて、工事が行われた。こうして近代的な港、宇部港が造られ、宇部の鉱工業の発達を早めた。

沖山炭鉱が市の設計によってやった工事は、西防波堤、南防波堤と水深を深くすることだった。これで3,000トン級の船が出入りするようになった。

東防波堤は1933年に果の費用でできた。その後、国の費用で工事したこともあったが、戦争や風水害のため、十分な仕事ができなかった。

現在(1951)の水深は、約3mである。



船舶による貨物輸送 (1950)



→1938年(昭和13)開港場、50年(昭和25)に甲種重要港の指定をうけている。

1950年度に出入りした船は、汽船327隻(472,672t)機帆船29,650隻(918,972t)である。水深が浅いので港に入ることができず、港の外にいかりを下した船もある。

アジア市場にかっばつに乗り出そうとする港として、これで十分だと言えるだろうか。

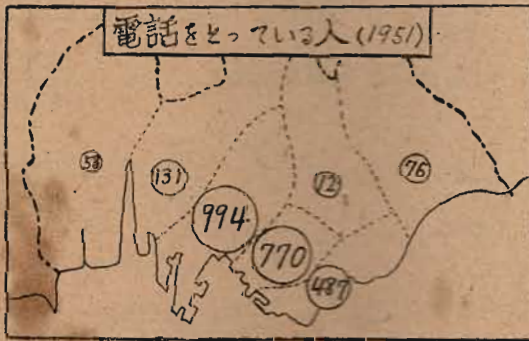
通 信

郵便制度がしかれても、郵便局のない宇部村の人たちは、隣村であった藤曲まで手紙を出しに行かねばならなかった。しかも26年間という長い間、この不便を味わいつづけた。局を宇部にうつすことについては、藤山村と意見があわなかった。3年間の大運動によって、1900年（明治33）の秋、島に宇部郵便局を移すことができ、電信の取扱いも始めた。その後、朝日町にかわった。

宇部の発達につれて局の数も多くなり、1951年には14局となった。その中の3局は集配局^{しゅうはい}で、日に何べんか時間をきめて、手紙を集めたり、くばったりする。市街地には日に2回くばっている。

手紙の数は、1916年から21年（市になった年）の5年間に約3倍にまし、51年にはその約2倍になっている。電報は21年の約6倍にふえているのを見ても、宇部市の産業と通信の発達がわかるだろう。

電話をとりはじめたのは1912年（明治45）で、炭鉱・会社・商店・役所などの仕事をする所に多くつけられ住宅用はわずか全体の6%である。



（岡田太郎氏・西条惣助氏談・宇部五十年誌・郷土宇部・渡辺祐兼翁伝・市統計課資料・土木課資料・運輸課資料・宇部郵便局資料・宇部港湾修築工事誌などによる。）



中山浄水池

宇部の人たちは
どのようにして
安全を保ったか

身体のみもり

市民と病気

主要伝染病発生比較表

（宇部村誌・宇部市制10周年誌による）

病名	年次	明治44年	大正4年	大正10年	大正13年	昭和4年
ジフテリア		9	52	8	7	24
腸チフス		18	88	83	210	89
パラチフス		—	—	—	7	8
赤痢		1	26	6	13	173
猩紅熱		—	—	—	1	12

終戦後法定伝染病発生人員調査表

（昭和26年8月市衛生課調査）

病名	年次	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951
ジフテリア		101	126	68	25	97	90	1月-9月迄 39
赤痢		150	113	38	23	33	27	119
腸チフス		16	17	14	17	5	3	8
パラチフス		—	1	3	4	2	1	—
発疹チフス		—	—	6	—	—	—	—
コレラ		—	11	—	—	—	—	—
猩紅熱		3	—	—	2	7	2	2
流行性脳脊髄膜炎		44	6	9	2	5	4	—
痘瘡		—	4	—	—	—	—	—
ペスト		—	—	—	—	—	—	—
日本脳炎		—	—	—	2	8	12	1
計		314	278	138	75	157	139	168

上の表を見ると昔から赤痢・ジフテリア・腸チフスが多く発生しているのがわかる。地区別に見ると、西部・東部・沖の山など、人口が

密集している所に多い。

主要伝染病職業別患者統計表

(昭和24年度市衛生課調)

職業別	発生件数	発生					
		一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇
会社員	52	[Bar chart showing distribution]					
鉱員	59	[Bar chart showing distribution]					
商業	14	[Bar chart showing distribution]					
農業	12	[Bar chart showing distribution]					
漁業	2	[Bar chart showing distribution]					
無職その他	17	[Bar chart showing distribution]					

主要伝染病流行期調査

(昭和24年度) 市衛生課



地区別伝染病発生状況

(昭和24年度)



職業別の表を出してみよう。そしてさらにどの伝染病が、どの季節に多いかを知らう。私たちはその原因をよく調べて、十分予防しななければならない。

つぎに、死因別統計表をみよう。

一ばん多いのは結核である。1949年度(昭和24)の調査によると宇部市は山口県で第三位になっている。

年令別結核統計表

(昭和24 宇部標準保健所)

年令	人員	二〇	四〇	六〇	八〇
0~9	23	[Bar chart]			
10~19	28	[Bar chart]			
20~29	73	[Bar chart]			
30~39	39	[Bar chart]			
40~49	16	[Bar chart]			
50~59	11	[Bar chart]			
60以上	9	[Bar chart]			

年令別にみるとまた問題がみつかる。亡国病といわれる結核をどうしたら予防できるだろうか。

寄生虫がおれば顔色が青白く、身体がだるく、物事にあきやすく、胃腸がわるく、考える力がなくなってしまう。そして

宇部市内小中学校回虫検査結果表 (昭和25年度)

	昭和24年	昭和25年	昭和26年
検査人員	14,866	18,079	18,962
寄生虫保有者	6,705	8,014	6,069
百分率	45.1%	44.3%	32%

小・中学校の生徒の数も考えてみたい。

小・中学校生徒の半数はうし(むし歯)をもっている。トラホーム患者も多い。これらを予防するにはどうしたらよいらうか。

昭和24年度主要死因別死亡状況(宇部標準保健所)

計	主要原因										区分
	先天性弱質他	腎臓の疾患	全臓の疾患	不慮の災害	肺臓の疾患	下痢腸炎腸腫瘍	老衰	頭蓋内血管の損傷	結核	主要原因	
八、五〇八	六、七〇九	六、七〇九	六、七〇九	九、七三三	八、八五九	〇、五二四	二、五九三	一、八三五	二、九一五	一、八三五	山口
一、〇〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	五、四二八	五、四二八	六、八五七	六、八五七	九、一五七	一、五七	一、五七	山口
一、三〇〇	四、七七八	四、七七八	四、七七八	二、七五七	二、七五七	八、九三二	八、九三二	一、九一	一、九一	一、九一	宇部
一、〇〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	四、九七四	四、九七四	六、七六一	六、七六一	一、四一六	一、四一六	一、四一六	宇部

小中学校衛生状況

市内小中学校近視トラホーム検査結果表 (昭和25年度, 市統計課)

学校別 学年別	小学校						中学校		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
検査人員	1,293	1,401	1,483	1,456	1,448	1,165	927	1,093	933
近視	—	3	192	183	178	192	136	100	82
	—	4	232	244	207	112	121	152	172
トラホーム	259	290	296	299	293	253	194	223	177
	262	272	278	293	300	215	154	186	138

市内小中学校「うし」未処置検査結果表 (昭和25年度, 市統計課)

学校別 学年別	小学校						中学校			
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	
男子	検査人員	1,221	1,368	1,525	1,472	1,435	1,208	902	1,090	914
	該当人員	608	535	556	558	627	452	278	413	383
	百分比	49.8	39.1	36.5	38.5	43.7	37.4	30.8	37.9	41.9
女子	検査人員	1,379	1,363	1,472	1,435	1,417	1,077	867	954	724
	該当人員	554	538	531	617	584	424	270	342	321
	百分比	40.2	39.5	36.1	43.0	41.2	39.4	31.1	35.8	44.3

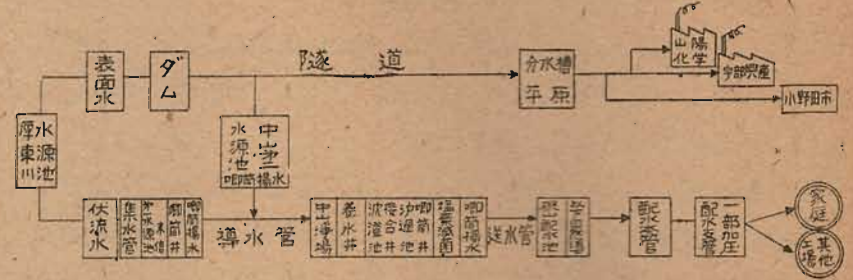
環境と衛生

病気になって、医者に治療をうけるよりも、病気になるまいようにすることが大切である。そのためには、まず私達のまわりをよくきれいにすることである。これが伝染病予防の第一条件である。そのために宇部市ではどのようなことが行われているだろうか。

給水

宇部市ではどのようにして、きれいな水が私たちの家に来ているだろうか。宇部が市になったころ、沖の山鉾業所と協力して、厚東川から水道の施設をつくったのは、1927年(昭和2)3月1日であり、1928(昭和3)・1937年(昭和12)・1949年(昭和24)と拡張して

1949年(昭和24)6月厚東川ダムの完成で今のような完全なものと 宇部市上水系統



なった。水の消毒には塩素消毒法を用いて、一日一人の最大給水量509ℓであるが、その78%は工場に給水されるので、一日一人約112ℓぐらいの給水となる。

宇部市には水量のゆたかな厚東川が流れている。このために旱害があっても飲料水にことかぐようなことは少ない。

配水及給水状況 (昭和25年3月末現在)

配水総量	12,382,454m ³	給水能力	38,000m ³
一日最高配水量	38,022	給水戸数	10,998戸
一日最低配水量	24,448	給水栓数	9,986栓
平均一日配水量	33,924	給水人口	76,921人
宇部市総人口	127,823	給水普及水	60%

上水使用状況 (単位立方メートル) (昭和25年3月末現在)

家事専用	家事共用	官公衛	営業用	湯屋	船舶	工場用	合計
1,100,582	151,056	228,924	88,824	112,403	17,354	6,404,508	8,193,611

以上の状態で配水の施設が不足であるから、今一日10,000cm³給水を増す施設を拡張することになっている。

食品衛生

飲食店・パン製造店・その他・食料品を製造したり、販売する店にA・B・C・Dと書いてある貼紙を見るであろう。これは宇部標準保健所の食品衛生監視員が巡回して、食品衛生法によって、検査した結果である。その採点表で、Aは秀、Bは優、Cは良、Dは可で現在検査を受けている店は569軒もあり、次の表のようである。

ばい塵対策

宇部のばい塵は測定された中で日本一であり、世界一でもあると言われており、ますますふえていくようである。そのために空気がよごれ、家々には灰がふりこみ、呼吸器を悪くしたり、目が悪くなりやすく、紫外線がさえぎられることも多く、いろいろ病気にかかりやすい体質になる。これが市民の問題とな

店の種類	軒数	計
旅館	五二	五六
魚屋	八五	六九
肉屋	三一	〇
菓子製造	二九	
キッチン	四三	
氷屋	二九	
清涼飲料店	一七	
豆腐店	一三	
牛乳(搾取場)	二二	
牛乳(処理場)	三三	
飲食店	二五	
喫茶店	一〇	

宇部地域別降下煤塵量 (昭和26年4月) (t/1km²/1月) 宇部市煤塵対策委員会

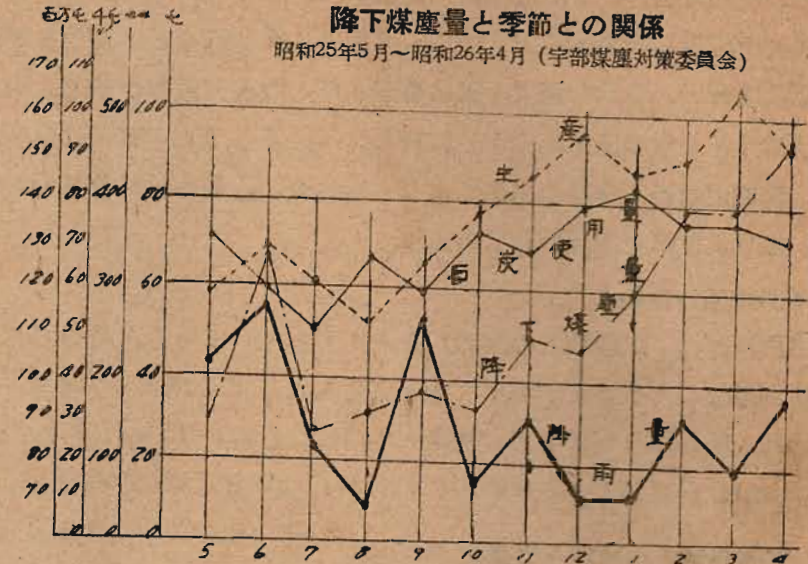
地域	降灰量	測定場所	測定年度
宇部市 工業地帯	120 t	山陽化学・沖ノ山	昭和26年
宇部市 商業地帯	45 "	興産本社・山口銀行 岬小学校	"
宇部市 住宅地帯	23 "	藤山小学校・市民館 神原小学校	"
宇部市 郊外地帯	15 "	山口大学工学部	"
宇部市 宇部平均	50 "	...	"
ロンドン	25 "	...	大正5年
マンチェスター	25 "	...	大正5年
大阪	38 "	...	昭和13年

— 医大野澤善徳教授研究 —

り、宇部煤塵対策委員会ができて、工場には收塵装置が取りつけら

れ、いろいろとこれに対しての研究が進められている。

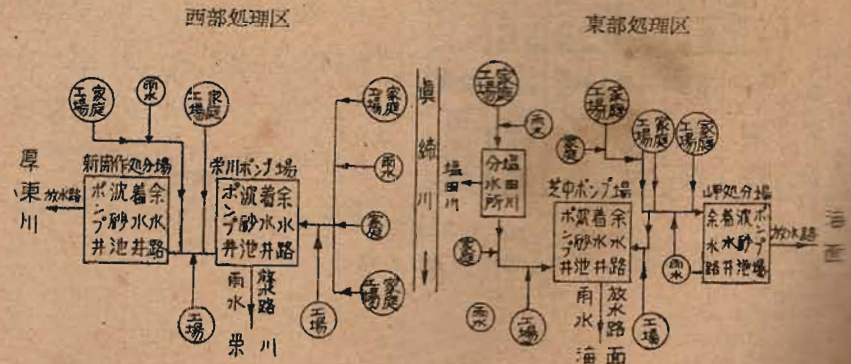
降下煤塵量と季節との関係 昭和25年5月～昭和26年4月 (宇部煤塵対策委員会)



降下ばい塵と季節・石炭使用量・生産高・などの関係も考える必要がある。

宇部市下水道排水計画系統図

(昭和25年度市勢要覧)



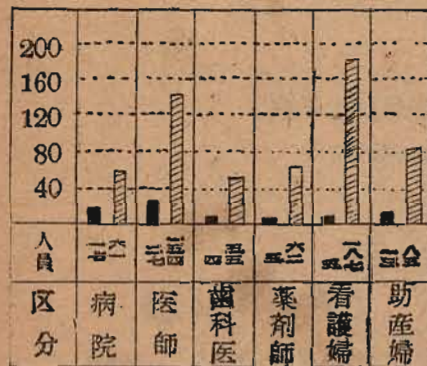
その他、毎年定期的に種痘・ジフテリア・腸パラチフス・BCG・などの予防接種が、予防接種法・結核予防法にしたがって行われ、伝染病予防規定の衛生班が9ヶ班もできて、鼠や蚊などの有害生物の駆除を行い、下水計画で下水は整理され、汚水・汚物の処理、街の清掃なども市の衛生課で十分に行われている。また学校では学校医、学校歯科医・養護の先生により定期検査、治療などが実施せられ、毎日学校給食が行われている。

医療設備の発展

宇部村誌に「以前数人の医師がおった」と書いてある。その後人口が増加して宇部市が発展すると医師もだんだん増加してきた。その間、衛生組合ができて、清潔・予防につとめ、1914年(大正3)沖の山同仁病院ができ、1923年(大正12)には宇部医師会が発足し、

市制当時と1951年との病院
及医療従事者数比較

(単位…人)



と、どのくらい進んでいるかがわかるだろう。

災害とのたたかい

水 害

昔のまじめ川(間占川または真締川)は今の樋の口の所から西にまがり、居能の栄川のところで海にはいっていたが、すこし長く雨が降ると、中流以下はたちまち水が高くなって、田畑は沼のようになり、住民は非常に苦しんだ。1696年(元禄9)になると助田鼻と浜の間に堤防をつくって海水のはいるのを防いだ。そのためにますます排水が、わるくなったので、はんらんすることも多くなってきた。そこで福原氏の命によって村上清右門純明が、1797年(寛政9), 樋の口から海に向って川をほり、排水をよくしたので、それからははんらんがなくなった。新しく人が掘ってくれた川だから新川と呼び、それが町の名にもなった。西岐波の江頭川も、昔は江頭の附近から東におれて新浦で沢波川と合していたが、大水の時、新浦の附近へ水害をあたえていたので、床波に開作をしたときに今の川をあたらしくつくった。

最近1951年(昭和26)7月の水害は657mmの降水量で、一年間の平均雨量の約1/2が降った。とくに鉾山の水浸しの被害は多く、家屋の被害も多かった。

風 水 害

1942年(昭和17)8月27日の高潮は宇部の人たちにとっては、はじめての大きな風水害であった。この災害は台風が吹きつづいて満潮の夜、海水がふくれ上り、大波となって厚東川や居能の堤防をこわし、海岸をのりこして、たちまち市中に海水がはいりこんだ。堤防のきれた近くでは、どっとおしかけた海水のため、家も人も家畜も一のみになされてしまった。その時の被害は次頁の表をみてもわかるように、昔、開作された土地は海水でおおわれてしまったのである。

この災害がおこると、市では
りんじ さいがいよつきゆういんかい
 すぐに臨時災害復旧委員会がつ
 くれ、いろいろの団体や、町
 内会の人を動員して、災害にあ
 ってこまった人にたきだしをし、
 衣服をあたえ、避難所やか
 りの住宅をたて、負傷した人を
 病院におくって、とりあえずそ

高潮被害一覽表 (市統計課調査)

死者 及 負傷者	死亡	232
	行方不明	65
被害家屋	住宅	427
	流 失	58
	倒 壊	71
	半 壊	98
	浸 水	643
	床上下	175
	浸 水	5,082
	床上下	1,020

の場の救済を行った。そして臨時復興対策委員会を組織して、対策
 が審議され、実行にうつされていった。1942(昭和17)9月より、
 破壊された厚東川下流の堤防の復旧が行われ、1944年(昭和19)3月
 一応できあがり、現在もまだ補強工事が行われている。

種別	中心の最低		上陸地方附近		最大風速		下陸の気象値		
	出現期	気圧	最低気圧	その地名	その方向	風速観測時	最低気圧	最大風速	その方向
台風名	昭和24年 6月21日	960	961.6	名 瀬	北 東	24.4 鹿児島	980.2	21.1	北 東
デラ台風	〃	950	957.3	八丈島	南々東	35.0 横 浜	-	-	-
キタイ台風	8月31日	970	972.6	土佐沖島	東	42.0 土佐沖島	994.0	22.0	東
8月13日の台風	〃 25年 8月13日	940	962.6	和歌山	西	43.2 室 戸	1003.2	11.8	北 西
ジェーン台風	9月3日	945	962.1	都 城	北々西	34.5 徳 島	981.0	29.5	東北東
キジア台風	9月13日								

また最近も上の表のとおり台風が次々とおしよせてきた。その中
 でも、キジア台風は被害がひどく、損害約一億円といわれている。
 おもな被害は堤防こわれ27ヶ所・沈んだ船17隻・流れた家が31戸・
 家の水びたしは2,320戸であった。

このように宇部では度々風水害がおこるのだが、これをただ自然
 の力でしようがないとあきらめないで、市民の働きによって、みな
 なでくふうをし、力をあわせて損害をすくなくすることが必要であ
 る。

水防団

1949年(昭和24)6月水防法が公布されたので、これをもとにして
 水防協議会ができて水防計画が立案されている。1951年(昭和26)
 6月には宇部市水防条令によって宇部水防団ができあがった。これ
こうざい
 は洪水や高潮による水害を警戒したり、防いだりして、被害を少な
 くするために活動す
 る団体である。

護岸工事

厚東川下流一帯の
 堤防の埋め立て玉川
 左岸附近・草江・亀
 浦海岸・岬漁港外防
 波堤など各所に海水
 の侵入を防ぐ工事が
 行われている。

救助隊

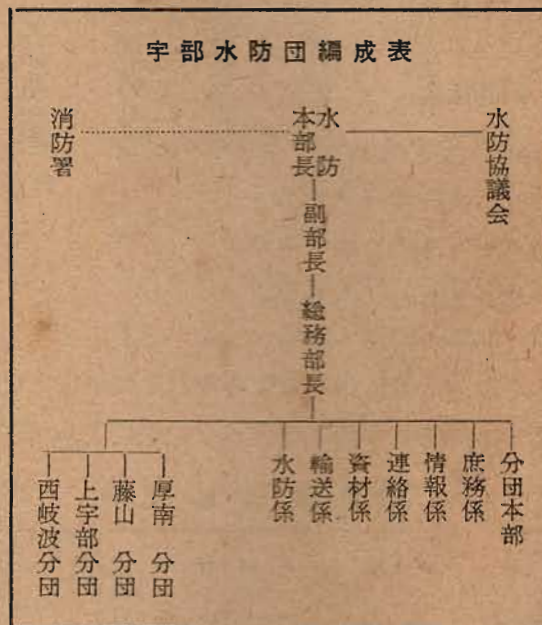
山口県災害救助宇
 部支隊が宇部市役所
 内にできている。災

害がおきたときの救助が行なわれる。その他、鉾山の水害には炭鉾
 水防対策協議会が活動している。

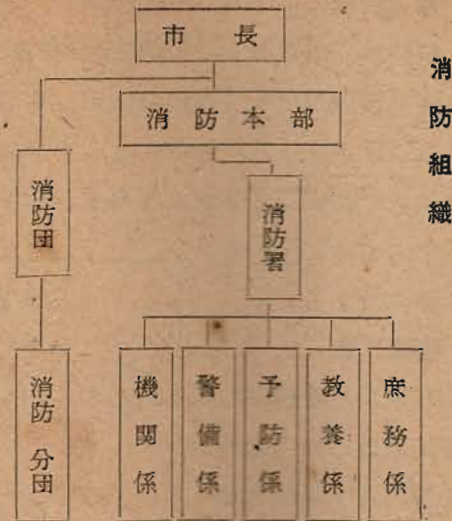
消防制度

1892年(明治25)に寺の前に消防組がつくられ、1902年(明治35)
 東新川に、1903年(明治36)西新川につくられ、これを1組・2組・
 3組とよんで消防組合ができた。そのころ各炭鉾や草江にも、私設
 の消防組があった。1939年(昭和14)警防団令によって消防組が警
 防団となり、1944年(昭和19)3月に宇部に常置消防として官設消

宇部水防団編成表



防署がつくられ、終戦後に警防団が消防団となり、1947年（昭和22）12月消防組織法で1948年（昭和23）3月自治体の宇部消防署となつて、市長が管理することになった。



消防組織

消防活動

消防で一ばん大切なのは、火事をおこさないようにすることで、消防署の予防課では、官庁・工場・学校・病院・鉱山・劇場・旅館・百貨店・その他をまわつて火災をおこさないように指導や監督を行っている。これは消防法・火災予防条例・危険物取締条例という法令によってやっているのである。

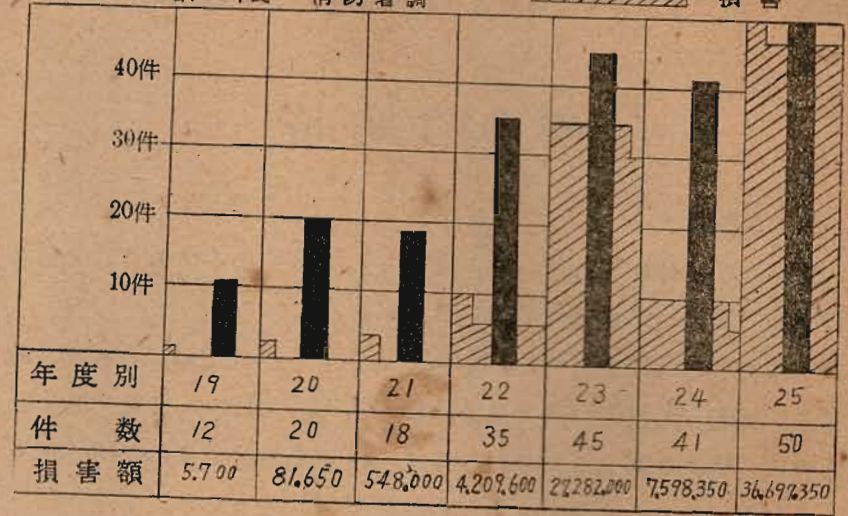
火災原因別統計 (昭和25年) 消防署

原因	こ	か	煙	火	消	乾	焚	マ	石炭	汽	か	電	火	放	油	そ	合
因	ん	ま	突	鉢	火	燥	火	ッ	自然	車	み	気	あ	火	に	の	計
件数	4	2	2	1	1	1	3	2	2	1	1	6	6	1	11	6	50

消防署では火災を発見したり、知らせをうけたりすると、すぐ消防自動車で行き消火につとめる。消防団も現場で協力する。消火に使う水は、水道水・井戸水・河水・沼水・貯水などであるから、私達は近くにある消火栓の位置・井戸・沼などの位置を知っておかなければ急の役にたたない。消防署の電話番号は407番と119番

管内火災件数損害額一覽表

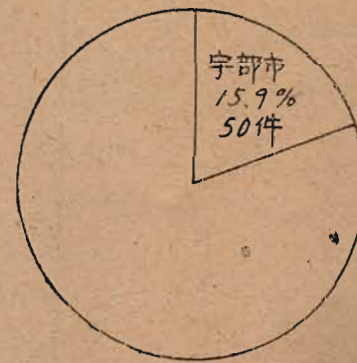
昭和25年度 消防署調



であり、番号を忘れたらただ「火事」というと電話局は消防署につないでくれることになっている。

山口県火災件数

(314件) (昭和25年度 消防署調)



原因別火災発生比率

(昭和25年度 消防署調)



消防署が出たら「どこが火事」と言えばよい。火事をおこさない

ようにするために、その原因を調べることに、また火事を少なくするための、町や家のつくり方などの研究も続けられておる。

安全な生活

交通事故

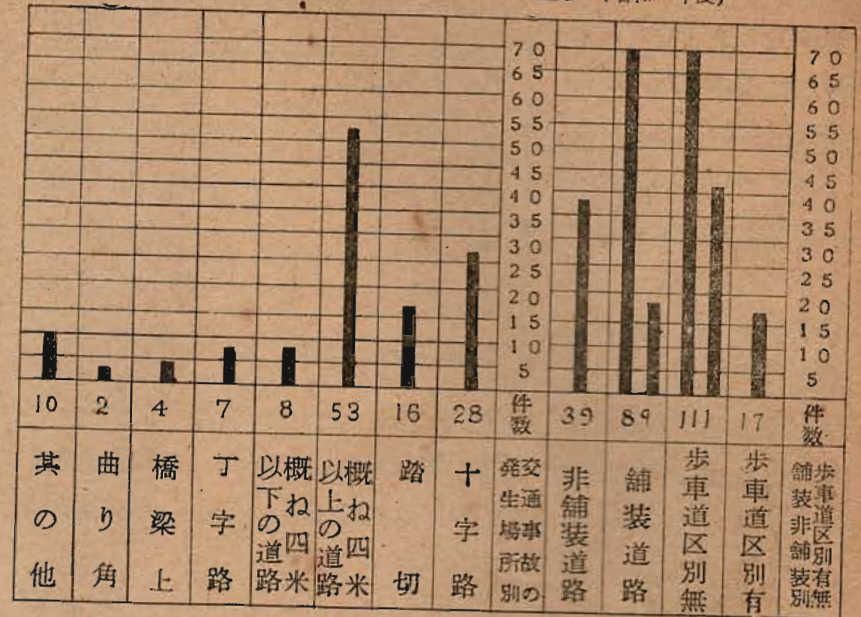
警察署の統計をみると、年々交通事故は多くなっており、その原因・場所についても調べてみる必要がある。

この交通事故によってたつと生命をなくした人が、1950年（昭和25）12名、負傷者71名である。1951年（昭和26）6月までは、死者11名、負傷者36名もある。このような交通事故によって人命をそこなわないようにすることも、市民生活の向上である。

交通事故発生原因別調査表（昭和25年度）

車 原因分類	側		人 原因分類	側	
	年度別 昭和24年度	昭和25年度		年度別 昭和24年度	昭和25年度
徐行運転	7	9	路上遊戯	5	6
踏切注意	13	6	諸車の直前横断	12	12
優先通行違反	6	5	踏切不注意	2	2
無謀操縦	6	4	左側通行	1	2
酩酊運転	5	3	其の他	7	5
他車の直前横断	4	3			
後退不適當	2	2			
ブレーキ不全	3	2			
其の他	55	19			
計	101	56	計	27	27

交通事故発生場所及発生件数調査表（昭和25年度）



年次別交通事故発生調べ

分類	年度別	昭和22	昭和23	昭和24	昭和25
事故発生件数		32	39	57	128
事故による致死及傷害		29	27	42	72
事故による物件損傷		3	13	15	56

産業災害

炭都宇部の工場・炭鉱にはどんな災害があるだろうか。そしてこれらの原因はどこからくるのか。仕事場によって、いろいろの災害のちがいがあがるが、その原因としては、工場や炭鉱のつくり方、経営法のよしあしと、そこに働く人の心がまえなどの問題などが考えられる。

これらの災害をおこさぬように、またおこしたときのしまつひし

かなたどについて、以前は工場法や鉱山法で行われていたが、1947年(昭和22)に労働基準法、1949年(昭和24)8月には鉱山保安法が公布され、宇部労働基準監督署・広島保安監督部宇部支部ができて、労働基準監督官・

鉱山保安監督官が鉱山や工場を巡回指導している。また工場や鉱山にも、衛生管理者・安全管理者・保安管理者がそれぞれの災害防止につとめている。

原因別災害調査表

原因別	年次	
	1949年	1950年
動力運動災害	228	303
作業行動災害	5,980	6,338
特種危険災害	234	202
其の他	43	252
計	6,485	7,101
備考	男 6,388	男 6,920
	女 97	女 179

原因別	内		外		計
	発生件数	原因	発生件数	原因	
落ばん	二四〇二	発破火薬品のため	二	火薬	二四〇四
ガス中毒又は窒息	一	火薬	三	火薬	四
ガス又は炭塵爆発	三	火薬	二	火薬	五
発破又は火薬類	二	火薬	三	火薬	五
チェンロープ切断	一一	火薬	三	火薬	一四
鉱車の脱線	五六九	火薬	三	火薬	五七二
出火	一	火薬	三	火薬	四
電気のため	二	火薬	三	火薬	五
機械のため	三三三	火薬	三	火薬	三三六
飛石又は転石	四二二	火薬	三	火薬	四二五
工具のため	一〇五一	火薬	三	火薬	一〇五四
落下物のため	〇	火薬	三	火薬	三
取扱中の機械	〇	火薬	三	火薬	三
墜落	二九	火薬	三	火薬	三二
転落	五一	火薬	三	火薬	五四
疲勞	三三三	火薬	三	火薬	三三六
その他	二九六八	火薬	三	火薬	二九七一
計	八六七〇		九七六五		一八六三〇

不幸災害にかかった人には労働者災害補償保険法によって補償されている。(業務上の原因で災害を受けた労働者の健康と生活の安定とその遺族の生活を補償する保険。)

犯罪よりのまもり

市民と犯罪

このごろ宇部市に犯罪が増していることは、社会の動きの一面をあらわしているものであり、大きな問題である。

下の表のように私たちの生命や財産に害を与え、社会をこんらんさせる犯罪がこんなにも多い。

1446年(昭和21)以降の犯罪発生と検挙状況 (昭和25年警察年報)

	1446		1947		1948		1949		1950	
	発生	検挙	発生	検挙	発生	検挙	発生	検挙	発生	検挙
殺人	5	5	4	4	11	11	4	4	3	3
強盗	14	12	21	19	31	29	15	12	15	18
放火	2	2	—	—	8	8	—	—	1	1
窃盗	2,393	1,299	3,552	1,276	3,891	1,363	4,580	1,325	3,608	2,514
その他の刑法犯	626	626	1,050	1,039	11,011	1,010	1,199	1,199	1,003	992
計	3,040	1,944	4,627	2,328	5,042	2,421	5,798	2,640	4,630	3,528

青少年の犯罪

青少年の犯罪や不良行為が、めだって増してきている。私たちの

青少年犯罪 (昭和25年度市勢要覧による)

種別	殺人	放火	強盗	強姦	傷害	恐喝	詐欺	窃盗	横領	脅迫	賭博	その他 刑法犯	その他 特別 法犯	合計
昭和22年	—	—	5	2	10	—	6	137	1	—	13	21	12	207
23	5	1	26	1	15	6	—	234	3	—	21	64	44	409
24	—	—	3	—	21	15	4	225	8	—	14	20	17	307
合計	5	1	35	3	46	21	10	595	12	—	48	105	73	808
比率(%)	0.5	0.1	3.5	0.3	4.5	2.1	1.0	58.2	1.2	—	4.7	10.2	7.1	6.7

まわりにもするとおこりがちのことであるから、なぜこのように増してゆくか、また少なくするにはどうしたらよいか、考えていか

ねばならない。

警察制度

1892年(明治25)藤山村居能に巡查駐在所ができており、宇部村はその管轄区域であった。その後人が多く移ってきて、手がまわらなくなったので、有志が相談して、1899年(明治32)船木警察署宇部分署が新川におかれた。しかし分署でも思うように仕事が出来ないので、1918年(大正7)

に宇部警察署となって、船木警察署から独立した。終戦後1948年(昭和23)民主的な自治警察として公安委員が任命されて、市民の警察となった。

鉄道犯罪

最近鉄道の犯罪も多くなってきた。1951年(昭和26)7月の統計表をみても、こんなにも鉄道関係の犯罪があるかと思うと、びっくりしないではおられない。なかでも列車妨害は宇部線で多いのである。

鉄道犯罪発生表

昭和26年7月分

刑種数	窃盗	強盗	傷害	横領	詐欺	強行	脅迫	詐欺	器物	往來	諸法	法令	違反	鉄道管理法				合計		
														不正	乗車	35条	36条			
発生数	6	0	16	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	11	2	0	18	73

生活のまもり

生活保護

1951年(昭和26)3月の調査によると、生活の保護をうけている人は、1413世帯あり、これらは生活保護法によって扶助を受けている。

身体障害者数 昭和25年6月

視力障害		聴力障害		諸機能障害		肢切断不自由		中樞神経機能		総数	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
27	31	6	4	26	18	157	19	75	12	341	84

民生委員の方々がいろいろと心配される。また一人まえの仕事のできない体をもっている人たちは、1950年(昭和25)4月身体障害者福祉法が制定されて、身体障害手帳が与えられ、生活上の相談や、医療の便利をうけたり、更生援助の施設へ收容されたり、その他いろいろと保護されている。

共同募金

社会の幸福をはかる国民全部の運動として、みんなで助けあう運動である。1949年(昭和24)には県から割りあてられた額の102%で、1950年

(昭和25)は104%のきばえてあった。

社会施設一覽表

種別	施設別	施設数		収容現在		備考
		総数	市営私設	人員	人員	
生活保護法によるもの	養老施設	1	1	42	32	博愛寮(上宇部)
	投産施設	1	1	50	48	投産場(厚生館)
児童福祉法によるもの	母子寮	2	2	120	100	第一厚生寮(厚生館)
	保育園	13	1	12	911	第二厚生寮(上宇部)
社会事業法によるもの	投産場	1	1	150	120	厚生館内

労働運動

現在、宇部には55の労働組合があり、なかでも宇部チッソ労働組合・宇部ソーダ労働組合・東見初炭鉱労働組合・沖の山炭鉱労働組合・沖宇部炭鉱労働組合のように組合員が1,000名以上のところもある。そしてこれらの連合体もできている。石炭鉱業49%、化学工場21%・公務18%・その他は9%である。

この労働運動は、終戦後、とくにめだつた運動であるが、市になるころから労働運動がはじまっていた。1929年（昭和4）日本大衆党やまた、宇部労働組合が結成された。1933年（昭和8）には市民同盟など結成されて、労働運動がさかんになってきたが、日華事変や第二次世界大戦で、労働運動は軍部・政府からおさえられたので、表向きでは組合として団結して運動することはできなかった。

終戦後、連合国の日本民主化の方針もあり、急に発展した。地方・中央とそれぞれの連合体の組織に加入したが、現在では大半が総評系（日本労働組合総評議会）に加入し、宇部地区だけで宇部地区連合会を組織している。

労働行政機関

労働行政をつかさどる役所が宇部に三つある。労働組合の指導や教育のため宇部労政事務所、仕事のない人に仕事をあたえ失業保険を取扱う宇部公共職業安定所、労働基準法によって各工場や炭鉱を監督して労働者災害補償保険を取り扱う宇部労働基準監督署がある。

戦災復興

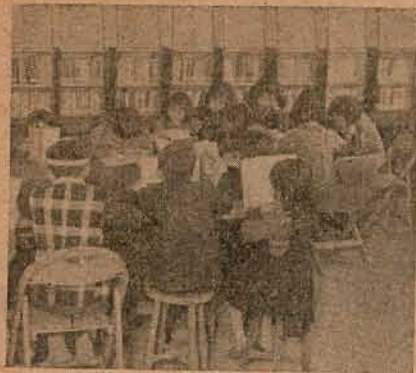
1945年（昭和20）8月、戦いは終わった。まず戦災者をたすけ、生活にこまった人に仕事をあたえて生活を保護したり、戦火でやけた住宅・学校をたてはじめた。終戦の時には約8万だった人口が1951年（昭和26）では約13万人となり、焼けた学校はたてなおし、新制度の学校

もできた。

地下資源を豊富にもっている宇部市は、経営者と労働者の協力によって、炭鉱は発展し、それにともなって、チッソ・セメント・ソーダなどの諸工業が復旧し、宇部港より宇部製品の送出しもめざましくなり、現在は戦前以上の発展をしている。

住宅も1951年（昭和26）3月までには24,107戸となった。また都市計画では1946年（昭和21）7月宇部市の街路網がきまり、続いて10月宇部市戦災復興土地地区画整理が定められ、また1948年（昭和23）9月特別都市計画区域の指定が行われて、本格的に都市の建設が行われるようになり、今や近代鉱工都市としてはずかしくない都市を建設中である。

（宇部50年誌・宇部十周年誌・昭和25年度市勢要覧・警察年報・消防年鑑・衛生課・土木課・市水道課・宇部標準保健所・宇部公安分室・民生課・宇部労働基準監督署・宇部労政事務所・煤煙対策委員会などの資料による。）



移動図書館

字部の文化は このように発 展してきたか

昔のあと

字部の名のおこり

字部の古い歴史を書いた徳川時代の記録によると（防長風土註進案）、昔は海辺にあったので「むべ」と言い、それから「うべ」と呼び名がかわったとか、また遠い昔に美酒を作るのに郁子（むべ）を用いたが、この郁子がこの地方から、たくさんとれるので、名づけたとか伝えられている。

出土品

5,000年前ごろから、すでに人間が住んでいたとみえて、石斧や石庖刀が出てきた。弥生式土器の素朴なものも掘り出されている。大じかけな古墳はないが、小さなものは多く、亀浦海岸あたりも、それらしい跡が残っている。



供養塔

板碑

石鍋

川上の虚空蔵の境内から、板碑が発見されているが、これは死んだ人の追悼供養のためにたてられた石づくりの卒都婆で、鎌倉時代の字部の記念物の一つである。文応2年（1261）と刻まれている。

る。西岐波の村松には四十塚という古代人の穴居の跡があったといわれ、弥生式土器も発掘されている。

教 育

1949年（昭和24）4月30日現在の文部省調査による全国学校調査によると、小学校20,714校（11,249,222人）・中学校11,533校（44,905,814人）・山口県全体では小学校396校・中学校229校であるが現在の宇部市の各校種別内訳は次のようになる。

種別	校数	学級	教員	学 生		
				合計	男	女
幼稚園	4	11	18	381	192	189
小学校	11	335	376	17,422	8,743	8,629
中学校	6	131	192	6,308	3,383	2,925
私立合計	2	9	33	376	—	376
校合計	8	140	225	6,684	3,383	3,301
高等学校	4	62	137	2,880	1,978	902
私立合計	1	7	16	320	290	30
学校合計	2	24	15	1,071	—	1,071
大学	7	93	204	4,271	2,268	2,003
国立	1	12	48	355	355	—
私立	1	3	82	117	117	—
学計	2	15	130	472	472	—
合計	32	594	953	29,230	15,058	14,122

（昭和26年度）

むかしの教育のようすは、はっきりとはわからないが福原氏の領土となるまではおおよそ土地も荒れたままで、人も少なく教育らしいものもなかったであろう。ただ寺を中心にして漢学を教えていた程度であった。天保の中ごろ（1830代）宇中村の旧信行寺の下に晩成舎がたてられ、萩の本藩の士、久保田寅彦が福原氏の家臣たちに中国の本の読み方と意味（漢籍の素読と語義）を教えていたが、後に晩成堂と改められている。ついで1850年ごろ（嘉永年間）に領主の邸内（大小路）に菁莪堂を設けて阿知須にいた佐々木向陽を学頭（今の校長とよんでよい）として晩成堂をやめて、ここで武士の子弟を教育した。後に福原越後は1864年（元治元）菁莪堂をやめて、新たに邸に近い中尾村（大小路）

に維新館をたて、向陽の子、貞介を学頭とした。時代は徳川幕府のくずれかかったころであり、外国船も日本へ来はじめたので、縁が浜を練兵場として、武術の訓練も行っていた。明治維新になって領主のたてた維新館は廢校となった。また別に習字場を大小路にたてて、武士の教育所としたこともあり、寺小屋を開いて、農家の子弟に学問を教える者もあった。

宇部の人たちに大きな影響をあたえた福原越後は名を元備もとたけといひ、徳山藩主の毛利就寿なりひさの第三子として生まれ、福原氏をついだのである。幕府の権力がくずれてゆくとき、幕府をたおす勢力として大きく動いた毛利藩の家老となった。その後、明治維新をおこした下級武士の勢力におし出され、ついに責任をとって切腹せつぶくをさせられたことは、そのころの宇部の人たちの精神を大きくゆすぶったのである。(53ページ参照)



福原越後公

1872年(明治5年)学制がしかれた時、まず小学校を宗隣寺に設けたが、後に教念寺に移し、ついで中尾村に宇部小学校を設け1885年(明治18)寺の前に移した。(今の上宇部小学校)。それより前の1874年(明治7)には小串・草江・藤曲、翌年には梶返に各小学校をおいた。その後、これらの小学校はなくなったが、宇部の発展にともなって1910年(明治43)新川小学校、つづいて沖の山・神原・岬・鶴島・藤山・厚南・原・西岐波・宇部高等小学校などがたてられた。また1902(明治35)ごろには中学校としては最も古い香川裁縫塾(今の香川学園)が藤曲に始められ、ついで女子実業補習学校(後の家政女子校・市立高女)私立沖の山家庭学校・博愛幼稚園(現在市立)・私立済美女子校(後の宇部高女)・徒

弟学校(後の長門工業で現在はない)ができて教育施設も次第に整ってきた。さらに宇部の人々が教育に熱心であったあらわれとして、全国で最初の村立中学校が1921年(大正10)設けられた。つづいて県立工業学校・市立商業学校・私立女子商業学校・市立中央青年学校が設けられ、1939年(昭和14)には官立宇部高等工業学校・県立医学専門学校の開校をみるようになった。1941年(昭和16)小学校は国民学校と改められ、その年の12月には太平洋戦争に突入した。45年(昭和20)7月の戦災で宇部・沖の山・見初・恩田の各小学校は全焼し、恩田・見初をのぞいて廢校となっている。戦後、6・3・3・4の新しい学制が実施されて青年学校・高等科は廢止され、国民学校は小学校に復し、新しい中学校として市立の原・厚南・藤山・桃山・神原・常盤・西岐波の6校が設けられ3か年の高等学校として県立の宇部高校・農商高校・工業高校・市立高校・香川学園・宇部学園の7校と大学として国立山口大学工学部・山口県医科大学の2校が発足した。しかし戦後の諸事情は新しい制度に対して新しい施設をするのに、今もなお、苦心をしている。また戦後発足したP・T・A組織は教育の向上に大きい力を与えていることを忘れてはならない。

社会教育

宇部の特色といわれるものに報徳会があった。とくに1918年(大正7)に米騒動まいそうどうがおこってからは京都桃山報徳会の精神を宇部市民にひろめ、共同一致・知恩報徳でやっていくことになり、次第に盛んになった。修養団・婦人会・青年団もこうした考えで活動していたといえるだろう。

1936年(昭和11)設立された渡辺翁記念会館が文化事業を行う場所として利用されていることについては注目しなければならぬ。この記念会館は、近代の宇部を開発した人としての渡辺結策(渡辺

翁と今も呼ばれている)を記念する事業として、その死後、関係した会社によって建てられたものであるが、今は市の経営にうつされている。せっかくの大きな建物がどのように利用されてゆくかは、これからの市民の問題として大いに考えなければならない。

渡辺祐策は宇部開発の歴史を一身にせおった人といつてよい。1864年(元治元)島に出生、幼い時、両親を失ったが、15才で岩国の漢学塾に学び、やがて宇部の村会議員に選ばれて自治行政に尽したが、1890年(明治23)ころより炭鉱事業にのりだして、協同組合式のとく名組合(宇部の産業開発の方式)をとり入れた。1894年(明治30)には沖の山炭鉱を開き、それをもとにして、埋立や、石炭をもとにした近代産業を開く計画をたてていった。ただ産業の面だけでなく、事業の利益を、宇部の新しい施設の面に投じたところに、渡辺翁として宇部の人たちに親しまれている理由がある。宇部の近代のなりたちを調べようと思えば、どうしても、この人の歩んだ道を調べなければならない。それほど、宇部の開発されてゆく姿といっしょであったといわれる。



渡辺祐策翁

宇部図書館は1905年(明治38)に日露戦争記念として、宇部共同義

図書館利用状況

昭和26年3月末現在

年度	23	24	25
冊数			
絵冊数	9,296	11,194	17,412
利用冊数	58,268	72,177	86,703

村内の人々が自由に読める方法として開いたのだが、利用する人は少な

かったようである。その後、購入した書物も多く、戦争によって全焼はしたが、現在21,320冊をかぞえ、市立図書館として、利用も増しつつある。宇部の文化をたかめるためにも大きい役割をもち、敷地も新しく島に定まり、社会教育機関としての活動が計画されつつある。

その他、婦人会、青年団、ボーイ・スカウト、ガール・スカウト、子ども会などそれぞれの活動がつつけられている。また記念館を利用した好楽協会は、関西としてめずらしい発展をとげており、その他に各種の文化団体がつくられているが、働く者の文化を高めようとしている労働組合の文化活動も、民主化運動の一つとして見のがせない。

宗 教

神社14・寺院40・教会36が宗教団体として数えられる。

神 社

遠く1000年の昔、琴崎・日吉・里崎・梶返の四大社が相ついでたてられた。琴崎八幡宮は627年(貞観元)豊前国(福岡県)宇佐から霊をわけてまつられたもので、初め琴芝にあったものを1377年(永和3)に霜降山に山城をかまえていた厚東氏によって西の宮にうつされたといわれている。その後、今の地にうつされた。この神社は旧宇部村の氏神(産土神)といわれている。市政をしいた時も、市になったことを神につげ、市憲を朗読して市民が神にちかう儀式を行ったというのもこの神社である。終戦までは精神のよりどころをこの神社へもとめていた。毎年、市制記念日には市長をはじめ多くの市民・各学校の上学年が八幡宮の境内に集まり、宇部市憲を朗読し、市の発展をいのり、協力をちかう儀式がつつけられた。終戦後は、信仰の自由がつよくいわれ、神社参拝が市民のつとめと

して強要されることがなくなり、神社も宗教の一つと認められ、市の儀式は神社でおこなわれなくなった。

中津瀬神社は、八幡宮とはちがった意味で宇部および近くの町や村に親しまれている。1798年（寛政10）に大水を防ぐために樋の口から沖の山（緑が浜）に新しく川を掘り真締川を流れる道をつくって新川としたが、そのころのならいで、新しい川のしずめとして、神をまつたのが、この水神様といわれる中津瀬神社である。今の山口銀行宇部支店のあたりに建てられ、毎年旧4月5日の祭礼の日には農具市がたって近くのもが売り買いに集まったのであるが、後に現在の地に移された。川に名づけられた新川（新川の名は他の地方にも多い）の名がだんだん砂浜が町になっていくにつれて、いつか町の名になってしまい、新暦の5月5日の新川市祭は、年毎に市民の精神のよりどころとしての祭りではなく、新川の町の商業発展の神としてにぎわうようになってきた。

その他に北迫の日吉神社・旧藤山村の西宮八幡宮・厚南の松郷八幡宮・水分神社・海開作の守護神としての神社など14あまりの神社がある。

寺 院

1231年（寛喜3）鎌倉時代初期にたてられたという浄土宗の松月院・室町時代の中期にできたといわれる浄土真宗の教念寺・1452年（享徳2）にたてられた真宗の蓮光寺・あるいは領主の福原氏の信仰をあつめた宗隣寺など40寺がある。

ここでよく家々の額などに見えている道重上人のことにふれてみよう。95年前、梶返の農家に生まれ、13才で松月院の僧となり、住職小田信重のもとで修業した。やぶ蚊の多い松月院で夜おそくまで、仏教の勉強をし、24才で選ばれて、京都知恩院の浄土宗の学校に入学、30才で卒業、かえって松月院の住職となった。明治天皇に

仏教を講義申し上げたり、1923年（大正12）には浄土宗大本山増上寺（東京都）の貫主となり、あくる年には大僧正となった。宇部市から初めて日本一のえらい僧がでたということは、宇部の人のほこりであった。人がらが、形にとらわれない方で、いねむりして話をきいている人があっても「わしの話は、耳からはいるのではない。毛穴からはいるのだから、ねていてもよいよ。」などといって、むとんちゃくなところがあり、人が「額にするから。」と書をたのめば、「よし、よし。」といって、筆をとって書いており、だれにも、むぞうさにあって話をしていたので、人々に親しまれるところが多く、今でも床の間などに、上人の書いた額が多いわけである。



道重上人

キリスト教会としてはカトリック教会・新教の日本キリスト教団

種別	仏					教			
	天台	真言	浄土	曹洞	臨済	真宗	日蓮	法華	華嚴
寺院数	4	5	3	2	1	20	2	2	1
信戸数(戸)	1,032	565	590	146	500	6,942	206	103	-

種別	教						会		
	天理	神理	御嶽	大成	金光	P.L.	キリスト	石鐘	カトリック
教会数	21	4	1	1	3	1	2	2	1
信戸数(戸)	1,008	-	-	117	937	530	516	250	365

昭和25年8月現在

があり、その他新しい教団も次第に増しつづつある。なお寺やキリスト教会では社会教育をめぐし、日曜学校・幼稚園・保育園などを経営しているところも多くなってきている。

生 活

公園・遊園地

緑が浜としての白い砂と松のあった時代は、町や炭鉱の人のなく

さみの場所もあったが、家がたちならび、会社がたてられると、宇部は、煙の町・ごみの町となり、美しさもそこなわれていった。子どもの遊び場所さえもなくなったので、このごろ、児童遊園地が次第にできつつある。もっと家族づれで遊ぶ場所を、と市民は求めているが、今のところ、町の中にはないようである。常盤池が公園として楽しめる場所の一つとなってきたのは福原氏時代から、けしきのよい場所として遊ぶ土地となっていたらしく、京都朝廷の政変によって、毛利藩にのがれてきた「七卿落」の一人である錦小路卿も「名にし負う常盤堤のすつみ小松原、むべ(宇部)千代ふべき色ぞ見えける」と、福原越後のもとにあって歌ったことがある。

校歌などによく歌われている霜降山は、山の少ない宇部の人たちに親しまれており、厚東村にあって、海拔250m、北峰・中峰・南峰の三つのいただきをもち、厚東氏の居城として、封建時代の武将たちの伝説を伝えている。煙とごみの多い市民たちにハイキングのよい場所として、学校生徒の遠足のところとして、なくてはならない山であろう。

映 画

昭和25年度の入場者は1日平均約2,400人、1年平均約870,000人。宇部市視覚連盟・宇部文化クラブなど映画向上の団体があるが、映画の宣伝のしかた、入場者の多い映画の種類などから市民の生活の娯楽の面で考えなければならぬ問題は多いようである。

新 聞

市内に本社をもつものとして、ウベニチ・山口日日があり、防長・朝日・毎日・西日本などが多く読まれている。購読数は1941年(昭和16)は1世帯平均0.8部であったのが、1951年(昭和26)には1.4部と増している。郷土新聞としての起りは、紀藤閑之介氏が中心となって、1912年(明治45)から毎月一回無料で村内に配っていた

のが最初といえよう。しかし今の新聞というよりも村報式のものであったらしい。これは1921年(大正10)に脇順太にひきつがれて、日刊宇部時報となり、はじめて新聞らしくなってきた。戦争中は自由に新聞を出すことが、ゆるされなくなり、山口県にただ一つになってしまったが、戦後宇部時報が復刊して、後に山口日日新聞と改められ、1949年には新たに郷土紙としてウベニチ新聞がおこされた。

ラ ジ オ

1946年(昭和21)には、7,140人の聴取者であったのが、1951年(昭和26)には13,555人という約2倍となり、100戸に対して47戸の割合になっているから、2.1戸につき1台のラジオがあることになる。山口県の都市では第7位であるから多い方とはいえないがそれでも全国のラジオ普及率平均47%のところにある。

年度別	世帯数	聴取者	指 数	普及率
21	20,588	7,140	100	34.7%
23	28,974	10,686	150	36.9%
25	28,790	13,555	190	47.1%

(昭和26年3月末現在)

ス ポ ー ツ

1919年(大正8)ごろは新川小学校(今の宇部郵便局の西側)の運動場で野球などが盛んにおこなわれていた。工業が盛んになるにつれて、市民の総合グラウンドの必要がとえられはじめた。そして1940年(昭和15)になって市民のいこいの場所である公園までもふくむ総合グラウンドが計画され、野中の良田3万余坪をつぶし、青年団なども勤労奉仕して、工費約30万円を投じて工事が進められたが、たまたま太平洋戦争がおこり、平和的な事業があとまわしとなり、現在の形のままで中止されたのである。戦後の財政の苦しさから、競技場と野球場だけが整えられて、あとの地は畑としてうちおこされたり、草が生えたままになっている。競技場は1951年には全国

地域対抗競技大会が行われ、市民も全国の競技会をむかえてたのしむことができた。

ならわし

古いころから正月3日の間は、神仏に雑煮をそなえて家中でも食べ、朝祝をする。親方などには「年の餅」をひとかさね、青銅百疋をそえて持って行っておったようである。2日には裸馬に乗り、11日には作り始めといて、もよりの田地に椎の木芽、齒染樺しだらぼうを作り、神を祭るなど、また2月には地神祭といて、盲僧を招き、五穀（もみ・大豆・小豆・麦・稗）をそなえ、札守などを家々に配り、麦の畑にこれを立てるのであった。2月秋田（稲のみのりのころ）にも盲僧を招き、田地豊饒きとうの祈禱をして札を作り、これを家々に配り、各家々では苗代田なぼしろに立てておくのを常とした。

五節句の上巳には蓬餅よもぎもちをこしらえ神仏に供え、一日休息する。田植は夏至や半夏至のころ行い、大作りの所では雇人が大ぜい集まって植付けをし、数軒・三軒宛行う所もあった。村中植付けがすむと、氏神に参詣して神楽かぐらを奏して作場さくあげといて一日ずつ休息するのである。

6月30日は夏越なつこしといて軒別に牛馬をひきつれ海や川などのもよりの場所に洗すすに行く。7月中旬には若い男女が集まって、盆踊りぼんおどりといて太鼓を打ち、寺の境内で手振踊てぶりおどりをするなど今日にもその風習が残されている。

方言 地方の特色として興味のあるものに方言がある。

あげ	陸の上	でんき	せっかち
じげ	部落の内	ごっぽう	非常に
うと	穴	いがく	にる
はなわる	始まる	おごる	叱る
ほろける	落ちる	みてた	なくなった
めげる	くだける	ねつい	ていねいなこと
はんごう	都合		

さんだん	計画
ごっぽう	非常に
ずいたれ	くいしんぼう
どーかん	腕白者
びったれ	不潔不整頓
じょうに	多くさん
もぜしをつける	つぐないをする
だらしい	だるい
どようし	非常に
こりー	おい
つい	同じ

えらめる	つらい目にあわ
	せる
おーちん	お家
せく	腹のいたみ
ひがら	斜視
うぐし	啞
こつる	咳をする
はしる	いたむ
たぶ	炭坑
うむす	砂利の水を防ぎ
	とめて坑内に落
	ちぬようにする

伝 説

巨人の足跡

「昔、巨人おおひとがいた。この前の海を一またぎにしようとして、とうとう海にはまって死んだ。その足あとが、小串から中山の観音に越す道の左側（中宇部なかつま字焼米）に残っており、もう一つの足あとは豊後の生姜島にある」と伝えられている。これと、よくにた話が常陸の国（今の茨城県）のことを書いた風土記の中に「昔、巨人がいた。からだを岡の上におきながら、長い長い手をのばして海の中の貝をとって食べていた。その貝がらが積りつもって一つの岡になった。常陸ひらの平津ひらのうまやから西に12里の所にある大節おおせしの岡というのがそれである。その巨人の足あとの長さは30余里、幅24歩ある」と書かれている。こうした巨人伝説は貝塚に関係したものが多く、宇部のは貝塚が川上の北迫にあったことから考えると、やはり貝塚との関係があるようにも思われる。また常陸の大節と宇部の小串と、その名にているのも何かわけがあるようにも思われる。

宝くらべ

ある日、霜降山の城主の厚東盛俊が家臣の包村を招いて言った。

宇部の年表

「さみだれが降りつづくさびしさを晴らそうとして、全部の遊びを
 してしまい、もう新しい楽しみもなくなったから、明日、自分とお
 まえの宝くらべをしようではないか。おまえの宝を持って来い。」
 包村は何度もことわったが、たつての城主の命なので致し方がなく
 家に帰り、妻子と相談して、「世のことわざにも万の蔵より子が
 宝、ということがあるから、12人の自分の子をつれて行こう。」とそ
 の準備にかかった。あくる日、城の中の一間に盛俊は金の鶏・金の
 猫・その他宝物を所せましと並べて包村のくるのを待っていた。包
 村は男子7人・女子6人に晴着をきせて登城した。参観を許された
 家来たちは「殿様のお宝の鶏や猫は時も知らさず、鳴きもしない。
 それにひきかえて12人の若君・姫君は何と美しいことであろうか。
 御家老のお手柄」とはやしたてたので宝くらべは盛俊の負となった。
 それから盛俊は子供がほしくなり、奥方と共に七日七夜、中山の観
 音におこもりして、「子供をお授けください。」と祈った。満願の夜
 の明方の夢に観音が現われて、「一生懸命の願いにより女子を授け
 るが、しかし姫は8才になれば命を終るだろう。」とつけた。子供は
 万寿姫と名づけられて、かわいがられたが、8才になっても命の終
 るようすもなく、美しく成長していったので、前から野心のあった
 包村は大いに怒って「中山観音はうそつき観音。」とののしり、岩石を
 投げつけたので、今も観音の腰はまがっていると伝えられている。
 この宝くらべは琵琶歌「城山くずれ。」からとったもので観音に
 石を投げつけたため、その罰で厚東氏は亡んだといいつたえられて
 いる。ほかに藤曲の馬とか沖田の鶴とかの伝説もあるが古い宇部の
 人たちの生活を知るためにも伝説を集めてみるのもおもしろいこと
 であろう。

(厚狭郡誌・宇部村誌・山口県誌・防長註進案・宇部時報所載宇部昔物語・商工会議
 所・統計課・教育課・文化課・郷土学部・末広薫氏・山田亀之助氏談・宇部高校社会
 科備品などの資料による。)

時代	紀元	年号	宇部 ()は山口県	日本 ()は世界
原始時代	紀元前		・今の台地附近が海べであって、そのあ たり人間が住んでいたらしく、石斧 ・石廬丁・弥生式土器が瀕り出され ている。	・縄文(じょうもん)式 文化 ・弥生(やよい)式文化
古	193		(仲哀天皇が穴門豊浦宮一今の長府一 をつくる。)	
	340		(このころ、周防の各地に国造をおく。)	・このころには、大和 政権が日本全土を統 一。
	645	大化元	(国郡制がきて、周防5郡・長門5郡の2 国をおく。)	・大化の改新をはじめ る。
	708	和銅元	(吉敷郡鑄支司村で和銅開珎をつくる)	
	710	〃 5		・平城京(奈良)に都 をうつす。
	741	天平13	・中山観音のはじめの地藏院がたつた と縁起にある。(防府市の周防国分寺・ 長府国分寺がたつ。このころより、熊 毛郡牛島・吉敷郡達理山でできる銅に よって、長門の鑄銭にあてる。)	・諸国に国分寺をたて る。
	771	宝龜2	・東須恵の松郷八幡宮を宇佐からまつ と伝えられる。	・兵農がわかれる。
	794	延暦13		・平安京(京都)に都 をうつす。
	811	弘仁2	・川上の日吉神社をまつる、と碑文にあ る。	
	845	承和12	・岬の住吉の祠がたつ、と碑文にある。	
代	859	貞観元	・僧行教が宇佐より雄徳山に祭る幣を琴 芝にとどめめた、と琴崎の碑文にあ る。	
	901	延喜元	・菅原道真が筑紫へ流されるとちゅう、 梶返に船をよせた、と伝えられる。こ のころはまだ海であったらしい。	
	904	〃 4	(防府に松崎神社をたて、道真をまつ る。)	
	927	延喜5	(延喜式のなかに山陽大路の防長領名 がのっており、賀宝・阿瀬・厚狭・埴 生・宅賀・臨門などの駅名があげられ ている。)	
	942	天慶5	・中山観音がたつ、と伝えられる。	
	1097	承徳元	・源俊頼が牟備(むべ)にとまり討殺し た、といわれる。	・地方領がしだいに荘 園となってゆき、国 司の差任がさかん におこなわれる。 (962,神聖ローマ帝 国ができる。) ・996,藤原道長が権勢

前 期 封 建 時 代	1179	治承3	・厚東武光が霜降城をきづく。	をふるう。 ・平重盛の死・次の年に源頼朝が兵をあげて、平氏とたたかう。
	1185	文治元	・このころ、入幡宮が西の宮(中宇部)にたつ。(平氏が下関の壇の浦でほろび、次の年に佐々木高綱が長門の守護となる。)	・全国に守護地頭をおく。
	1192	建久3		・源頼朝が征夷大將軍となり、鎌倉幕府を開く。
	1231	寛喜3	・このころ松月院(天台宗)がたつ。	これより武家政治(封建政治)が1868年までつづく。
	1261	文応2	・川上の虚空藏 <small>ほんり</small> の板碑ができる。	
	1275	建治元	(北条宗頼が長門探題となる。)(元の使者社世忠が豊浦郡室津浦に着く。)	
	1334	建武元	・厚東武実が建武の中興に協力して、長門の守護となる。後に足利尊氏にしたがう。	・1334,建武の中興
	1338	暦應元 (延元3)		足利尊氏が征夷大將軍となり、室町幕府を開く。
	1339	〃 2	・藤原 辰古が琴芝八王子の神をまつた、と伝えられる。	(1368,元がほろび、明となる。)
	1358	延文3 (正平13)	・大内弘世が厚東義武を攻め、霜降城を落城さす。(1363,大内弘世が防長の守護となる。)	
	1377	元和3 (天授3)	・入幡宮が琴崎にうつる。	
	1379	〃 5	・松江山普濟寺の鐘の銘をはる。	
	1451	宝徳3	(けん唐船10隻のうち、大内氏が1隻を出発さす。大内氏が大陸との貿易をはじめて、次第に富んでゆく。)	
	1452	享徳元	・蓮光寺がたつ。	(1453,東ローマ帝国がほろぶ。)
	1461	寛正2	(雪舟が山口に来る。)	・1467,応仁の乱がはじまる。
1475	文明7	・西宝寺がたつ		
1482	〃 14	・このころ教念寺がたつ。一説に1489年(延徳元)とも伝えられる。	(1492,コロンブスのアメリカ発見。)	
1491	延徳3	・このころ信行寺がたつ。	・1510年ころより、群雄が諸国におこって、争いがつづく。	
1521	大永元	・このころ際波沖開作120町歩ができる。		
1540	天文9	(このころ大内氏の城下町山口がさかえる。)		
1550	〃 19	(ザビエルがキリスト教伝導のため山口へ来る。)		

後 期 封 建 時 代	1557	弘治3	(大内義長,毛利元就によって長府で殺され、大内氏がほろび、防長2国は毛利氏の領土となる。)	・1555,毛利元就の厳島の戦。
	1569	永禄2	・大内輝弘,山口を攻めるが、ほろぼされ、藤曲の海東坊大門寺は断絶する	・1573,室町幕府ほろぶ
	1581	天正元	・藤曲の善福寺がたつと伝えられる。(一説に1639,寛永16年。)	・1590,豊臣秀吉が全国を平定。
	1600	慶長5	(関が原の戦にやぶれた毛利輝元は防長2国の領主にへらされる。)	・関が原の戦。
	1601	〃 6	(室木開作をつくる。)	(英国東印度会社設立)
	1603	〃 8		・徳川家康が征夷大將軍となり、江戸幕府を開く。
	1605	〃 10	(輝元,萩城にうつる。)	(1603,英のエリザベス女帝の死。)
	1606	〃 11	(江戸城の普請助役となる。)(毛利藩,財政に苦しむ。)(慶長年間に萩焼がはじまる。)	
	1615	元和元	・このころ中山の浄月寺がたつ。	
	1625	寛永2	・福原元俊が吉敷より宇部に移封され、これから明治維新まで福原氏が宇部の領主となる。	・1620,このころ南洋各地に日本人町がつくられる。
	1643	〃 20	(税法改革奉定法を行う)	・1635,参勤交代を大名に課す。
	1644	正保元	(東条就頼が吉敷南辺を開作する)	・1637-38,島原の乱
	1651	慶安4	(毛利本藩領が18宰判となり旧宇部・藤山・厚南は船木宰判,西岐波は小郡宰判のさしずを受ける。)	・1639,鎮国令をしく
	1654	承応3	(漢陽寺隧道を開く。)	・(1644,明がほろぶ)
	1655	明暦元	・明照寺がたつ。	
	1657	〃 3	(寄鯨の処分法を定める。)	
	1659	万治2	・松月院が天台宗より浄土宗に改宗する。(万治制法を藩主綱広がはん布する。)	
	1662	寛文2	(阿武郡鶴江に燈台をつくる。)	・このころ各地に百姓一揆さかんに起る。
	1666	〃	(厚狭郡高泊開作をつくる。)	
	1670	〃 10	・宗興寺がたつ。	
	1674	延宝2	(岩国藩主吉川広嘉の命によって錦帯橋をかける。)	
	1675	〃	・延宝年間に船木の住民が、たきぎのかわりに石炭をたく。(宇部炭田の発見。)	
	1691	元禄4	・藤曲江の内開作ができる	・1683,荒地開墾規定を公布する。
	1693	〃 6	・鶴の島開作70町歩の蛇瀬池ができる。	・1684,河村瑞賢の治水事業。
	1696	〃 9	・助田鼻と浜との間に堤防をつくる。	・1687,田畑売買永代禁止令。
1697	〃 10	・常盤の池の築堤(本土手)ができる(元		

後 期 封 建 時 代	1699	元禄12	・藤曲の浜田開作の検地石積り	(禄8年着工)(三田尻塩田ができる)	(・1689,ネルチンスク条約,露清間にむすばれる。)
	1701	〃 14	・床波を開作し,水害を防ぐための江頭川をはる。	(プロシヤ王国ができる。)	
	1708	宝永5	・藤曲の西の宮入幡宮をまつる。		
	1709	〃 6	・日吉神社を紫竹峠より今の地へ移す。	(・1707,大ブリテン王国ができる。)	
	1718	享保3	・棕梨権左衛門俊平の死。	・1716,吉宗八代將軍となり,享保の改革をはじめ。	
	1719	〃 4	(毛利吉元,藩学明倫館を開放)(享保年間に,防長の風土記および絵図をあつめる。)	・1727,甘庶・1734,さつまいもの栽培をはじめてこころみる。	
	1732	〃 17	(いなごの害で,防長2州がききんとなる。)(中国,四国,九州地方一帯がおそわれる。)	・近江以西にききん。このころより米のねだんがとくに高くなり,百姓一揆うちこわしも次第にはげしくなる。	
	1739	元文4	(毛利宗広,備荒貯穀の法をもおける。)	・1935年ころより幕府は産業をおこすことに努力。	
	1742	寛保2	(幕府の命によって上利根川の堤をきざく。)	・1750,百姓の強訴,みよう字帯刀を禁ず。	
	1751	宝暦年間	藤曲の外開作20町歩ができる。	・1752,江戸からの定期飛脚ができる。	
	1763	〃 13	(毛利重就,前年に検地し,撫育仕法を定め,萩に撫育局をおく)	・1770,百姓一揆禁止の高札を村々にかかげる。(1776,アメリカ独立宣言。)	
	1766	明和3	(幕命により美濃,伊勢両国の諸川の普請助役をする)	・1683-84年にかけて諸国が大ききんとなる。	
	1772	安永元	(幕命により日光東照宮の手伝普請の割当。)	・民の生活が苦しくなり,このころとくに一揆,うちこわしが多くなる。1787年に松平定信が老中となる。寛政の改革ははじまる。	
	1778	〃 7	(撫育倉庫10カ所-厚狭の下津,高千帆の後瀬・小郡の東津など-の貯蔵倉庫をもうける)	・ロシヤ使節レザノフが長崎に來り,貿易をせまる。	
	1782	天明2	・厚南上開作42町歩ができる。縮澄神社をたてる。	・1815,忠敬が沿海実測図をつくりあげる。	
	1787	〃 7	・中野開作83町歩ができる。壇安神社をたてる。		
	1788	〃 8	・本藩の撫育局によって,厚東川の水から灌漑する「こぶいく」用水工事をおこす。		
1792	寛政4	「こぶいく」用水工事ができあがる。			
1798	〃 10	真締川の水害を防ぐため,村上純明によって新川を掘る。次第に川じりに舟が集りはじめる。(港のおこり)			
1801	享和元	・新川のそばに中津瀬神社をたてる。			
1805	文化2	・妻崎神社がたつ。			
1807	〃 4	・妻崎開作213町歩ができる。(伊能忠敬が防長の海岸を測量。)			

後 期 封 建 時 代	1830	天保元	(非常にそなえるため社会困窮をはじめる。)	(1820,イギリスがシンガポールを自由港とする。)
	1831	2	(防長一円に百姓一揆がおこる-上納米取扱方改革の要求を主として。)	・1822,イギリス船が浦賀に入港。
	1832	3	(藩の負債が8万貫以上となり,これを「8万貫目の大敵」として上下が苦しむ。天保8年,敬親が藩主となって,村田清風などを用いて-9万2千貫目に達している-これの対策を実行する。)	(1830,フランス7月革命。)
	1839	10	・このころ,庄俊正の漢学塾がはじまる。	・1832-36にかけ全国にききんが多い。
	1840	11	・向田兄弟がなんば(南蛮車)を発明し炭坑の採掘がすすむ。(毛利敬親が庶政の改革を命ずる。)	・1837,大塩平八郎の乱。
	1841	12	(防長一州の村里の風土記を注進させる-防長風土記進案。)	(アヘン戦争)
	1845	弘化2	・風土記進案によると船木宰判の逢坂,有帆,東西高泊,東西須恵,波岐,宇部の8ヶ村で石炭330,600餘貫,その代銀160貫と)	・1841,水野忠邦が天保の改革をはじめ
	1845	弘化2	・このころ晩成堂を中尾に移転し,菁莪堂と改める。	
	1847	4	・前開作30町歩ができる。	(1850-64,大平天國の乱。)
	1849	嘉永2	(毛利藩で,はじめて種痘をおこなう。)	・1853ペリー浦賀に來り,貿易をせまる。
	1855	安政2	(敬親とともに藩の財政たてなおしに努力した村田清風の死。)	・1854-55,アメリカ,イギリス,オランダと和親条約を結ぶ。
	1856	3	(吉田松陰が松下村塾をおこす)	・安政の大獄により松陰たちが死害となる。
	1857	4	・居能開作のしおどめ工事ができる。	・幕府の専断,長州を攻めるがやぶれる。
	1859	6	・妻崎新開作120町歩ができ,竹の小島が陸つづきとなる。	・王統復古。
	1863	文久3	(毛利藩が下関で外国船をうつ。)	
	1864	元治元	・菁莪堂をやめて維新館をたてる。・朝廷の決定を変えさせるため三藩老(前田後(宇部領主)・国司信濃,松田正三)中心として毛利藩士が京都に参り強いにやぶれる。宇部の福原氏の伝もこの戦に加わる。幕府はその責任をこい,防長二州を攻めることになる。福原越後たち三家老は藩の命によって自殺し,幕府に許しをこう。	
	1866	慶応2	・さつまつ藩(鹿児島)毛利藩の連合ができ,幕軍をやぶる。この四境の戦で宇部の人からも戦死者がでて,維新招魂社をたてて,まつるようになる。	
1867	3	(討幕の密勅くだる。)*福原芳山がイギリスへ渡る。		
1868	明治元	・波多野開作19町歩ができる。船木宰判に石炭局をおき,洋式の技術をとりに	・江戸を東京とあらためる。	

近

代

		れて、宇部、小野田、船木、方面の炭田を本格的に開採する。(鳥羽伏見の戦にしたがい、旧幕軍をやぶる。)	
1869	2	(防長一円に一揆がおこる。)(毛利元徳が藩知事となる。)	・東京に都をうつす。 ・東京と横浜との間に電信開通。(スエズ運河開通。)
1871	4	(毛利藩をやめて山口県となる。)	・薩藩置県(3府72県)郵便規則がきまり、東京、京都、大阪間におこなわれる。(パリ・コンミュールの革命。)
1872	5	・はじめ宗隣寺に小学校を開き、教念寺にうつす。後に中尾に一校舎をたて宇部小学校という。藤山小学校開校。(山口県新聞創刊。) ・藤曲・沖の且村を合併する。	・庄屋、名主、年寄をやめて戸長、副戸長となる。学制頒布。農民が職業に自由につくことがゆるされる。
1873	6	(広島鎮台、山口分屯所一国の軍隊ができる。)	・東京、横浜間に鉄道開通 ・日本法廷がきまる ・全国に鎮台兵をつくる一各地に徴兵反対の一揆がおこる
1874	7	・小串、草江に小学校を開く。西岐波小学校が開校。藤曲に郵便局ができる。福原芳山婦朝。(山口県教員養成所がたつ。) ・川上・上宇部・沖宇部村をあわせ寺の前に役場をおく。 ・中宇部・小串・沖の且をあわせ藤曲に役場をおく。	・佐賀の乱・台湾出兵
1875	8	・梶返に小学校を開く。	・新島襄が同志社英教をたてる。
1876	9	(前原一誠の萩の乱。)	(フランス共和国憲法がとおる。)
1877	10	(大嶺炭田を発見。)	・西南の役。
1879	12	(第一回通常県会を開く。)(県立五中学をつくる。)	(エジソンが電燈を発明。)
1881	14	(小野田セメント会社ができる)	
1885	18	・丹太郎に校舎をたてて宇部小学校をうつし、梶返小学校をやめて、草江、小串を分校とする。(今の上宇部小学校の開校。) 19年に分校をやめて宇部小学校にあわせる。	・このころ人力車がはやる。
1886	19	・和田善之介がむしわくを発明し、炭坑の掘り方が大いにすすむ。厚南小学校が開校。共同義会ができる。宇部式匿名組合が確立し炭業統一。	・赤十字条約に加わる。
1887	20	・炭坑で蒸気ポンプを使い始める。	・東京電燈会社をはじめ電燈をつける。
1888	21	・世論統一の機関として宇部連誼会ができる。	・市制、町村制がきまる。

近

代

1889	明治22	・町村制をおこない・宇部村(上宇部・中宇部・沖宇部・小串・川上)藤山村(藤曲・中山)厚南村(際波・沖の且・東須恵)西岐波村をつくる。	・帝国憲法を發布。
1890	23	(下関港が開港場となる。)	・第一回帝國議會が開かれる。
1891	24	・宇部炭田海底進出。(一説19年と)	
1892	25	・真綿川に石橋がかけられる(樋の口) ・藤山村居館に巡査駐在所がおかれる。 ・寺の前に消防組がおかれる。	・1894-95日清戦争。 ・1896、第一回ナランピック大会がアテネで開かれる。 (米人マルコニーが無線電信、仏人アデルが飛行機を発明。)
1893	26	・藤山村役場を藤曲上条におく。	
1896	29	・王子炭鉱で蒸気機関によって石炭をくさぶ。	
1897	30	・沖の山炭鉱を開坑 ・新川の町ができ始める。	
1898	31	・藤山村に船城銀行支店をおく ・宇部村農会ができる。	(米西戦争。)
1899	32	・船木警察署が宇部分署をおく ・はじめての劇場の緑座がたつ。	(ヘーグの万国平和会議。)
1900	33	・新川橋がかけられる。・島に郵便局ができる。・山陽本線が厚狭まで開通する一宇部の人阿知須、船木(今の厚東)小野田の駅まで行く。・(はじめて吉敷郡鎗矛司村に産業組合ができる。)	(義和団の乱。)
1901	34	・福川銀行の宇部支店ができる。(山陽本線が下関まで全通。)	
1902	35	・東新川(東区)に消防組がおかれる。	・日英同盟。
1903	36	・西新川(西区)に消防組がおかれる。 ・香川実科高等女学校。(今の香川学園)が開校。(山口図書館が開館。) ・木田の川越の噴水を改修。	・1904-5、日露戦争。 ・1905、平民社の暴動のリーダー。
1906	39	・宇部図書館ができる。	
1907	40	(下関を中心としてトロール漁業がはじまる。)	
1908	41	・東見初炭鉱が開坑。・厚東川に琴川橋(旧橋)がかけられる。 ・女子実業補習学校(市立家政女学校の前身)が開校。	・伊藤博文がヘルピンで暗殺される。
1909	42	・電気会社ができる。・郵便局が朝日町(西新川)にうつる。・私立博愛幼稚園が開かれる。	
1910	43	・山陽本線に宇部駅(今の西宇部)がつくられる。・新川小学校、私立沖の山家庭学校(後の私立沖の山小学校)が開校。	・日露合併、日本人(日野、徳田)がはじめて飛行機をとばす。
1911	44	・宇部駅(今の西宇部)と宇部新川駅(今の郵便局の西側)との間に郵便鉄道をしきはじめる。・宇部村青年会(青年団の前身)ができる。	
1912	大正元	・はじめて電話の取扱いをする。・常盤通りが町らしくなる。・宇部銀行ができる。	(中華民国が成立し、孫文が臨時大統領となる。)
1913	2	・済美女学校(後の宇部高女)が開校。 ・東西新川に下水道をひく。	・福慶五鉄道の敷設権をとる。

近

代

1914	大正3	<ul style="list-style-type: none"> ・新川鉄工所(宇部鉄工所の前身)ができる。 ・宇部徒弟学校(後の長門工業)が開校。 ・宇部駅と宇部新川駅との間に軽便鉄道が開通。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツに宣戦布告。(第一次大戦はじまる。) (1915,パナマ運河開通。)
1918	7	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部紡織所(紡績会社)ができる。 ・分署が宇部警察署になる。・米騒動がおこり、とりしずめに軍隊が出動し死者をだす。・岬小学校、実業補習学校(今の農商高校園芸科)が開校。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米のねだんが高くなり、富山県にはじまった米騒動が全国にひろがる。(第一次世界大戦がおわる。)
1919	8	<ul style="list-style-type: none"> ・京都桃山報徳会がひろめられる。 	(ベルサイユ条約。)
1920	9	<ul style="list-style-type: none"> ・村立宇部中学校(今の高校)が開校。 	<ul style="list-style-type: none"> ・尼港事件。・労働組合による最初のメーデー。・第一回国勢調査。(国際連盟第一回総会。)
1921	10	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部村に市制をし。・宇部自動車会社ができる。・宇部工業学校(今の工業高校)が開校。 	(ワシントン軍縮会議。)
1923	12	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部医師会をつくる。・宇部セメント会社ができる。・神原小学校が開校。(山口線が全通。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災(ソビエト連邦ができる。)
1925	14	<ul style="list-style-type: none"> ・西宇部、小郡間の宇部鉄道が全通。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普選制度公布。 ・東京放送局が放送をはじめ。
1926	昭和元	<ul style="list-style-type: none"> 15 皇太子殿下が宇部への行啓-これよりいっそう報徳会がさかんとする。・青年訓練所を開く。 	
1927	2	<ul style="list-style-type: none"> ・築港工事がはじまる。・水道をし。・市立商業実践学校(今の宇部学園)が開校。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京地下鉄が開通。(国民政府が南京に成立。)
1928	3	<ul style="list-style-type: none"> ・伝染隔離病舎ができる。 ・昭和開作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の普通選挙をおこなう。(15国が不戦条約をむすぶ。)
1929	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大衆党が宇部につくられる。・宇部鉄道に電車が通る。・小野田線の沖の山旧坑、小野田間が開通。・沖の山小学校が市立となって開校。(山口市制をし。) 	
1930	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ごぶいく用水路の改修工事がはじまる。 ・見初小学校が開校。 	(ロンドン会議。)
1931	6	<ul style="list-style-type: none"> ・藤山村を宇部市に合併。(山陰線全通) (萩市制をし。) 	・満州事変。
1932	7		<ul style="list-style-type: none"> ・上海事変。・満州国をつくる。5.15事件。
1933	8	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部チッソ工業会社 ・日満マグネシウム会社ができる。 ・築港ができあがる。 ・市民同盟がつくられる。 	(ヒトラーが内閣をつくる。・日本、ドイツが国際連盟より脱退。)
1934	9	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所をつくる。 ・道重信教・渡辺祐策の死(岩徳線全通) 	(ヒトラー総統となる。)

近

代

1935	昭和10	<ul style="list-style-type: none"> ・厚東川の大橋をかける。(徳山市制をし。) 	
1936	11	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部ソーダ会社、チタン工業会社ができる。・渡辺翁記念館がたつ。(防府市制をし。) 	<ul style="list-style-type: none"> 2.26事件。 ・日独防共協定
1937	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ごぶいく用水路の改修工事ができあがる。・厚東川から常盤池までの送水路工事をはじめる。 	・日華事変がはじまる
1938	13	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部港が開港場となる。 	・国家総動員法発令。
1939	14	<ul style="list-style-type: none"> ・西沖の山干拓工事がはじまる。・官立高等工業学校(今の山口大学工学部)・鶴の島小学校が開校。・宇部油化工業会社ができる。(下松市制をし。) ・消防組が警防団消防班となる。 	(第2次世界大戦がはじまる。)
1940	15	<ul style="list-style-type: none"> ・厚東川ダム工事をはじめる。 ・総合グラウンドができる。(岩国、小野田市制をし。) 	・大政翼賛会をつくる
1941	16	<ul style="list-style-type: none"> ・厚南村を宇部市に合併 	・太平洋戦争がおこる
1942	17	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部興産株式会社をつくる ・宇部鉄道、小野田線が国有となる。 ・恩田小学校が開校 ・厚南などが風水害をうける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ空軍が初めて日本本土を空襲する。日本軍の不利は次第にあらわれる。
1943	18	<ul style="list-style-type: none"> ・西岐波村を宇部市に合併。・厚東川から常盤池までの送水路工事ができあがる。・県立医科専門学校(今の医科大学)・原小学校が開校。 ・会社、工場に生徒、児童が動員されて作業する。(光市制をし。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学徒動員がはじまる(イタリア無条件降服)
1944	19	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部市消防署がおかれる。 	・17才以上を兵役にいれる。
1945	20	<ul style="list-style-type: none"> ・戦災によって中心の役所、市街地をやられる。・終戦後、労働組合がつづいてつくられる。 	(ボツダム宣言)・広島、長崎が原子爆弾をうける。・ドイツ、日本が無条件降服。(開港場が正式ができる。)
1946	21	<ul style="list-style-type: none"> ・農地改革がはじまる。 	・日本国憲法がきまり、47年よりおこなう。
1947	22	<ul style="list-style-type: none"> ・新学制により、今の西岐波・常盤・神原・桃山・藤山・厚南の中学校が開校。(天皇、県下を行幸。) ・宇部労働基準監督署がひらかれる。 	・新憲法による第一回国会が開会。
1948	23	<ul style="list-style-type: none"> ・自治警察となる。 ・自治消防組織となる。 ・公安委員がつくられる。 	・厚東川第一号水害の発生。
1949	24	<ul style="list-style-type: none"> ・厚東川ダムができあがる。 ・県下第一の工業生産都市となる。 ・広島保安監督部宇部支部がひらかれる。 	・重光葵がノーベル賞をうける。
1950	25	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部港が甲種重要港湾に指定される。 ・共同議会在解散。 ・西沖の山干拓工事 120万坪ができあがる。後に台風のため水びたしとなり、補修工事をつづける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮に戦雲がおこる。 ・ジュネーブおよびキジア台風。
1951	26	<ul style="list-style-type: none"> ・水防団ができる。・宇部保健所・保健所となる。・県立ときわ学校が開校。・市制30周年をむかえる。 	・サンフランシスコ講和会議。

私たちの住んでいるこの市に対して どのように考えなければならないか

三十年前、村からひととびに市になったほど、すばらしい発育ぶりをみせた宇部、そしてその後もぐんぐんめざましい成長をとげた宇部、これを人間の一生にたとえたなら、立派に壮年に達したということになる。ものわりのよい実力をたくわえ、元氣一ぱい仕事の出来る壮年宇部、そのたのもしい姿が、われらの郷土なのである。

この市に生れ、この市に育った人々はいまでもなく、よそからこの市へ移り住んで、この市を郷土にした人々も、同じように宇部人ではある。しかし、ほんとうの「宇部人」というのは、単に宇部を郷土とするというだけでよいわけではない。あくまでも、私たちの住む宇部を愛し、その立派な成長と発達をねがい、そのおかれた位置に応じて、各々が心からの正しい協力を捧げる人々、そう云う人が、真の「宇部人」ということになるのである。

とりわけ、この郷土宇部をうけついで行く、小中学校の児童生徒のみなさんこそ、ほんとうの「宇部人」に育てていただきたいと思うのである。祖父母の時代や、父母の時代にまけないよい宇部を、やがて建設するのがみなさんである。「立派な郷土宇部をどうしたら建設出来るか。」という問題は、学校の社会科で、一番はじめにとりあげられなければならない単元であって、この基礎的な単元をどのようにとりあつかったらよいのか、みなさんにおききしたいものである。

それには宇部市のことをほんとうによく考えてみななければならない。宇部のむかしは一体どうなっていたのか、現在はどうか、将来はどうかあるべきだろうか。みなさんは、お友だちと校庭の木かげや、教室の机や、図書室の隅で話合ったことがあろう。そのとき、みなさんは、きつといくつかの問題に出あったにちがいない。先生におききしたり、お父さんやおじいさんにおたずねしたこともたびたびだたであろう。そして、先生やお父さんおじいさんを困らした問題もいくつかあったにちがいない。この「宇部読本」は、実はみなさんに郷土宇部を研究する資料（もとになるもの）を提供したつもりである。

さて、宇部のことを考える前に、まずあなたが自身のことを考えてみる必

要があろう。たとえば「近頃宇部にはよくない子供が多い。」というようなことばがあるが、それがほんとうだったら大変である。そんないやなことばをきかないように、宇部の子供たちは、みんな仲よくたすけあって、しかもいましめあって、よい子になっていただかなければならないのである。「もっとよく手をつなごう。」これが、身近かに、みなさんに投げかけられる問題である。

宇部は「鉱工都」とも云われている。鉱業と工業で発達したからである。然しこの頃では単に鉱工業だけではなくて、ひろく「産業宇部」と云われるようになっていくようである。このことは宇部市の将来を暗示するものであって、鉱から工へとその領域を拡めたばかりか、それを基礎として、あらゆる産業へ躍進しようとする前夜に達している言葉である。

宇部は人口がふえる。もう14万になった。毎日、近接の町村から、通勤してくる人を合わせたら、15万を、はるかにこえているにちがいない。市内の各駅から吐き出される多くの人や、通勤時の満員バスをみると、どうしてこのように人が集ってくるのだらうかとだれも思うであろう。このことは、やっぱり産業宇部の実力を物語っているものといってよい。

人の往来だけではなく、トラックや貨物列車がどのようにたくさん通っているか、宇部港に出入する大小さまざまな船が、何をどのように運んでいるか、あわせて考えてみななければならない。宇部市の道路をもっと広いものに建設することがなぜ必要であるか、水深わずか3mしかない宇部港を9m深さに改造しなくてはならぬわけは、どんなところにあるか、このことが、宇部の産業の現在と将来に、どんなに大切なことであるかといったようなことを、さきからにする必要がある。

人が次第に多くなることに関連して、衣食住の問題が起ってくる。食はともかくとして、食住がどのようにして供給されなければならないか、宇部の農産物や、隣接町村の農業漁業のありかたが、間接に市の発展に与り大きな役割があることが考えられてくる。従って野菜や米や魚の生産がどのようにあらねばならないかといったようなことに、考えをもっていくとおもしろい研究がされるであろう。住宅などの問題もそうである。今日のように住宅が不足では、宇部の産業人の能率というものを、大きく低減させているのではあるまいか。だからといって、バラック建てをたくさんふやせばよいということにはならない。

そんなところも考えてみる必要がある。

年々多くなる宇部人の、子弟の教育はどのようになければならないか、とりわけ産業都市としての学校教育と社会教育のことを考えてみても、内容とかたちの上で、もっともっと拡充しなければならぬ部分がたくさん出てくると思うがどうであろうか。市当局の方々もPTAや先生方も、それから児童生徒のみなさんも、もっともっと、なすべきことがありそうに思えてならない。

さて宇部市の文化の水準を、どのように高めなければならないかということが残る。教育とか文化とかということは、いきいきした産業都市などでは、とかく無用のようにみられている場合が多いものである。しかし、それはまちがいで、むしろ産業都市だからこそ、教育とか文化とかというものが、重要視されなければならないのだということも、考えてみる必要がある。

古いことばであるが「物心一如」という教えがある。物の面と心の面が表裏一体であるということは、世のなかのすべてのものが健全なすがたを保っているために、最も大事な、云わば要素なのである。物の面では、どんなに大きな事業を成しとけても、それを裏づける心の面が伴わなかったら、その終局というものが、どのように惨めなものであったかということは、歴史上の多くの事実が教えてくれるところである。

しかし、用心しなければならぬことは、物の面と心の面は、ややもすると、かけ離れたものになりがちなことである。もし、物の面と心の面が著しく、かけはなれたものであったなら、そのどちらかが不健全か、またはどちらも不健全な発達をして来たものとみていい。だからあくまでも、事業の面と精神の面が、よく一致して、そのどちらも、たがいに扶けあい、押し進めあうものでなければならない。もし教育と文化が心の面を代表するものであるとすれば、「産業宇部」には、やはり産業宇部に一致する、健全で有力な、教育と文化が起って来なければならない。画一的な日本の教育と文化の上に、さらに宇部そのものの、のびのびとした教育と文化が建設されてよいはずである。今日、地域の教育といい、地域の文化というのもこれである。私たちの住んでいる宇部市に、健やかな地域の教育をうちたて、有意義な地域の文化をおこすのは、いったい誰であろう。ここでも、若い皆さんに期待するところが大きい。物と心、産業と文化、生産と教育、この本がみなさんの研究の資料となれば大きなよろこびである。(編集委員長 岩松文弥)

宇部読本の編集に参加した人たち

市になってから80年をむかえ、意義のある仕事をみんなでちからをあわせてやりたい一つのあらわれとして、この宇部読本をつくることが、昭和26年の4月に市内の小学校・中学校の先生たちへ発表されました。

各学校から代表の先生が集まって、宇部読本編さん審議会がつくられ、何をめあてにして、どんなものをつくるかを相談し、実際の仕事をおし進め、書きあらかず委員を次のように選び出しました。

教育課長	河合 宣	神原中学校長	岩松文弥
神原小学校教諭	師井恒男	常盤学園教諭	松本 繁
新川小学校教諭	富田雪子	恩田小学校教諭	藤里俊裕
神原中学校教諭	中山教真		

(後に調査や執筆のために、次の先生方も加わってもらいました)

神原中学校教諭 野村保雄・山藤智也・鈴木 方

委員の研究した方針、表題の題目などを、各校の代表の先生方のご意見で研究し、夏休みを中心にして、仕事を進めました。その間、各学校や市内のいろいろの方が、ちからをあわせてくださいました。9月から10月にかけて、いく度も原稿をかこんで議論をし、書きなおしをしました。10月に全文をガリ版に刷って、各校に配り研究してもらい、集まっていたきその批評や希望をききました。仕事を進めてゆくと、いろいろ疑問や希望が起り、むづかしいものでした。ようやく発行するようになりましたが、これもわずかの人たちのちからではなく、各学校や市内の人たち、昔の人たちの残しておいてくれたものによって出来あがったのです。これをもとにし、もういっそうよいものをつくり出したいと願っております。

昭和26年11月28日印刷

昭和26年12月1日発行

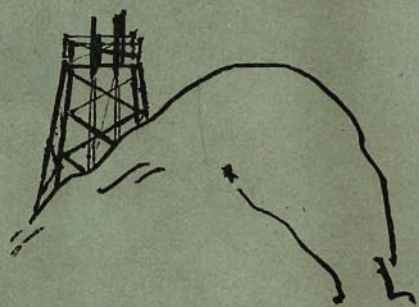
発行者 山口県宇部市教育課
編集者 宇部読本編集委員会
印刷者 大村印刷株式会社宇部出張所

宇部市幸芝通

宇部近傍地質図



鈴木會次・三原常治氏研究による



高良

正 誤 表

頁	段	誤	正	頁	段	誤	正
見返し	3,25	竹の子島	竹の小島	69	下より	6.5m	6.5km
裏	28	変っている	変ってきている	72	下より	1 8 9 4	1 8 9 2
ク	19	変ってきている	変っている	73	下より	472,672t	472,675t
ク	20	1 7 8 2	1 7 8 7	78	下より	1928 (昭和)	1928年 (昭和)
ク	26	(天明6)	(天明7)	ク	1	1949年	1945年
ク	ク	際 波	際 波	ク	ク	て阿知須に	阿知須に
2	1	篋 山	篋 山	97	下から	やめて	やめ
ク	22	(天明6)	(天明7)	ク	3	(大小路)	(尾)
ク	ク	1 7 8 6	1 7 8 7	ク	2	ごぼう非常に	トル
5	17	天明7年 (1787)	1787年 (天明7)	ク	1	使者杜忠世	使者杜世忠
ク	ク	則 真	則 貞	107	2	(正平13)ヲ上ニツケル	
9	8	1931年	1932年	110	15	松 汗 山	松 江 山
13	23	KM ²	km ²	ク	26	天 正 元	天 正 9
14	1	を古第三紀	で古第三紀	111	6	ク	ク 8
22	17	哺乳類時代)を	哺乳類時代)で	ク	下より	ク	ク 3
23	7	表ノ下ニ入レル	(日本鉱業史より)	ク	10	1683-	1783-
ク	ク	仏	仏	112	ク	防長一州	防長二州
25	11	(41ページ)	(44ページ)	113	16	同志社英教	同志社英学校
26	15	うつしたもの。	うつしたもの。	114	22	和田善之介	和田喜之介
ク	ク	99.08km ² と	75.5km ² と99.0	ク	下より	1900 35	1900 33
33	下より	75.5km ²	8km ²	ク	7	1901 34	1901 34
ク	下より	機械化に	機械化は	ク	20	1906 39	1906 39
41	下より	えびやし	えびし	ク	ク	ノ上ニ	ノ上ニ
42	6	市広報課主催の	ヲトル	ク	31	いく用水路の改	修工事をはじめ
54	5	イモ 棒	イモ 棒	116	下より	富田雪子	富田雪子
55	表	1,800km	1,052km	ク	6	富田雪子	富田雪子
65	下より	助田通	助田町	奥付の	10		
68	下より			頁			